

令和5年度国内石油天然ガス地質調査・メタンハイドレート研究開発等事業
(上流開発企業の総合エネルギー産業への転換に向けた人材育成・確保事業)

事業報告書

Be geared to expand
your business

Gears

@Gears Co.,Ltd

1. 事業の目的・概要等

- 1.1 事業目的、実施計画・・・4
- 1.2 事業の実施方針・・・5

2. 「エネキャリ」概観

- 2.1 ターゲット詳細・・・10
- 2.2 コンセプト、コピー、ロゴ・・・11
- 2.3 イベント実施スケジュール・・・13

3. 各プログラムの内容

- 3.1 第1回・・・16
- 3.2 第2回・・・23
- 3.3 第3回・・・30
- 3.4 新潟フィールドワーク及びグループワーク・・・37
- 3.5 第4回・・・44
- 3.6 第5回・・・51
- 3.7 第6回・・・58
- 3.8 北海道フィールドワーク・・・65
- 3.9 プレゼンテーション・・・71
- 3.10 イベント・・・77

4. 情報発信について

- 4.1 広告運用レポート・・・84
- 4.2 制作物一覧・・・88
- 4.3 広告運用結果・・・92

5. 「エネキャリ」の実績と成果

- 5.1 告知・募集実績・・・95
- 5.2 参加実績・・・96

6. 全体評価

- 6.1 参加者評価・・・99
- 6.2 協力企業評価・・・104
- 6.3 全体評価のまとめ・・・110

1

事業の目的・概要等

※入札提案書より抜粋

事業目的

我が国の石油・天然ガスを巡る情勢は大きく変化しており、エネルギーセキュリティの重要性はこれまで以上に増している。同時に、気候変動問題への対応が世界的に注目される中、我が国においても、2050年カーボンニュートラル（以下「CN」という。）実現に向けて、水素、アンモニア、CCSといった脱炭素燃料・技術への投資を進めている。

このような状況において、石油・天然ガスの上流開発企業は、足下の石油・天然ガスの安定供給確保と将来的な脱炭素燃料・技術の導入・拡大を図るため、「総合エネルギー産業」へと更なる成長を果たしていくことが求められており、これらを実現する上で、新たな挑戦を可能とする人材の育成・確保が必要不可欠となっている。

上流開発企業が「総合エネルギー産業」へと変革を遂げるために必要な人材を育成・確保するためには、上流開発企業がエネルギーセキュリティ確保において果たす役割・重要性（エネルギーセキュリティにおける石油・天然ガスの重要性含む）、官民の取組等、石油・天然ガスを巡る動向・現状について正確な情報を、学生等に対して発信することで、学生等若年層の理解促進（人材育成）を図り、石油・天然ガス業界への関心を高める（関心を有する層の拡大を図る）ことが必要不可欠である。

そのため、本事業では、上記の趣旨に鑑み、我が国のエネルギー安定供給及びCN実現に向けて、上流開発企業の「総合エネルギー産業」への転換を支える多様かつチャレンジ精神あふれる人材の獲得に資する石油・天然ガス業界の情報発信を目的とする。

実施計画

昨今の状況を踏まえ、上流開発企業全体として、所謂「総合エネルギー業界」への転換に向けた人材育成・確保の検討及び取組を2021年度から実施。

2021年度には、石油鉱業連盟において、入社10年目程度までの会員企業15名、経産省6名から成るワーキンググループを設置し、今後の業界として取り組むべきアクションプラン（例：映像広報、学校教材、E&P関連施設等視察、大学講座等）を検討、提案した。

2022年度には、上記アクションプランも踏まえ、石油・天然ガスのエネルギーセキュリティ上の重要性や上流開発企業等の各種取組を発信するための映像広報やE&P関連施設視察、大学での特別講座などを実施するとともに、国、独立行政法人及び石油・天然ガス上流開発企業・団体から成る検討会を開催し、人材育成・確保に向けた今後の具体的方策について意見交換を実施。

これまでの取組や検討結果を踏まえ、「総合エネルギー業界」への転換に向けた人材育成・確保において、大学・大学院生を対象とした事業を実施することが最も効果的と考えられることから、令和5年度は、石油・天然ガス業界への就業意識醸成に向けた自主講座開設等、石油・天然ガス業界の魅力を認識してもらうための自主講座を後期から開設（講座回数は月2回程度（計8回程度））するとともに、自主講座受講生のうち一定条件を満たした学生に対して、2回程度の現場見学フィールドワークを実施する。講座や現場見学フィールドワークはリアルだけでなく、オンラインでの配信やWEBでの記事化、動画化などを行い広く認知を行う。

事業の実施方針

上流開発企業の「総合エネルギー産業」への転換を支える多様かつチャレンジ精神あふれる人材の獲得に資する石油・天然ガス業界の情報発信を目的とした、アクションプランを下記のポイントを考慮して、立案・実行する。

エネルギー業界の大局を学ぶ

- エネルギー業界の専門家や資源エネルギー庁職員の講座と対話を通して、気候変動、世界・日本のエネルギー事情から、1次エネルギーの重要性、エネルギー政策、世界の動向などの大局を学ぶ

企業からリアルを学ぶ

- エネルギー業界の企業から、最新の取組を学ぶとともに、第一線で活躍する現場社員からエネルギー業界で働く魅力・醍醐味を学ぶ

現場から学ぶ

- エネルギー現場へフィールドワークを実施し、取組から実務的洞察を学ぶ

未来をえがく

- エネルギーの安定供給確保とカーボンニュートラル実現の両立に向けた各人の思い、考えを共有する場を設ける

事業で達成すべきポイント

本事業により、「未来のエネルギー開発への挑戦」に向けたトレンドを醸成し
「未来を担う人々」を惹きつけ、業界革新へつながる環境を提供する

■ポイント①

グローバルトレンドを理解した上で、日本のエネルギー業界の複雑性を学び、多様な学生達へエネルギーの重要性を理解させる機会を醸成する。

- ・ エネルギー業界への理解
- ・ エリアに制限されない学生への学びの機会
- ・ コミュニティの創出

■ポイント②

エネルギー業界の実際の働き方を体感し、業界の現場で活躍するキャリアを考えるチャンスを創出。企業の取組や成功事例を理解し、学生に“未来”を支える業界という憧れを醸成する。

- ・ エネルギー現場へのフィールドワーク
- ・ 企業理解の機会の創出
- ・ 第一線で働く人々との交流機会

■ポイント③

エネルギー業界の未来に対する希望を喚起し、学びを具体的な行動へと転換する舞台を整備。参加者が情熱を持って情報を発信し、業界の新たなトレンドを生み出す環境を創造する。

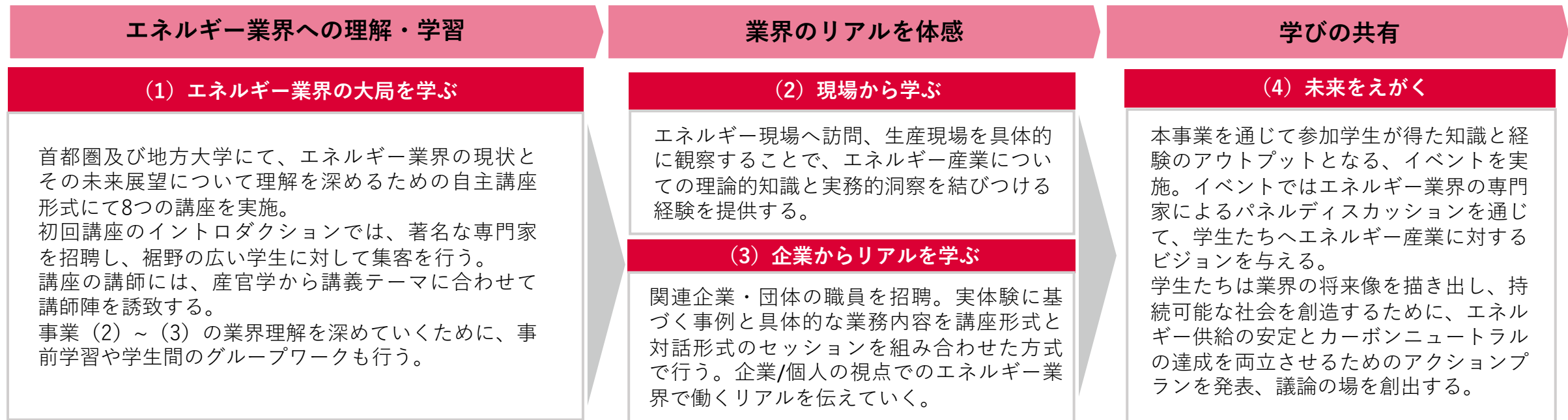
- ・ 参加者自身が自ら考え発信する機会
- ・ 情報発信のトレンドを生む設計

Key Success Factor

- 首都圏/地方での講座の実施
- 参加者間のコミュニティの創出
- 業界の現場で活躍するキャリアとの交流
- エネルギー生産現場でのフィールドワーク
- 業界の未来を見据えるイベント提供
- トレンドとなる情報発信

事業の全体像

「エネルギー業界」に関する学習コンテンツを創出し、業界理解を深め、業界への憧れを醸成し、人材確保に向けた長期的なトレンド創出を展開していく



ストック型コンテンツの制作・コミュニケーションプラットフォームの創出

本プログラムの全体像が途中参加/本事業の終了後の学生に対しても業界への理解を深める、動画、記事コンテンツを制作。各施策で制作した情報を掲載するWebサイトを作成。本事業中の参加学生間での参加意欲を高めるため、オンライン上のコミュニケーションの場を提供する。

業界への興味を惹く

政策を理解する

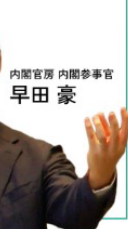
事例から技術を理解する

(4) 未来をえがく

(1) エネルギー業界の大局を学ぶ

2023年10月5日

講義①
エネルギー概論 1
エネルギーと安全保障



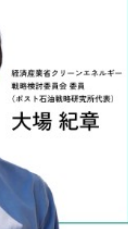
いま知っておきたい
エネルギーセキュリティ

講義内容

ロシアのウクライナ侵略によるエネルギー情勢不安を切り口に、エネルギーと安全保障との強固なつながりについて学びます。

2023年10月22日

講義②
エネルギー概論 2
世界のエネルギー動向



世界トレンドから読み解く
日本のカーボンニュートラル

講義内容

世界のエネルギートレンドを理解し、日本が抱える複雑な状況の中でカーボンニュートラルを実現していくことの難しさを学びます。

2023年11月4日

講義③
エネルギー概論 3
エネルギーをめぐる旅



現代社会の化石燃料問題を
文明史からひも解く

講義内容

文明の歴史とそこでの化石燃料が果たした役割を学び、現代社会が陥った問題の本質を学びます。

2023年11月18日

講義④
日本の資源外交政策



日本のエネルギーを守る
政府の打ち手とは

講義内容

国内に石油・天然ガスを安定的に供給するために、政府としてどのような政策を打ち出しているのかを理解します。

2023年12月2日

講義⑤
エネルギーの
安定供給への挑戦



安定供給のカギを握る
上流開発を知る

講義内容

石油・天然ガス資源の商流について、特に上流開発と呼ばれる川上の分野で、企業がどのように事業を行っているのか理解を深めます。

2023年12月9日

講義⑥
エネルギー業界の
新しい取り組み



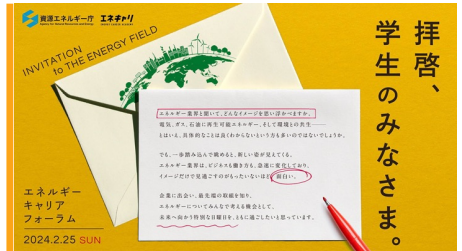
CCS・CCUS が導く
カーボンニュートラル

講義内容

気候変動問題に対する総合エネルギー業界の考え、対応策を学びます。またCCSやCCUSなど次世代の技術についての理解も深めていきます。



「上流開発企業が2050年に向けて【エネルギーの安定供給確保】と【カーボンニュートラル達成】を両立しつつ「収益の最大化」を実現するための事業計画を立案します。



これまでのイベントに参加していない学生に対してもエネルギー業界の魅力を伝え、働き方と業界の未来について理解を深める場を創出します。

(2) 現場から学ぶ

(3) 企業からリアルを学ぶ



11/17 fri.
リアル開催
南長岡ガス田
直江津LNG
日本最大級のガス田「南長岡ガス田」および直江津LNG基地を訪問。施設見学や現場社員との交流を行います。



11/11 thu. - 12 fri.
リアル開催
苫小牧CCS実証試験センター
勇払プラント
CCS実証試験を行う施設や、港内で生産したガスをパイプラインへ送るプラントを訪問。施設見学や関係者との交流を行います。



石油・天然ガスの関連企業に企業の役割や仕事の魅力を発信いただき、講座後は学生との個別相談ブースを設け、更なる理解を深めます。

2

「エネキャリ」概観

各ターゲット規模と訴求軸

ターゲット	各ターゲット想定規模	訴求軸
大学1年生～2年生（理系文系問わず） 	想定ターゲット数 883,804人 ※ ・ 現段階でキャリアを明確に意識をしていない。 ・ 仕事の領域や業界などの大きなテーマ軸に関心があり、働き方や業務内容についてはあまり関心を持っていない。 ・ 変革期にある業界や社会的に意義があることに対して期待を持つ。	憧れの醸成 ・ 講座全体が関心を損なわない形で学びを深めることのできる場を訴求 ・ 「カッコいい社会人」との接点を提供して、業界・企業への憧れを醸成する
大学3年生～4年生（理系文系問わず） 	想定ターゲット数 930,311人 ※ ・ 様々な業界・職種を検討している。 ・ 企業説明会やインターンシップの参加で企業との接点を形成する。 ・ 石油・天然ガスの業界展望や働き方に対して具体的なイメージを持つことが出来ていない。	キャリア像の具体化 ・ 選択肢を広げられる場として集客で訴求 ・ 社員との接点やその後のインターンシップへの導線を明確化する。
大学院生・博士（理系） 	想定ターゲット数 89,253人 ※ ・ 身近なコミュニティが研究室のみと少ないことから、所属研究室の過去の就職実績に大きく影響を受ける。 ・ 教授/先輩からの紹介、リクルーターの営業によって企業との接点を形成する。 ・ 研究もあり就職活動に割ける時間が短いことから、就活短縮のインセンティブあり。	接点の形成 ・ 研究室ベースでチャンネルを捉え、集客広報を行っていく ・ 社員との接点やその後のインターンシップへの導線を明確化する。



「Energy」＋「Career」＋「Academy」を組み合わせた造語

学生向けの本事業のコンセプトとして、学生たちにとって興味関心の高い、就職につながる学びの場でありつつも、自身のキャリアに活かせるエネルギー業界の知見が得られる場と定義。

そういった背景から、学生視点から見て分かりやすく、ポジティブな印象を与えるための、

エネルギー業界に関する内容であること／学生に向けたスタディプログラムであること

／カッコよさや洗練、身近、ポップさなど、若年層にとって魅力的な印象を与える語感、字面であること

／長く難しい、耳慣れない単語は避けること

といった要素を踏まえ作成。

未来を守る、攻めの学びを。

エネルギー危機下におけるエネルギーセキュリティ確保。

カーボンニュートラル実現に向けた取組。

エネルギー業界は、今、大きな変革期を迎えている。

だからこそ、急速に進化するこの業界を知ることは、
これから社会に飛び込む上で、かけがえのない経験になる。

世界・日本の最新のエネルギー動向を学ぶ特別講義、

第一線で活躍するプレイヤーたちとの交流、

エネルギーの未来を生み出す最先端施設でのフィールドワーク。

多彩なプログラムを通じて得られる、発見とワクワク。

それは君のキャリアの大きなヒントになるはずだ。

未来を守るのは、今を知り、可能性に挑む攻めの姿勢。

私たちの生活、そして地球の未来を担う

次世代のイノベーターを育成する学校

「エネキャリ」開校。



エネキャリ
ENERGY CAREER ACADEMY

メインコピー

学びの場、学習機会という側面を重視して選定。エネルギー業界の未来への可能性と生活インフラとしての使命感を感じさせるねらいが込められている。

ボディコピー

冒頭の2段落は参加者向けにプログラムの全体感と参加によるメリットを伝える意図で策定。最後の段落はメインコピーに対応する形で、期待感を醸成し、参加を促す意図で策定。

ロゴ

配色は多様な学びの機会と全国から集う多様な学生の仲間を表すため多色で構成。円形を成す図形はアカデミックな意味合いを想起させるための大学帽のあしらい。

5ヶ月間に渡って、全国各地で講義やイベントを実施

第1回	第2回	第3回	新潟FW	第4回	第5回	第6回	北海道FW	プレゼン	イベント
10/5	10/22	11/4	11/17	11/18	12/2	12/9	1/11,12	2/9	2/25
経済産業省	東京大	東北学院大	長岡市上越市	新潟市	慶應義塾大	関西学院大	苫小牧市	経済産業省	日本科学未来館



2023年11月18日

講義④
日本の資源外交政策

日本のエネルギーを守る
政府の打ち手とは

平井 貴大

11/17 fri.
リアル開催

南長岡ガス田
直江津LNG

日本最大級のガス田「南長岡ガス田」および直江津LNG基地を訪問。施設見学や現場社員との交流を行います。

2023年11月4日

講義③
エネルギー概論 3
エネルギーをめぐる旅

現代社会の化石燃料問題を
文明史からひも解く

古館 恒介

2023年10月5日

講義①
エネルギー概論 1
エネルギーと安全保障

いま知っておきたい
エネルギーセキュリティ

早田 豪

2023年12月9日

講義⑥
エネルギー業界の
新しい取組

CCS・CCUSが導く
カーボンニュートラル

松岡 俊文

2023年12月2日

講義⑤
エネルギーの
安定供給への挑戦

安定供給のカギを握る
上流開発を知る

阿久津 亨

2023年10月22日

講義②
エネルギー概論 2
世界のエネルギー動向

世界トレンドから読み解く
日本のカーボンニュートラル

大場 紀章

挑め、すべての経験を
エネルギーにして。
ADVANCE INTO THE FUTURE !!

2024.2.9 FRI

INVITATION
TO THE ENERGY FIELD

学生のみなさま。

2024.2.25 SUN

3

各プログラムの内容

講義満足度 9.2 / 8.7

2023年10月5日

講義①
エネルギー概論 1
エネルギーと安全保障

内閣官房 内閣参事官
早田 豪

いま知っておきたい
エネルギーセキュリティ

<講義理解度>
8.5 (対面) / 8.1 (オンライン)
<講義満足度>
9.3 (対面) / 8.7 (オンライン)
<グループワーク理解度>
8.0 (対面) / 6.2 (オンライン)
<グループワーク満足度>
8.3 (対面) / 5.4 (オンライン)

P.16

講義満足度 9.2 / 9.1

2023年10月22日

講義②
エネルギー概論 2
世界のエネルギー動向

経済産業省エネルギー政策課
エネルギー政策課長
(ポストエネルギー戦略研究代表)
大場 紀章

世界トレンドから読み解く
日本のカーボンニュートラル

<講義理解度>
8.9 (対面) / 8.5 (オンライン)
<講義満足度>
9.2 (対面) / 9.1 (オンライン)
<グループワーク理解度>
8.5 (対面) / 8.0 (オンライン)
<グループワーク満足度>
8.3 (対面) / 8.1 (オンライン)

P.23

講義満足度 8.7 / 9.0

2023年11月4日

講義③
エネルギー概論 3
エネルギーをめぐる旅

「エネルギーをめぐる旅」
一文の歴史と私たちの未来」
著者
古館 恒介

現代社会の化石燃料問題を
文明史からひも解く

<講義理解度>
8.4 (対面) / 8.6 (オンライン)
<講義満足度>
8.7 (対面) / 9.0 (オンライン)
<グループワーク理解度>
8.5 (対面) / 8.1 (オンライン)
<グループワーク満足度>
8.4 (対面) / 7.9 (オンライン)

P.30

全体満足度 9.4

11/17 fri
リアル開催

南長岡ガス田
直江津 LNG

日本最大級のガス田「南長岡ガス田」および
直江津 LNG 基地を訪問。施設見学や現場社員との
交流を行います。

<総合評価>
9.4
<施設別満足度>
9.1 (南長岡) / 9.6 (直江津 LNG)
<グループワーク満足度>
8.9

P.37

講義満足度 9.3 / 7.8

2023年11月18日

講義④
日本の資源外交政策

資源エネルギー庁資源課課長
平井 貴大

日本のエネルギーを守る
政府の打ち手とは

<講義理解度>
8.9 (対面) / 7.4 (オンライン)
<講義満足度>
9.3 (対面) / 7.8 (オンライン)
<グループワーク理解度>
8.7 (対面) / 7.3 (オンライン)
<グループワーク満足度>
8.9 (対面) / 7.4 (オンライン)

P.44

講義満足度 8.6 / 9.0

2023年12月2日

講義⑤
エネルギーの
安定供給への挑戦

公益社団法人石油学会
教育委員
阿久津 亨

安定供給のカギを握る
上流開発を知る

<講義理解度>
8.6 (対面) / 8.4 (オンライン)
<講義満足度>
8.6 (対面) / 9.0 (オンライン)
<企業の取組紹介理解度>
8.5 (対面) / 8.4 (オンライン)
<企業の取組紹介満足度>
8.2 (対面) / 8.5 (オンライン)

P.51

講義満足度 8.9 / 8.8

2023年12月9日

講義⑥
エネルギー業界の
新しい取組

CCS・CCUS が導く
カーボンニュートラル

京都大学名誉教授
公益社団法人石油学会常務理事
松岡 俊文

<講義理解度>
8.9 (対面) / 8.5 (オンライン)
<講義満足度>
8.9 (対面) / 8.8 (オンライン)
<企業の取組紹介理解度>
8.3 (対面) / 8.1 (オンライン)
<企業の取組紹介満足度>
9.0 (対面) / 8.4 (オンライン)

P.58

全体満足度 9.8

1/11 thu - 12 fri
リアル開催

苫小牧 CCS 実証試験センター
勇払プラント

CCS実証試験を行う施設や、道内で生産したガスを
パイプラインへ送るプラントを訪問。施設見学
や現場社員との交流を行います。

<総合評価>
9.8
<施設別満足度>
9.2 (苫小牧市職員) / 8.7 (JAPEX)
9.2 (出光) / 9.7 (苫小牧 CCS)
<グループワーク満足度>
9.3

P.65

グループワーク満足度 9.0

最終プレゼンテーション
2024.2.9 FRI

挑め、すべての経験を
エネルギーにして。
ADVANCE INTO THE FUTURE!!

<ワークショップ満足度>
9.0
<プレゼンテーション満足度>
7.9

P.71

全体満足度 9.1 / 9.0

INVITATION
TO THE ENERGY FIELD

学生のみなさま。

エネルギー
キャリア
フォーラム
2024.2.25 SUN

<全体満足度>
9.1 (対面) / 9.0 (オンライン)
<参加前の業界への理解・志望度>
2.9 (対面) / 2.9 (オンライン)
※5段階評価
<参加後の業界への理解・志望度>
3.5 (対面) / 3.4 (オンライン)
※5段階評価

P.77

2023年10月5日

講義①

エネルギー概論 1
エネルギーと安全保障

いま知っておきたい

エネルギーセキュリティ



経済産業省
資源エネルギー庁
Agency for Natural Resources and Energy



エネキャリア
ENERGY CAREER ACADEMY

内閣官房 内閣参事官

早田 豪



エネルギー概論 1 エネルギーと安全保障

■タイムライン

	項目	担当者
13:00	会場施設案内・タイムスケジュール案内 10分	運営事務局
	オリエンテーション 10分	資源エネルギー庁
14:00	講義① エネルギー概論 1	早田 豪氏
	講義 80分	
	質疑応答 10分	
15:00	休憩 10分	
	グループワーク 50分	早田 豪氏 資源エネルギー庁職員
16:00	講評 20分	早田 豪氏

■開催日程

2023年10月5日(木)

■講義開催場所

経済産業省 講堂

講義目的

ロシアのウクライナ侵略によるエネルギー情勢不安を切り口に、改めて石油・天然ガス資源と国際平和のつながりを考え、資源外交の果たす役割の重要性を確認すること。

到達目標

- エネルギーは世界の動きを握る重要な観点であり、世界平和の実現のために、どのようにエネルギーと向き合わなければならないかを考えることはとても重要なことだと実感している状態
- 多面的にエネルギーを捉え、知らないことを理解した上でエネルギーと向き合うことが面白いと感じている状態
- 政策的な石油・天然ガスの重要性については理解した上で、化学的見地や技術的な側面など、石油・天然ガスがより具体的にどんな資源なのか関心を持っている状態。

登壇講師

早田 豪氏 内閣官房 内閣参事官（国家安全保障局）

<求める役割>

- 歴史や国際政治などユニークな観点からエネルギーの重要性について話ができる方。
- エネルギーの専門家として、現代ではどんなエネルギーをめぐる動きがあるのかを理解している方。
- エネルギー地政学等、政策的な観点からエネルギーと国際安全保障等の知見に詳しい方。

オリエンテーション

井上 加代子氏 経済産業省 資源エネルギー庁 資源開発課

本事業の担当者。開催に至った背景・思いと、本事業全体の流れについての説明。

エネルギーと安全保障の強固なつながりについて理解するための仮想のワーク

グループワークの目的

講義中に述べられた、世界的なCNへの動きを踏まえた化石燃料への資源開発投資の減退に備えることや、ロシアによるウクライナ侵略後のLNG調達における供給源多角化の機能不全への反省などを踏まえた資源外交政策の立案を通して、講義目的の達成に貢献すること。

グループワークのテーマ

【世界をリードするLNG政策】
2050年までを見据えた上で、エネルギーセキュリティの観点から、昨今のエネルギーを巡る国際情勢を分析し、どの主体とどんな調整/交渉をすべきかを考えましょう。

使用したワークシート

【お題】エネルギーと安全保障の強固なつながりについて理解するための仮想のワーク

【社会背景】
ロシアのウクライナ侵攻は世界の LNG 輸出・輸入の状況を一変させた。
欧州はウクライナ侵攻への対抗措置として、ロシアからの天然ガスパイプラインでの調達を停止。ロシア以外からの調達が急務となり、本来アジア市場に供給されるはずであった LNG が欧州に行き先を変えている。

その結果アジアでは深刻な LNG 不足と価格高騰により、LNG 調達を断念せざるを得ない国もあった。しかしながら、欧州のように再生可能エネルギーのポテンシャルが豊富ではないアジア諸国は、多様なエネルギー源の確保はエネルギーセキュリティの観点から必須であり、特に化石燃料の中で GHG 排出量が最も少ない天然ガス（LNG）はカーボンニュートラル実現に向けたトランジション」エネルギーとしても重要である。

日本は世界最大級の LNG 輸入国であり、調達先の多様化に取り組んできた。
しかしロシアのウクライナ侵攻をうけ繰り広げられる「LNG 争奪戦」、主要生産国を取り巻く状況の変化など、安定的な調達見通しは立っていない。

【Mission】
そんな情勢下で、あなたのチームは資源エネルギー庁内で発足した LNG の資源外交政策を再検討するタスクフォースに任命された。

我が国固有のエネルギー制約と昨今のエネルギーを巡る国際情勢の変遷の中で、エネルギーセキュリティの観点から日本の LNG 調達戦略を考える上で、日本が世界の LNG 政策をどのようにリードすべきかを考えて提案してください。

エネキャリア

ENERGY CAREER ACADEMY

講義①
エネルギー概論1「エネルギーと安全保障」内閣官房 内閣参事官 早田豪氏
ワークシート② テーマシート

【出典】 経産省「化石燃料を巡る国際情勢等について」より抜粋
【出典】 Source: Rystad Energy GasMarketCube (Rystad Energy Base Case), Feb 2023

【世界をリードする LNG 政策】2050 年までを見据えた上で、エネルギーセキュリティの観点から、昨今のエネルギーを巡る国際情勢を分析し、どの主体とどんな調整・交渉をすべきかを考えましょう。

プランを一言で表すと： チーム名：

1 講座を踏まえて、押さえておくべき国際情勢について、4 つ程度ピックアップしましょう
Point メモを見返してみよう。地域のエネルギー政策の動向、天然ガス特有の事情、カーボンニュートラルの社会的動向等

2 日本のエネルギー安定供給実現のために調整、交渉すべき国や地域、機関等を指定してその内容を検討してみよう。
※アジア・ヨーロッパは必須です。

国、地域、機関	重要と考える理由 / 選択理由	相手の課題・状況	具体的な方針や施策	施策を経て目指したい状態
アジア				
ヨーロッパ				

エネキャリア

ENERGY CAREER ACADEMY

講義①
エネルギー概論1「エネルギーと安全保障」内閣官房 内閣参事官 早田豪氏
ワークシート② 【世界をリードする LNG 政策】アウトプットシート

Point 誰に何を働きかけるか、いつ行うべきか、相手に対してどんな利益を与えるかなど、できるだけ具体的に考えてみよう。

参考資料・メモシート

【参考資料】

世界の LNG 貿易（LNG 輸出）

世界の LNG 貿易（LNG 輸出）

エネキャリア

ワークサポーター

早田 豪氏
(内閣官房 内閣参事官)

井上 加代子氏
(資源エネルギー庁 資源開発課)

井上 加代子氏
(資源エネルギー庁 資源開発課)

第1回 「エネルギーと安全保障」 内閣官房 内閣参事官 早田 豪 氏

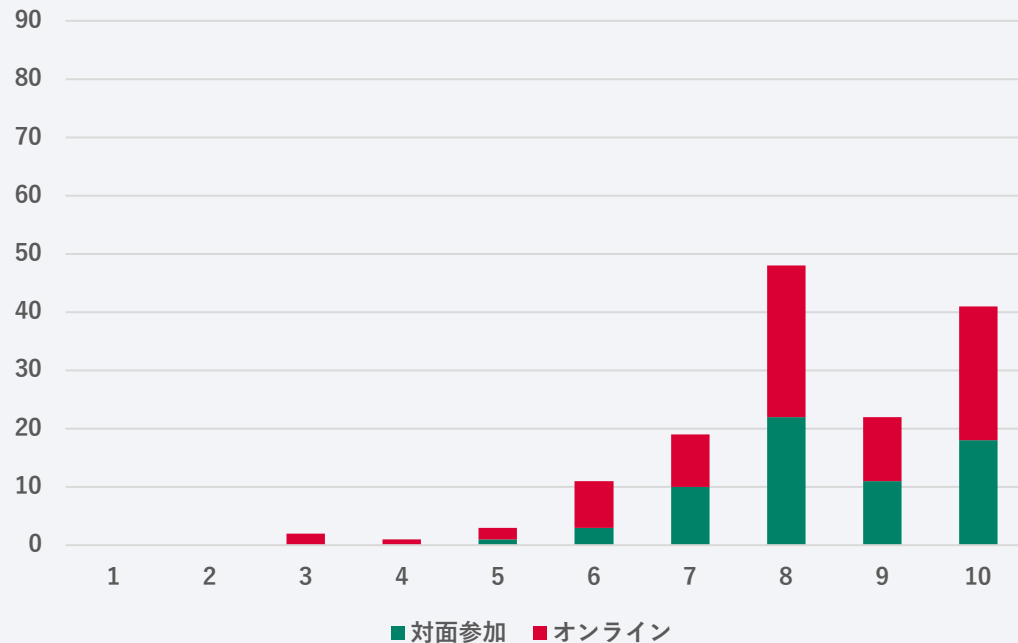
日時：2023年10月5日（木）13:00～16:30 場所：経済産業省講堂

対面 74 人

オンライン 114 人

講義理解度

対面参加者平均8.4（回答数65件） オンライン参加者平均8.1（回答数82件）

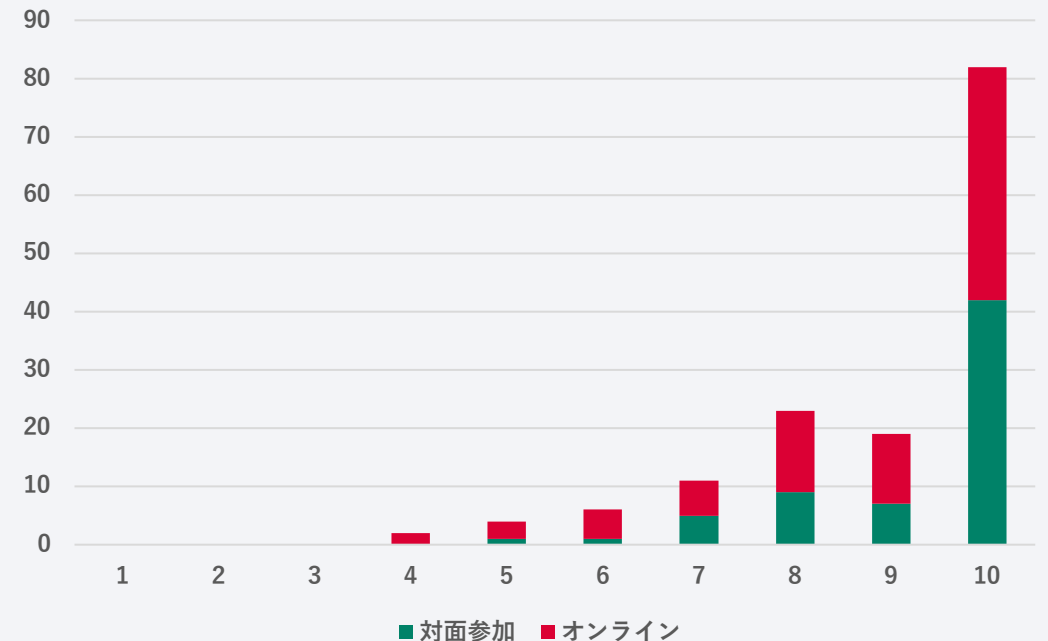


解説

初回で且つ高度な内容であったが、全体の理解度は8を越える結果となった。**適切に集客が行えていた**と言える。オンライン参加者の理解度が低い要因には、不安定な接続状況など運営上の課題が考えられる。

講義満足度

対面参加者平均9.2（回答数65件） オンライン参加者平均8.7（回答数82件）



解説

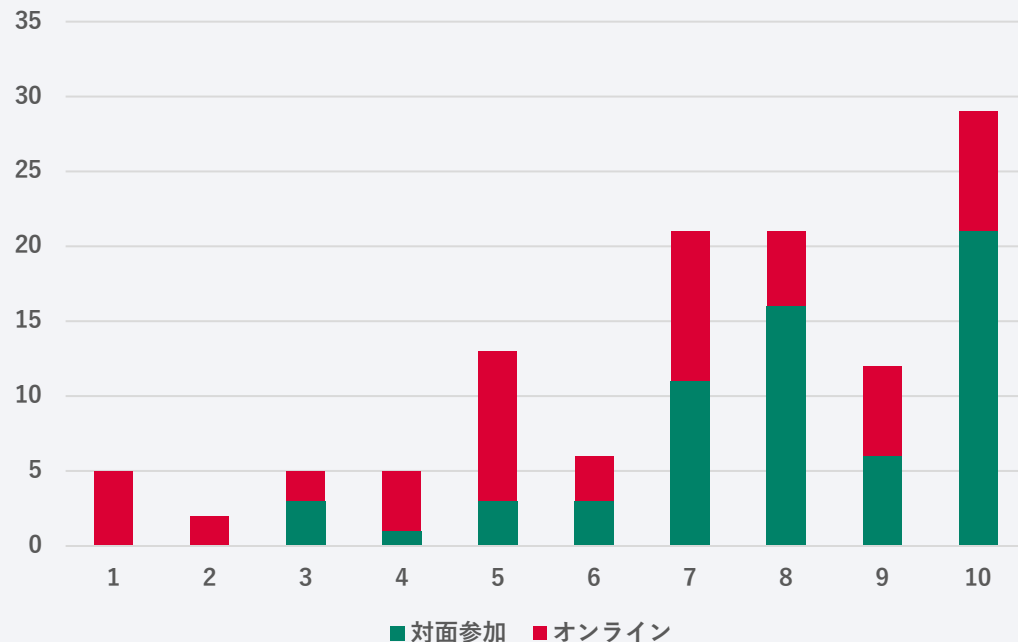
全体として、理解度に対して満足度がより高い数値であることから、難易度は高いが非常に学びのある内容であったと考えられる。なお、同様の理由でオンライン参加者の満足度は対面に比較し低い傾向を示した。

エネルギーと安全保障の強固なつながりについて理解するための仮想のワーク

【世界をリードするLNG政策】2050年までを見据えた上で、エネルギーセキュリティの観点から、昨今のエネルギーを巡る国際情勢を分析し、どの主体とどんな調整・交渉をすべきかを考えましょう。

グループワーク理解度

対面参加者平均8.0（回答数64件） オンライン参加者平均6.2（回答数55件）

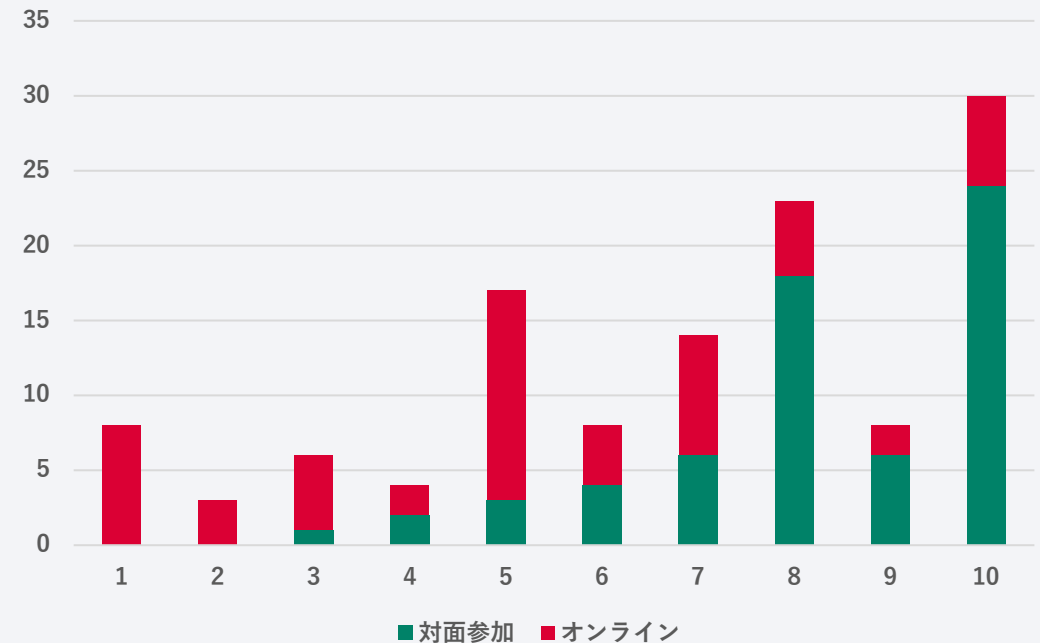


解説

グループワークの理解度は対面参加者は平均的には高い数値であった。オンライン参加者はそもそも上手くグループワークに参加できなかった人もいたため、理解度、満足度ともに低い値となった。

グループワーク満足度

対面参加者平均8.3（回答数64件） オンライン参加者平均5.4（回答数57件）



解説

対面参加者は高水準の満足度であった一方、オンラインの満足度は低調であった。最大の要因として、配信体制の不備により、ブレイクアウトルームに接続できない参加者がおり、グループワークに参加できなかった参加者がいたことが挙げられる。

参加者の感想（抜粋）

優良項目

- ・ <前略> ネットゼロ達成のために日本が東南アジア諸国と取り組んでいるAETIやATF関連のニュースに関心を持ち、**エネルギーの安定供給「S+3E」を維持しながら、再生可能エネルギーを導入する難しさ、課題等、次回以降の講義で学んでいきたいと思う。**
- ・ <前略> **各国がロシアに対して制裁している中で、なぜ日本はロシアに頼らなければならないのか疑問**に思っていたが、今回の講義で中国などの国へ安くロシアからLNGが供給されるのを防ぐためであるということを知って、世界の国々との**国家戦略の意味がある**ということを理解できた。
- ・ 現在の国際情勢としてはウクライナ情勢がかなり強い印象を与えてきているのに対して、現実には東南アジアのLNG不足やグローバルサウスなどのウクライナ情勢がきっかけとなったもの、リープフロッグなどの全く関係ないウクライナ情勢以前からの**イデオロギー、潮流など色々な要素が絡み合っていることを学べた**。グループワークの時になお実感したことだが、**問題が多くまた複雑に絡み合っている**のでまずなにから始めればいいのか考えるのが難しかった。
- ・ エネルギーが歴史的にどのような立ち位置にあり、いかに重要な意思決定要因となっていたのかの説明について、エネルギーは総合安全保障の一部に過ぎず、経済安全保障の現在の姿を支えているのだという理論的な理解にとどまっていた。しかし、真珠湾攻撃などの**重要な戦争の決定的要因になっていたことを新たに学ぶことができた**。
- ・ 日本のエネルギー問題に関して実際に省庁の方からお話を伺うことが出来る大変貴重な機会を通じて、**エネルギー政策がいかに国家にとって大切であるか**を改めて実感しました。
- ・ 日本は再生可能エネルギーのポテンシャルが高いとは言えないため、**LNGがいかに重要か**を学んだ。

要望

- ・ オンラインでのグループワークが**通信障害か何かの影響でうまくいかなかったため、十分に参加できませんでした**。
- ・ **対面参加とオンライン参加で資料共有に違いがあったのではないかと考えており、それにより講座の理解度の醸成にも違いが生じ、また、グループワークで議論できる素地がオンラインの場合、回線トラブル含めてほぼ皆無だった点が不満です**。

3.1 第1回（当日の様子）

第1回

第2回

第3回

新潟
FW

第4回

第5回

第6回

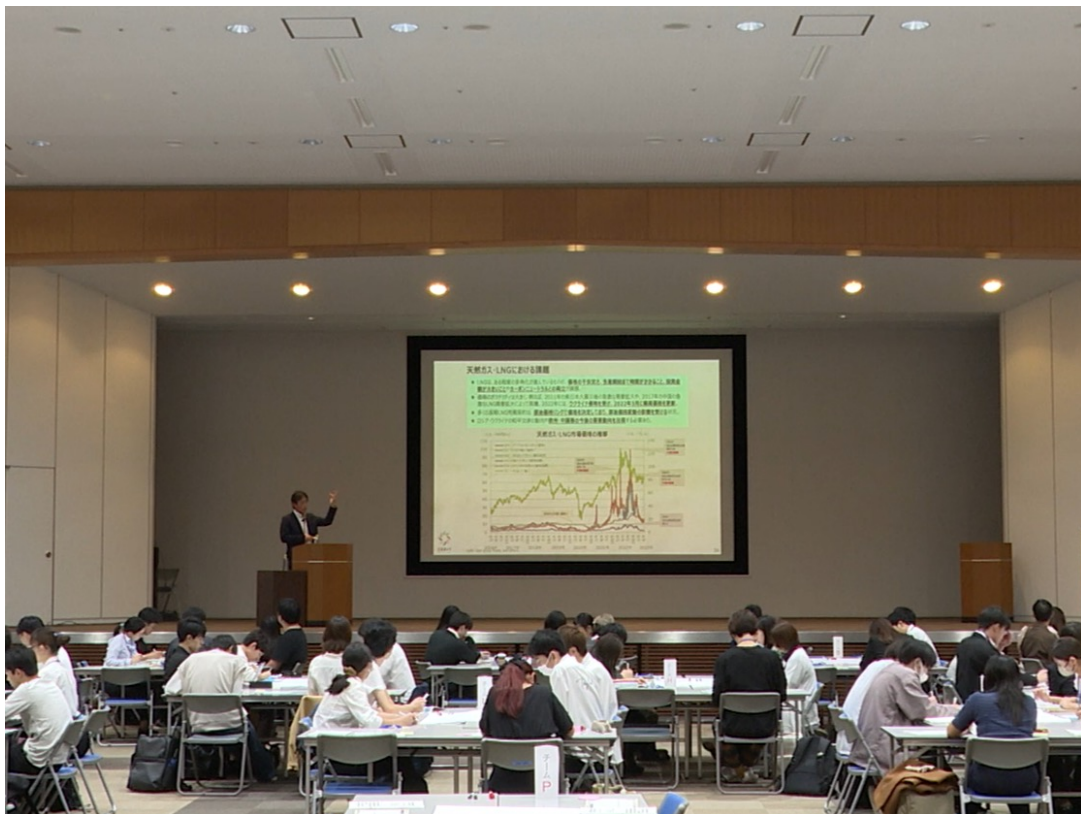
北海道
FW

プレゼン

イベント

@Gears Co.,Ltd

22



2023年10月22日

講義②

エネルギー概論 2 世界のエネルギー動向

世界トレンドから読み解く

日本のカーボンニュートラル



経済産業省
資源エネルギー庁
Agency for Natural Resources and Energy



エネキャリア
ENERGY CAREER ACADEMY

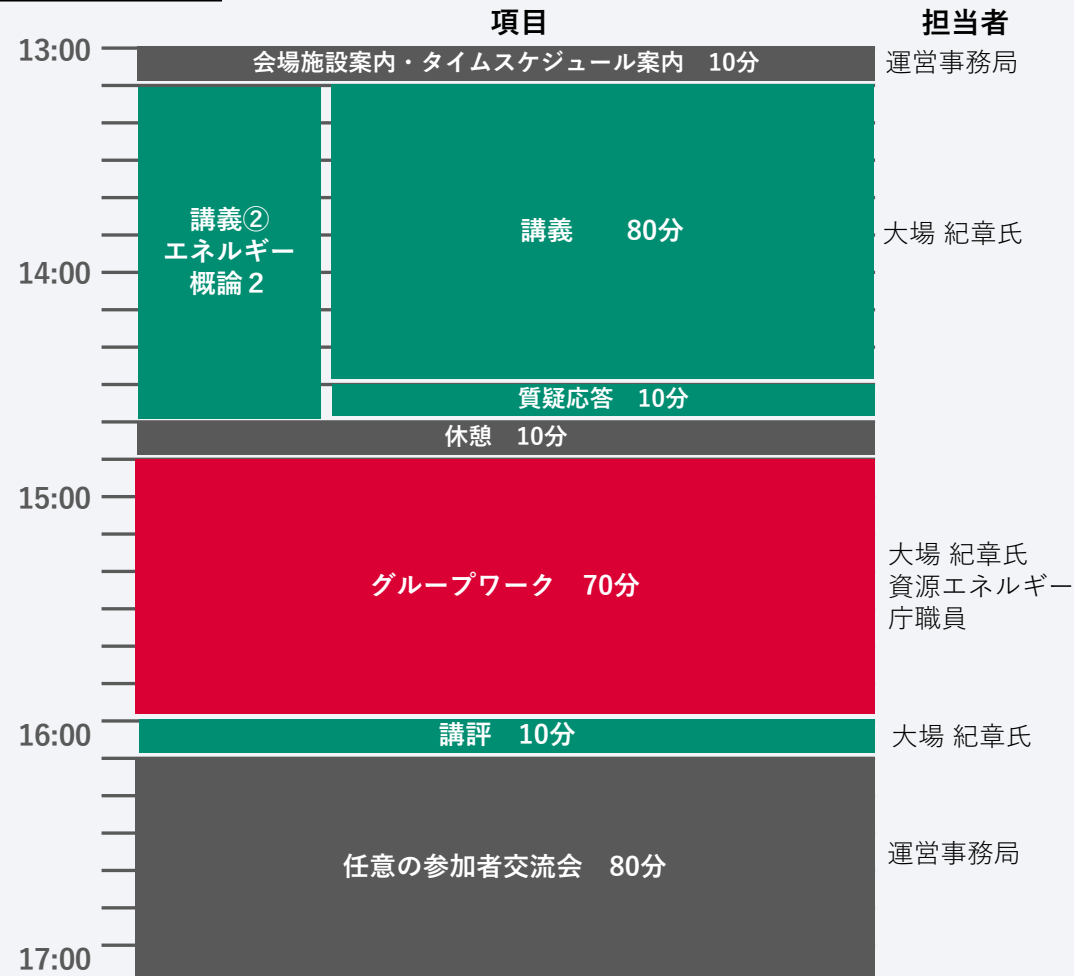


経済産業省クリーンエネルギー
戦略検討委員会 委員
(ポスト石油戦略研究所代表)

大場 紀章

エネルギー概論 2 世界のエネルギー動向

■タイムライン



■開催日程

2023年10月22日(日)

■開催場所

東京大学 HASEKO KUMA HALL

講義目的

世界に偏する石油・天然ガス資源をめぐり、揺れ動く国際事情への理解を深め、諸外国との対比を通して日本のエネルギー政策・資源調達政策、企業のカーボンニュートラルへのトレンドについて広く学ぶ。

到達目標

- 世界のエネルギートレンドを理解すること
- 日本においてカーボンニュートラルを達成することが難しい道のりである特有の事情を理解すること
- エネルギー問題と気候変動を混同せず、それぞれの問題を適切に理解すること

登壇講師

大場 紀章 氏 経済産業省クリーンエネルギー戦略検討委員会 委員
(ポスト石油戦略研究所代表)

ポスト石油戦略研究所公式ホームページ
<https://www.postoil.jp/>

ポスト石油戦略研究所 YouTubeチャンネル
<https://www.youtube.com/@postoiljp/videos>

大場紀章（エネルギーアナリスト）Xアカウント
https://twitter.com/nuribaon?ref_src=twsrc%5Egoogle%7Ctwcamp%5Eserp%7Ctwgr%5Eauthor

<求める役割>

- 各国のエネルギー政策の違いと特色を理解している方
- エネルギーに限らず諸外国の政情を理解している方

エネルギー安定供給の実現とカーボンニュートラル対応の難しさを体感するための仮想のワーク

グループワークの目的

世界のエネルギーを巡る需給のトレンド、カーボンニュートラルに向けた民間企業やファイナンスの取組等を踏まえて、民間企業の立場からエネルギー上流開発事業及び新規事業を検討することを通して、講義目的の達成に貢献すること。

グループワークのテーマ

【日本のカーボンニュートラル実現のためには】
石油・天然ガス・石炭の精算・流通も扱う企業の担当者として、世界のエネルギートレンド・カーボンニュートラルの動向に対応するためのプランとそのリスクを考えましょう。

使用したワークシート

【お題】

エネルギー安定供給の実現とカーボンニュートラル対応の難しさを体感するための仮想のワーク

【社会背景】

2020 年以降の気候変動の枠組みであるパリ協定では「世界の平均気温上昇を産業革命以前に比べて 2℃より十分低く保ち、1.5℃に抑える努力を追求する」ことが目標として設定され、その後「早期に排出量をピークアウトし 2050 年でのカーボンニュートラルを実現する」ことが世界的なトレンドとなり、カーボンニュートラルへの気運は高まっています。

日本でも菅内閣総理大臣は 2020 年 10 月 26 日の所信表明演説において、我が国が 2050 年までにカーボンニュートラルを目指すことを宣言しました。加えて、2021 年 4 月には、菅内閣総理大臣は、地球温暖化対策推進本部及び米国主催の気候サミットにおいて、「2050 年目標と整合的で、野心的な目標として、2030 年度に、温室効果ガスを 2013 年度から 46%削減することを目指す。さらに、50%の高みに向けて、挑戦を続けていく」ことを表明しました。

日本が排出する温室効果ガスのうち約 9 割が CO2 であり、CO2 の排出量の約 4 割が電力部門、残りの約 6 割が産業や運輸、家庭などの非電力部門からの排出となっています。このように、石油・天然ガス・石炭などの化石燃料は、電力部門だけではなく非電力部門にも非常に多く使われているため、カーボンニュートラルに対応するためには電力以外の分野についてもしっかりと考えなければなりません。

【Mission】

あなたは石油・天然ガス・石炭の生産・流通も扱っている日本の企業 A 社の経営企画部社員です。昨今のエネルギー情勢と、カーボンニュートラルに対応しなければならない事業を踏まえ、既存の事業の延長だけではなくどのような取り組みをすべきか、アイデアを考えてみましょう。

【日本のカーボンニュートラル実現のためには】

石油・天然ガス・石炭の生産・流通も扱う企業の担当者として、世界のエネルギートレンド・カーボンニュートラルの動向に対応するためのプランとそのリスクを考えましょう。

プランを一言で表すと：

チーム名：

1

講義を踏まえて、世界のエネルギートレンド・カーボンニュートラルの動向と、それに対しての日本特有の事情を整理しましょう。

Point メモを見返して、講義の内容を振り返ろう。

世界のエネルギートレンド・カーボンニュートラル動向

日本特有の事情

エネキャリア

エネキャリア概説②「世界のエネルギー動向」経済産業省クリーンエネルギー戦略検討委員会 委員（ポスト石油戦略研究所代表）大場紀章氏ワークシート① アタラシキシート <①>

2

日本特有の事情を踏まえて、今後も活用が必要になる石油・天然ガス・石炭において、それぞれの事業領域でカーボンニュートラル対応のためにどんな取り組みができるのか、プランを考えてみましょう。

※上流開発については必須項目です。

事業領域	注視すべき世界の動向	対応策	日本特有の事情を踏まえ想定される問題点・リスク
上流開発			
新規事業			
電力部門			
非電力部門			

Point 電力・非電力部門にはどのように働きかければいいのか考えてみましょう。

エネキャリア

エネキャリア概説②「世界のエネルギー動向」経済産業省クリーンエネルギー戦略検討委員会 委員（ポスト石油戦略研究所代表）大場紀章氏ワークシート② アタラシキシート <②>

ワークサポーター

大場 紀章 氏

（ポスト石油戦略研究所代表）

辻 健 氏

（東京大学大学院 工学系研究科 教授）

井上 加代子 氏

（資源エネルギー庁 資源開発課）

細井 彩世 氏

（資源エネルギー庁 資源開発課）

ポスト石油戦略研究所 所員様 数名

第2回 「世界のエネルギー動向」 ポスト石油戦略研究所代表 大場 紀章 氏

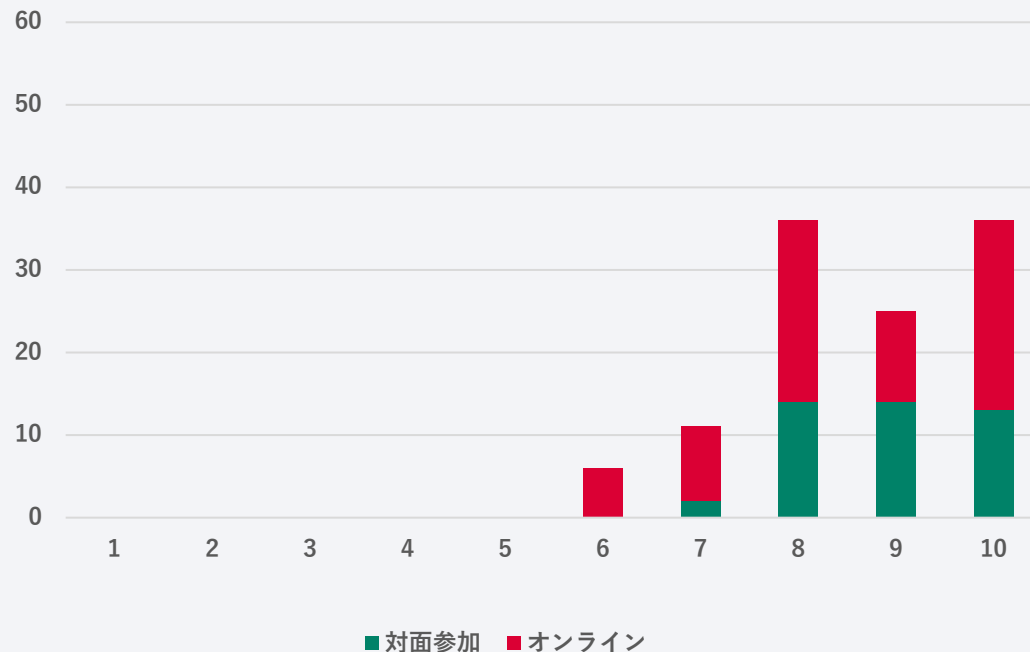
日時：2023年10月22日（日）13:00～16:30 場所：東京大学 HASEKO KUMA HALL

対面 53 人

オンライン 90 人

講義理解度

対面参加者平均 **8.9**（回答数43件） オンライン参加者平均 **8.5**（回答数71件）

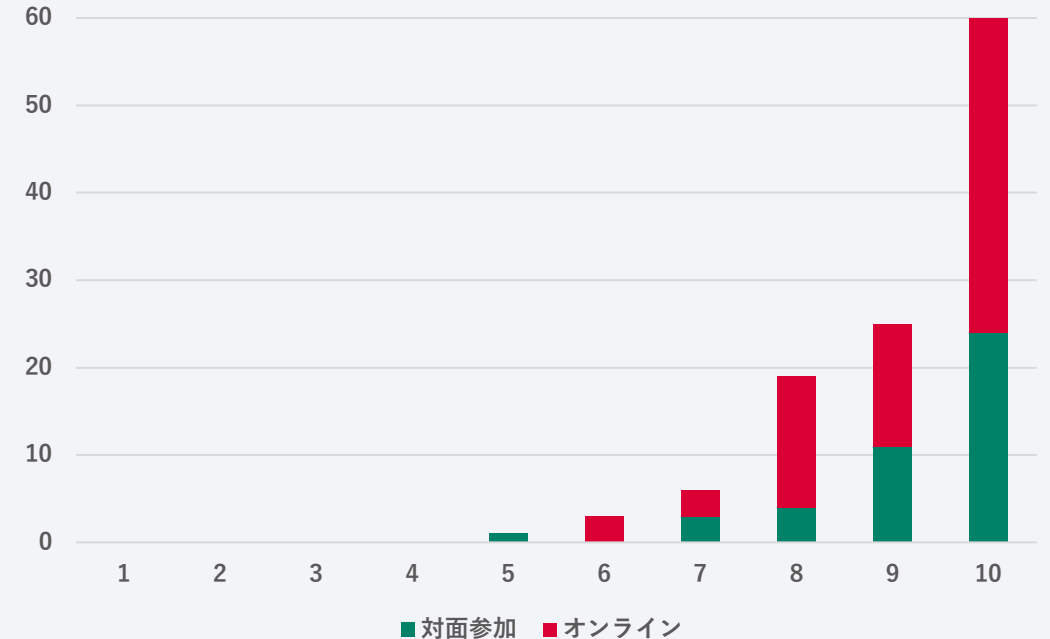


解説

第1回と比べ、通信状況が改善され、オンライン参加者の理解度は大幅に向上した。また、第1回と比較して関心度が高い人が継続参加し、回答していることから理解度の平均が高まっていることが見て取れる。

講義満足度

対面参加者平均 **9.2**（回答数43件） オンライン参加者平均 **9.1**（回答数71件）



解説

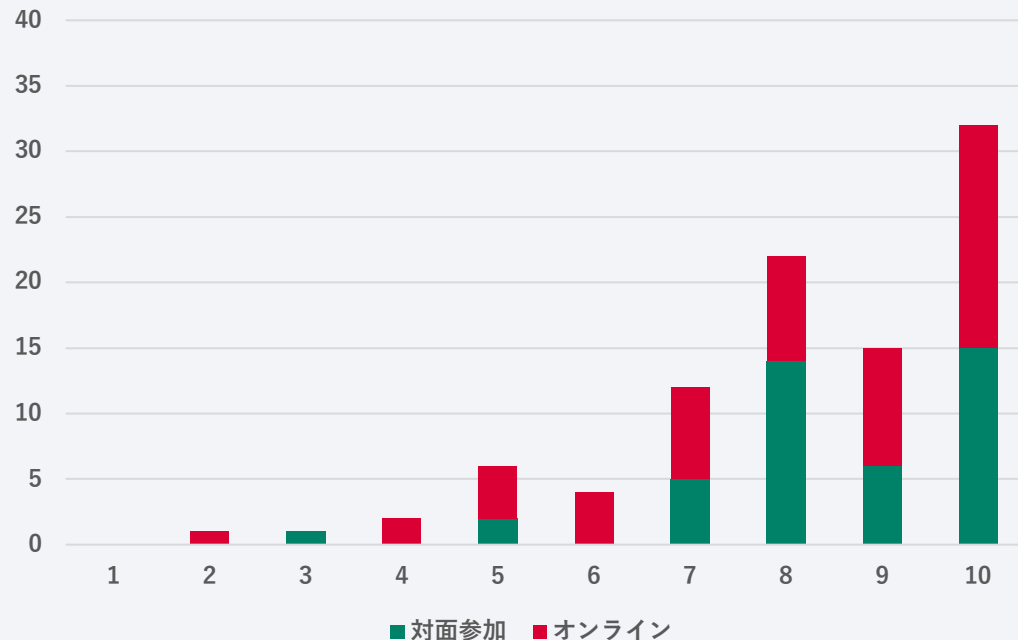
平均値が対面、オンラインともに9を上回る非常に満足度の高い会期となった。理解度と同様の理由でオンライン参加者、対面参加者との満足度の乖離が埋まったことにも注目できる。

エネルギー安定供給の実現とカーボンニュートラル対応の難しさを体感するための仮想のワーク

【日本のカーボンニュートラル実現のためには】 石油・天然ガス・石炭の生産・流通も扱う企業の担当者として、世界のエネルギートレンド・カーボンニュートラルの動向に対応するためのプランとそのリスクを考えましょう。

グループワーク理解度

対面参加者平均8.5（回答数43件） オンライン参加者平均8.0（回答数52件）

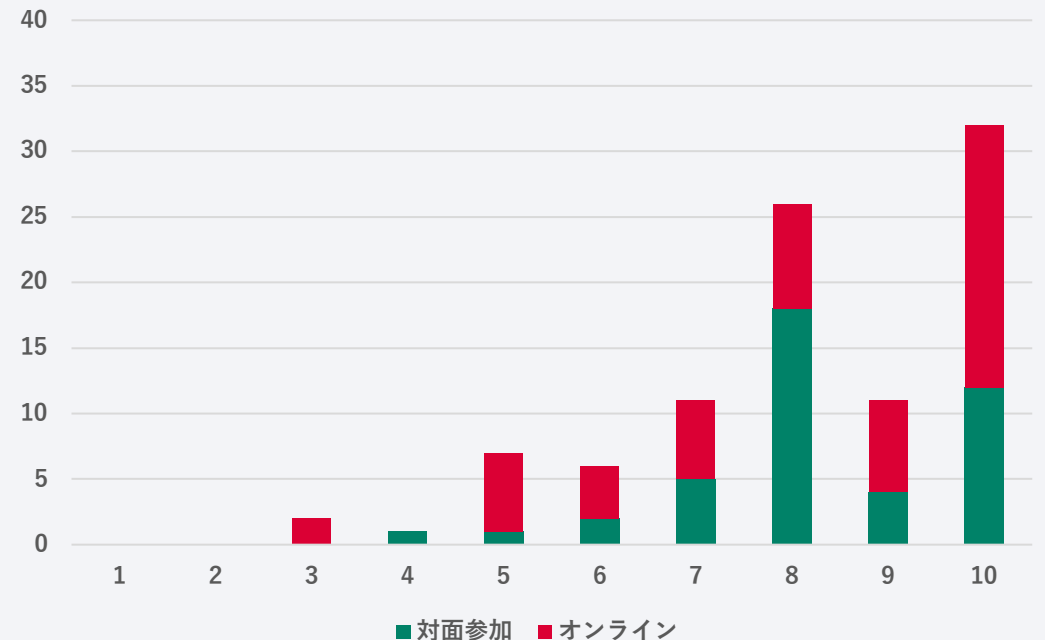


解説

講義と同様に第1回と比べ、通信状況が改善され、オンライン参加者の理解度は大幅に向上。グループワークの理解度についても第1回と比較して関心度が高い人が継続参加していることから平均が高まっている可能性。

グループワーク満足度

対面参加者平均8.3（回答数43件） オンライン参加者平均8.1（回答数53件）



解説

オンライン参加者の満足度も8を上回る結果となった。オンライン参加者の中で高い満足度を示している者の中には、**オンライン専用のスタッフの存在**を挙げている方もおり、貢献要因として考えられる。

参加者の感想（抜粋）

優良項目

- ・ <前略>世界のエネルギートレンド・カーボンニュートラルに対応するプラン・リスクを考えることを通して、日本独自の事情や立場を踏まえて3E+Sの方針を十分に実行できるようにするには、その時々で**多角的に世界のエネルギー情勢を意識することが必要**だと分かった。カーボンニュートラルを目指す上で再生可能エネルギーにばかり目を向ける傾向にあった私にとって、**石油の話をしないとエネルギーの話をしたことにならない**という大場さんの言葉は新しい考え方を持つ起点になりました。
- ・ <前略> **世界のカーボンニュートラル潮流・エネルギー情勢について、その要因から詳しく知ることができた**。特に興味深かったのは、西欧・米と日本でCNの原動力が違っている、という話だ。西欧におけるCNは、環境原理主義の圧力だけではなく、脱ロシア・中東依存といった政治的文脈に起因していて、しかもそれが企業の市場原理から生じている。一方日本では、国民・企業から内発的に動機づけられて環境保護を目指すことはなく、あくまでグローバル市場で競争する企業が外圧からやむにやまれず政府を突き上げている。この違いを念頭に、今後の講義・グループワークに活かしていきたい。
- ・ パリ協定後、**カーボンニュートラルに取り組む主体が「政府」から「企業」に変換された事**に対して、今まで頭の中にあった個別的な知識が繋がり、しっくりときました。<中略> **自給率が極めて低い日本における安定供給を考える際の化石燃料の重要性を改めて感じる**事ができました。
- ・ 日本のエネルギー消費について、<中略>産業用途、石油消費、電力としての消費等に分けて分析されているのは初めて見て、**電力の脱炭素のみに注力するのではなく、広く考える必要がある**と感じました。
- ・ 質問対応では、様々な立場での働き方について教えて頂くことができ、**自身のキャリア形成について考えるうえで非常に有意義な時間**となりました。

要望

- ・ <前略>結局のところ、超大企業の意思決定に関する内容ばかりになってしまい、**第三者による研究の域を出ることができなかった**ように感じました。
- ・ グループワークの**時間が与えられた課題に比してやや短い**ように感じました。
- ・ **他のグループのワーク内容**や、自分のグループの内容に対しての**フィードバック**も聞いてみたいと思いました。
- ・ グループワークにおいて、**大衆的な考えではなく、事業に携わる企業の視点で考える**のが自分が今までしてこなかったことなのでまたしてみたい。

3.2 第2回（当日の様子）

第1回

第2回

第3回

新潟
FW

第4回

第5回

第6回

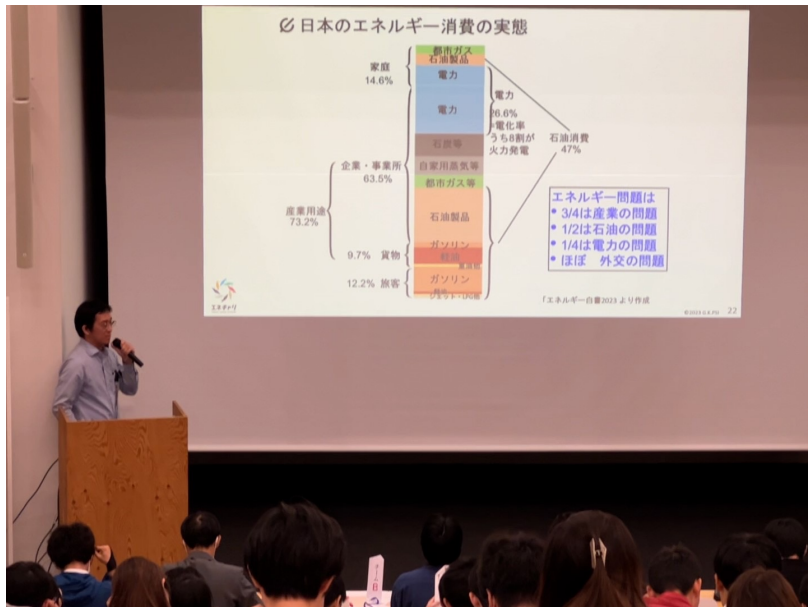
北海道
FW

プレゼン

イベント

@Gears Co.,Ltd

29



2023年11月4日

講義③

エネルギー概論 3

エネルギーをめぐる旅

現代社会の化石燃料問題を

文明史からひも解く



経済産業省
資源エネルギー庁
Agency for Natural Resources and Energy



エネキャリア
ENERGY CAREER ACADEMY

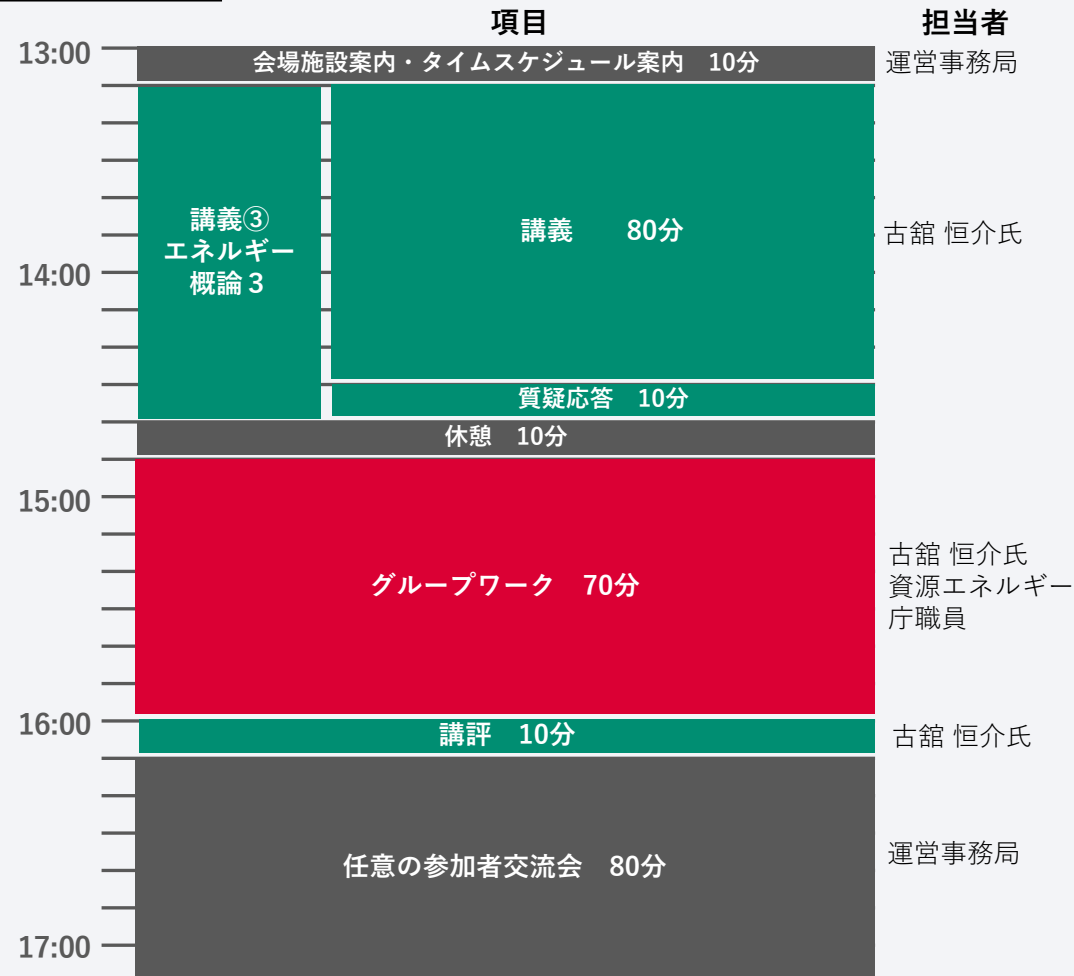


『エネルギーをめぐる旅
—文明の歴史と私たちの未来—』
著者

古舘 恒介

エネルギー概論3 エネルギーをめぐる旅

■タイムライン



■開催日程

2023年11月4日(土)

■開催場所

東北学院大学 土樋キャンパス

講義目的

著書の内容に沿って、文明史からエネルギーと人間の生き方の繋がりを学ぶことで、エネルギーのあり方を捉え直すこと。

到達目標

- ・ 昨今の脱炭素化による気候変動対策を近視眼的な視野で捉えるのではなく、文明史のダイナミックな観点から、改めて問を立て直す必要性を感じている状態。
- ・ 気候変動問題とエネルギー問題を混同することなく、それぞれを理解した上で、環境負荷のないエネルギー資源は現状、存在しないことを理解すること。
- ・ 文明史において石油・天然ガスが果たしてきた役割を史実として捉え、客観的に石油・天然ガスの資源としての価値を捉え直している状態。

登壇講師

古舘 恒介 氏 『エネルギーをめぐる旅ー文明の歴史と私たちの未来』 著者

<求める役割>

- ・ 地球史、文明史の観点から、気候変動・脱炭素・カーボンニュートラル・エネルギー転換など、実はあまり正確に理解されていないそれぞれの概念に対して、適切に違いを体系的に説明できる方
- ・ 石油・天然ガスからの脱却という論調だけに固執していない方
- ・ エネルギーと気候変動の結びつきと、最近の業界の動向を説明できる方

これまでの人類が獲得してきたエネルギーとその特性、またエネルギー獲得に伴う社会・経済の変化を踏まえ、2050年に向けて、人類はエネルギーと社会をどのように変えていったらよいと考えるか？

グループワークの目的

講義内容を踏まえ、あえて細かい思考のフレームを設けずに文明社会のあるべき未来を自由に描き、参加者同士でのフリーディスカッションにより思考の観点を補い合うことを通じて、講義目的の達成に貢献すること。

グループワークのテーマ

これまでの人類が獲得してきたエネルギーとその特性、またエネルギー獲得に伴う社会・経済の変化を踏まえ、2050年に向けて、人類はエネルギーと社会をどのように変えていったらよいと考えるか？

使用したワークシート

1

これまでの人類が獲得してきたエネルギーとその特性、またエネルギー獲得に伴う社会・経済の変化を踏まえ、2050年に向けて、人類はエネルギーと社会をどのように変えていったらよいと考えるか？

ビジョンを一言で表すと：

チーム名：

捉えている課題

変化のキーワード

ビジョンのイメージ

Point 付箋を用いてブレインストーミングしていこう。

Point ビジョンの解像度を上げるために、図やビジュアルで表してみるのも一つの手。

 **エネキャリア**
ENERGY CAREER ACADEMY

講義③
エネルギー概論3 「エネルギーをめぐる旅」エネルギーをめぐる旅 著者 古舘恒介氏
ワークシート

ワークサポーター

古舘 恒介 氏 （『エネルギーをめぐる旅』著者）

井上 加代子 氏 （資源エネルギー庁 資源開発課）

細井 彩世 氏 （資源エネルギー庁 資源開発課）

第3回 「エネルギーをめぐる旅」

『エネルギーをめぐる旅—文明の歴史と私たちの未来』 著者

古舘 恒介 氏

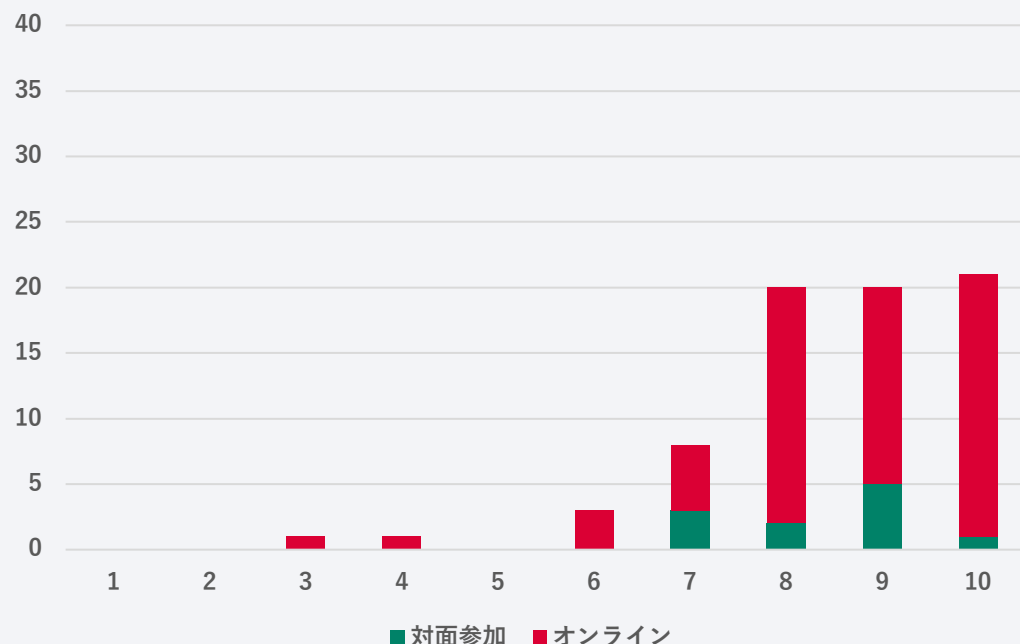
対面 13 人

日時：2023年11月4日（土）13:00～16:30 場所：東北学院大学 土樋キャンパス

オンライン 86 人

講義理解度

対面参加者平均8.4（回答数11件） オンライン参加者平均8.6（回答数63件）

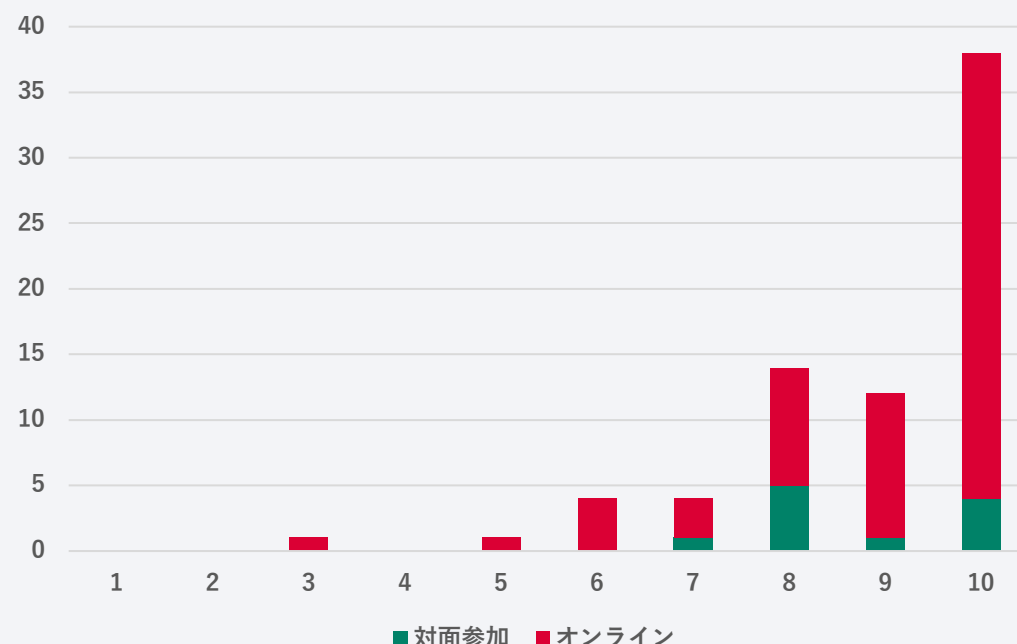


解説

東北地方での開催であり、オンライン参加者が大半を占める回であった。一部理解度が低い参加者もいるが、回答を見ると、集中力が続かなかったという旨の参加者起因のものであり、全体的には高い理解度であった。

講義満足度

対面者参加者平均8.7（回答数11件） オンライン参加者平均9.0（回答数63件）



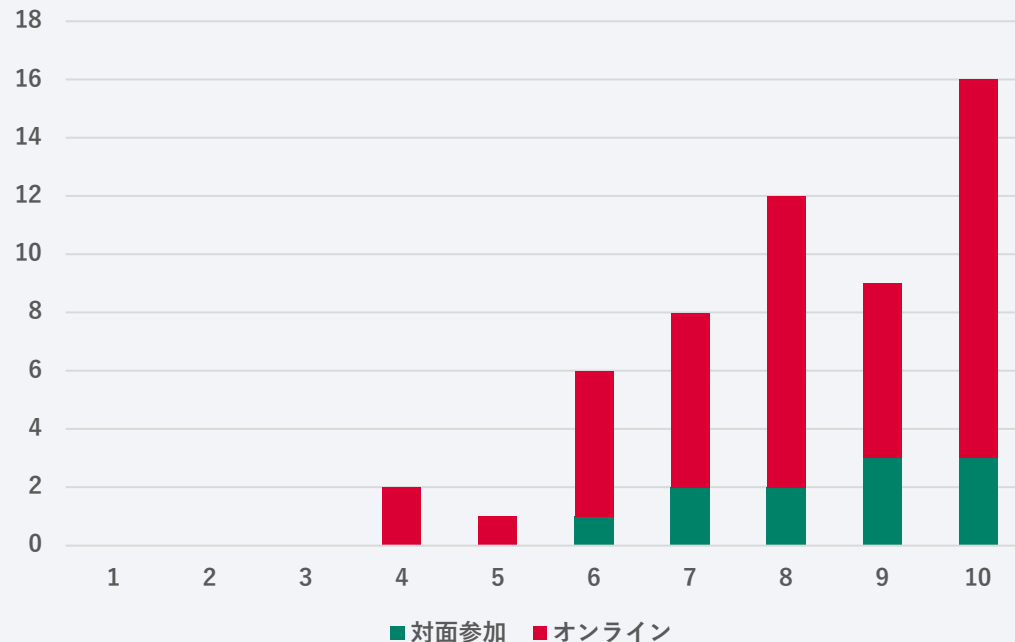
解説

満足度平均は対面、オンラインともに高い数値である。また、初めて**オンラインの満足度が対面を上回る結果**となった。背景として、講師の古舘氏に丁寧な質疑応対をしていただいたことなどが挙げられる。

これまでの人類が獲得してきたエネルギーとその特性、またエネルギー獲得に伴う社会・経済の変化を踏まえ、
2050年に向けて、人類はエネルギーと社会をどのように変えていったらよいと考えるか？

グループワーク理解度

対面参加者平均8.5（回答数11件） オンライン参加者平均8.1（回答数43件）

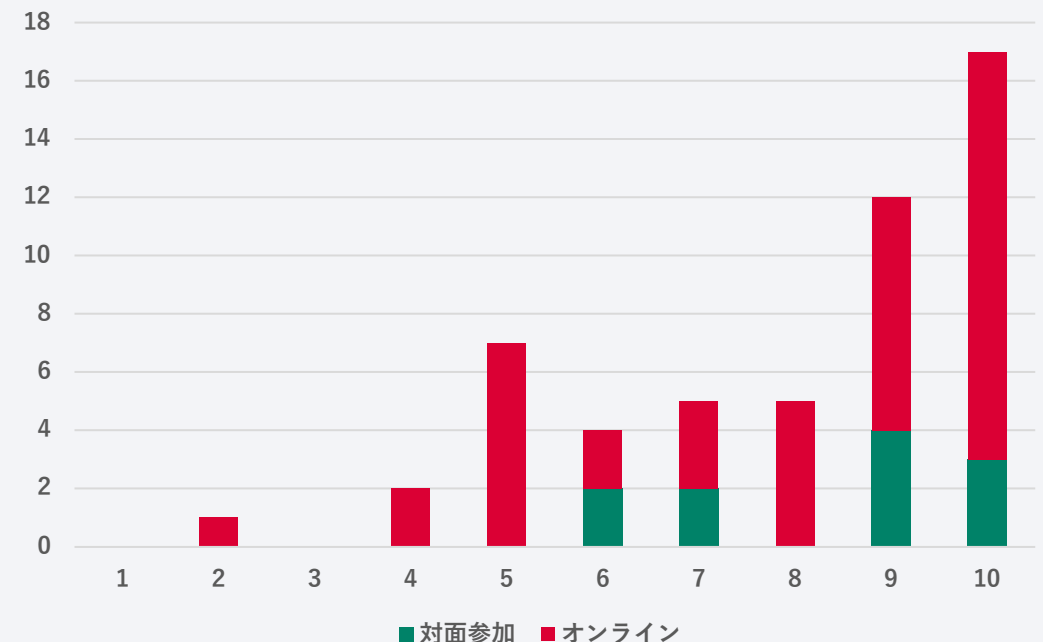


解説

平均は8を上回る結果となった。一方で、意図したものはあったが、グループワークの間が非常に抽象的であったため、理解度について中間値（4-7）が多い傾向にあった。

グループワーク満足度

対面参加者平均8.4（回答数11件） オンライン参加者平均7.9（回答数42件）



解説

理解度と同様の理由で満足度も中間値が多かった。満足度の低いオンライン参加者については、共有スライドの見づらさ、使いづらさ等運営上の不満点を述べている者が大半であった。

参加者の感想（抜粋）

優良項目

- ・ <前略> 第一次から第五次までのエネルギー革命の流れを全体的に知ることができ、これまでの講義で得た視点とはまた違ったワイドな視点を持つことができさらに学びが深まりました。
- ・ 人類が地球の環境に対して大きな悪影響を及ぼし始めたのは化石燃料を使い始めてからだと思っていたが、文明が始まって以来常に森林伐採という形で環境破壊をしてきたということは初めて得た観点だった。
- ・ 2050年に向けてのエネルギー供給と需要のバランスを考えるにあたり、化石燃料からの移行、再生可能エネルギーへの適応、核融合技術の実現可能性など、幅広い課題についての深い洞察が提供された。再生可能エネルギーの重要性を認識しつつも、その限界と課題を理解し、より持続可能なエネルギー供給システムへの移行が重要であると強調された。
- ・ <前略> エネルギー政策について、『よりマクロで先を見通した視点』を持つべきだということである。<中略> 目の前の個別課題だけに囚われず、エネルギーの本質やあり方を常に心の片隅に置くことこそが、真に理想的なエネルギー政策の立案になるのではないかと感じた。グループワークにおいては、2050年に需給バランスの崩壊が発生するという問題意識を共有しながら進めることができた。
- ・ 価値観の変容を目指すお話、印象に残りました。<中略> 現代人が知ってしまった便利な生活とは少し違うベクトルの価値観をどのように変容させていくのか、興味をもちました。

要望

- ・ オンラインで参加しましたが、一部スライドが参加者欄のせいでカットオフされていたり、解像度の低さからかフォントおおよそ20以下のものについてはほとんど読み取れませんでした。
- ・ 対面参加をするとグループワーク後にオンライン上でやり取りされるQ&Aを聞けないのが残念だなと思いました。

3.3 第3回（当日の様子）

第1回

第2回

第3回

新潟
FW

第4回

第5回

第6回

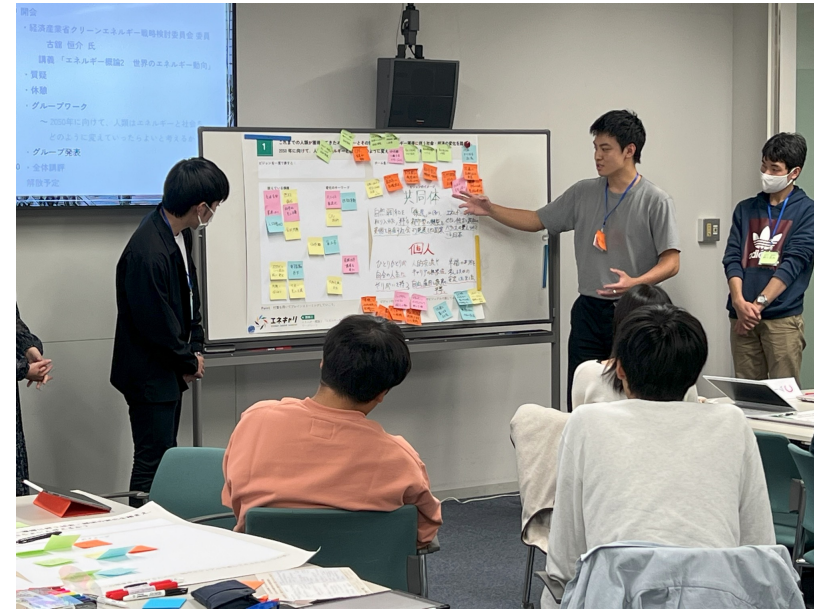
北海道
FW

プレゼン

イベント

@Gears Co.,Ltd

36



11/17 fri.

リアル開催

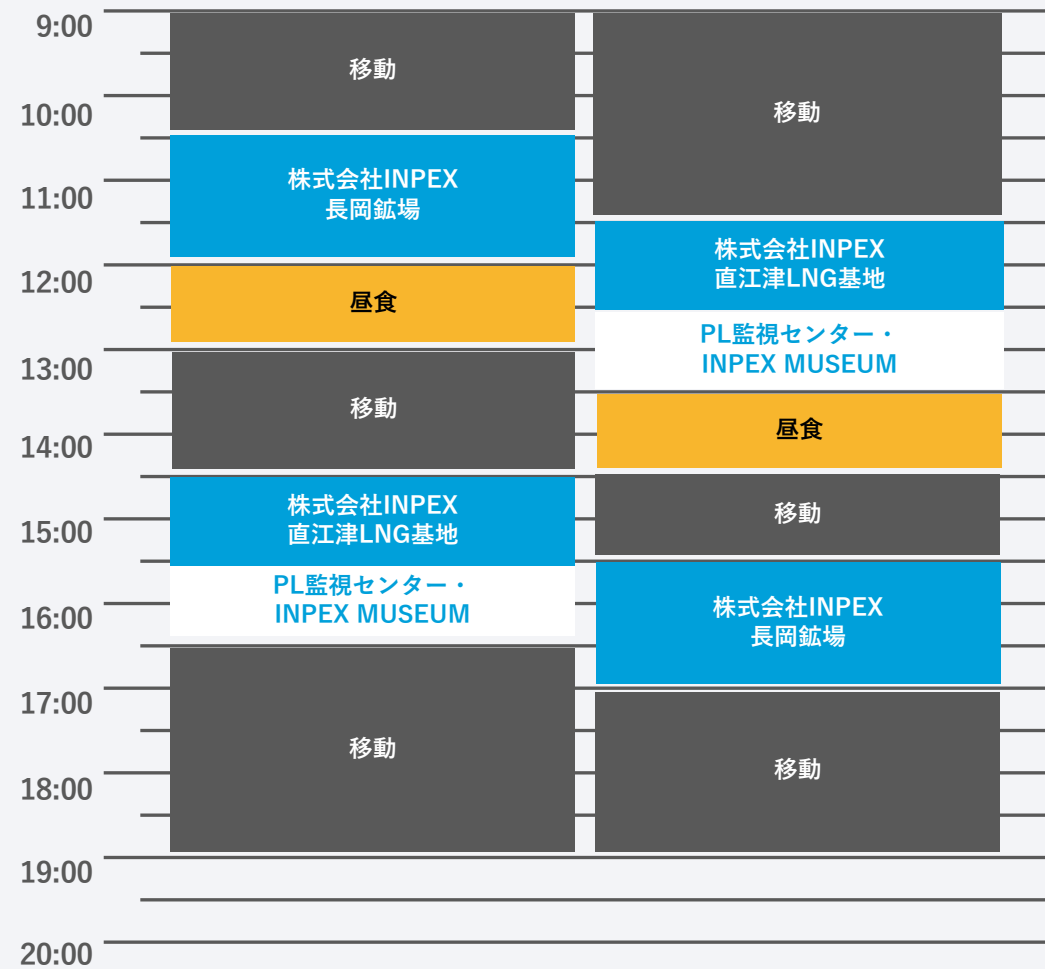
南長岡ガス田 直江津LNG

日本最大級のガス田「南長岡ガス田」および
直江津LNG基地を訪問。施設見学や現場社員との
交流を行います。

INPEX

新潟フィールドワーク（南長岡ガス田・直江津LNG基地）

■タイムライン



実施目的

国内資源開発の現場に赴き、生産現場から日常生活に運ばれるステップの理解、及び国内外からの供給を支える現場を見て、安定供給の重要性を理解する。また、現場職員との交流を通して、現場で働く醍醐味を体感する。

プログラム・訪問先

- ・ 株式会社INPEX 長岡鉱場
施設紹介・施設見学、職員交流
- ・ 同 直江津LNG基地
施設紹介・施設見学、職員交流
- ・ 同 INPEX MUSEUM
動画視聴
- ・ 同 PL監視センター
施設見学

開催日時

2023年11月17日(金)

開催場所

長岡市・上越市

フィールドワークでの学びの整理

グループワークの目的

フィールドワークでの体験を振り返って言語化し、経験として蓄積したうえで、安定供給に向けた現場の試行錯誤への共感を醸成すること。

グループワークのテーマ

フィールドワークでの学びの整理 (1) 安定供給に向けた取組 (2) 現場の課題感や苦労していること (3) 考えられる対応策

使用したワークシート

	フィールドワークでの学びの整理		
	1 安定供給に向けた取り組み	2 現場の課題感や苦労していること	3 考えられる対応策
南長岡ガス田（上流）			
直江津LNG基地（中流）			



◆ 新潟 フィールドワーク
ワークシート

 Hint それぞれ重複する部分があっても大丈夫です。

ワークサポーター

平井 貴大 氏 （資源エネルギー庁 資源開発課）

井上 加代子 氏 （資源エネルギー庁 資源開発課）

細井 彩世 氏 （資源エネルギー庁 資源開発課）

開催日時

2023年11月18日(土)

開催場所

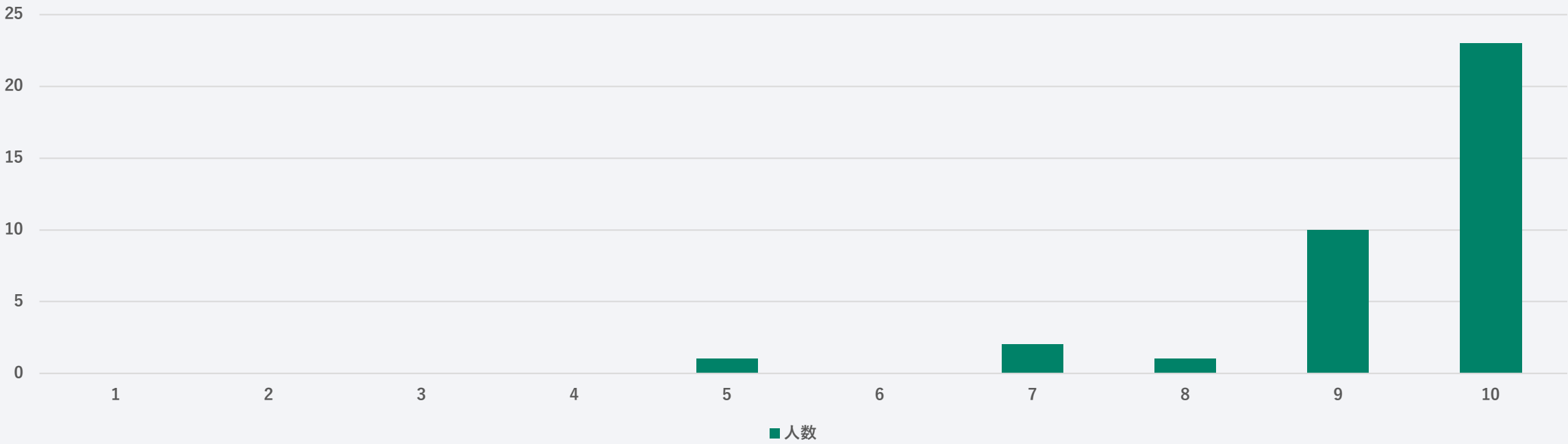
新潟市

新潟フィールドワーク（南長岡ガス田・直江津LNG基地）及びグループワーク

日時：2024年11月17日（金）～11月18日（土） 場所：長岡市・上越市・新潟市

参加 40人

総合評価
参加者平均9.4（回答数37件）



解説

新潟フィールドワーク及びグループワークの総合評価はとても高水準であった。第1回講義、第2回講義に参加した上で、参加申込書を記載している方の中から選考を行っているため、参加モチベーションも高かったことも背景として考えられる。なお、「5」と回答している参加者も、各施設見学やグループワークに対しての満足度は「10」と回答しているため、プログラム面においての不満はなかったと考えられる。

3.4 新潟フィールドワーク及びグループワーク(振り返り)

第1回

第2回

第3回

新潟
FW

第4回

第5回

第6回

北海道
FW

プレゼン

イベント

@Gears Co.,Ltd

41

新潟フィールドワーク（南長岡ガス田・直江津LNG基地）及びグループワーク

日時：2024年11月17日（金）～11月18日（土） 場所：長岡市・上越市・新潟市

施設別満足度

南長岡ガス田 9.1 直江津LNG基地 9.6 (回答数40件)

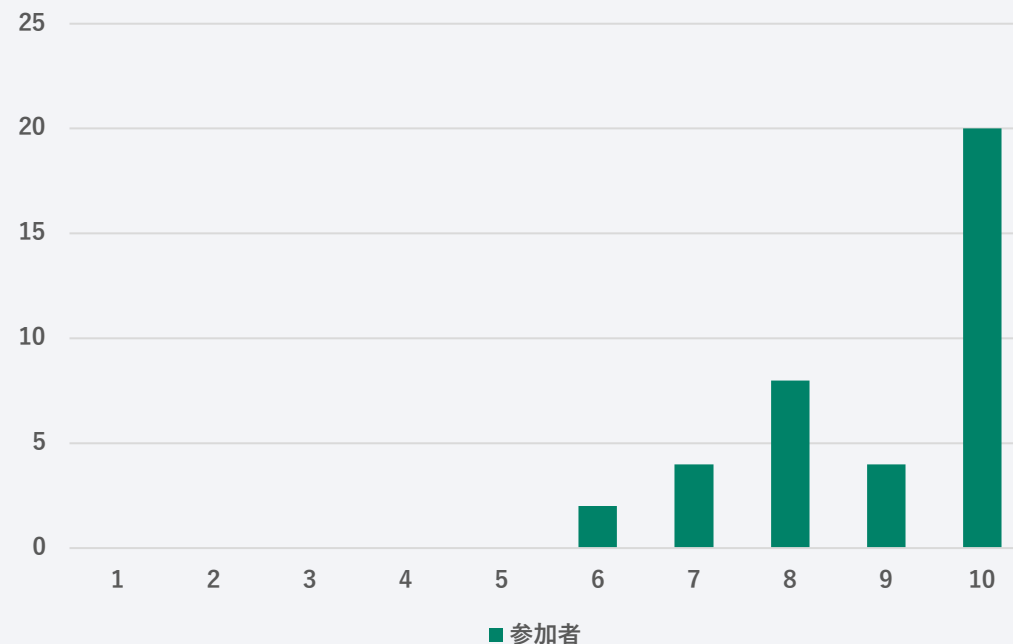


解説

両施設ともに高い満足度ではあったが、南長岡ガス田（INPEX長岡鉱場）は天候の都合により、バス車内からの見学が中心となったため、満足度が上がりきらなかったと推測される。

グループワーク満足度

グループワーク満足度の平均は 8.9 (回答数38件)



解説

総合的には、お互いの感想を共有できてよかったという旨の感想が多く、満足度は高かったが、満足度が低い参加者の一部には、振り返りの観点が広く議論が発散してしまったといった旨の感想があった。

参加者の感想（抜粋）

優良項目

- 私の人生史に残るほど刺激的な二日間だった。長岡鉱場・・・各所で冒頭に避難経路の説明を受けた。＜中略＞こういったことや、職員の眼差しに日本の心臓であると言えるエネルギーを支えるための使命感や責任感を感じた。直江津LNG基地・・・イクシスLNGプロジェクトに15年間派遣されていた職員の質疑応答は印象的かつ衝撃的だった。学生の「空き地の芝生」の質問だ。職員は「緑地法」に基づいた措置だと回答した。技術専門職と伺っていたにも関わらず、専門外と思われる質問に根拠を明確に答えていた。＜中略＞これに関連して、専門に捉われない勉強は大切と職員は述べていた。＜中略＞自分の学びを信じてより一層、学びを加速させていく覚悟を得た。総論・・・＜前略＞以前よりエネルギーについて関心を持っていたがそれが確信に変わった。もう一点、将来について。私は将来日本国の大動脈に関わる仕事がしたいと考えている。実際に長岡・直江津でINPEXの規模感や職員の使命感を体験して感極まる思いになった。**私の将来の選択肢の1つにINPEXが加わり、将来の選択肢が広がった。**
- ＜前略＞申し込み段階では見学が一番楽しみにしておりましたが、ギアーズの方々に他の参加者の方々との交流を促していただいたことで、**様々な属性の方々と知り合うことができ**、その中にはエネルギー関連ですでに行動されてる方も多くいたため、非常に良い刺激を受けることができました。
- 私は**生産現場を実際に体感し国内資源開発の現状を知ることで自身のキャリアについて考える機会**にすると共に、会社の方やフィールドワーク参加者の方々との交流を通して自身の知見を深めることを目標としてフィールドワークに参加しましたが、それらが実現できるような非常に充実した2日間でした。

要望事項

- 不満足であったものは基本的に降雨が原因**であり、非常に貴重な経験をさせていただきました。
- せっかく新潟まで行ったので、**ガス田やLNG基地をもっと近くで見たり、施設や日頃の業務について詳しく知りたかった**です。
- 経営計画に対する現場の生の意見をもう少し聞きたかった**です。
- タイムラインが読めず**、事前にもう少し情報共有いただきたかったと思う節がありました。
- 2日目の午前中のグループワークは、1日目の学習内容や特に関心をもった事柄、**感想などの共有の場としての性格をもっと強めてもよい**と思いました。現行課題の共有までにして、将来的な解決策の検討には進まない方がよいと思いました。

3.4 新潟フィールドワーク及び グループワーク(当日の様子)

第1回

第2回

第3回

新潟
FW

第4回

第5回

第6回

北海道
FW

プレゼン

イベント

@Geears Co.,Ltd

43



2023年11月18日

講義④

日本の資源外交政策

日本のエネルギーを守る

政府の打ち手とは



経済産業省
資源エネルギー庁
Agency for Natural Resources and Energy



エネキャリア
ENERGY CAREER ACADEMY

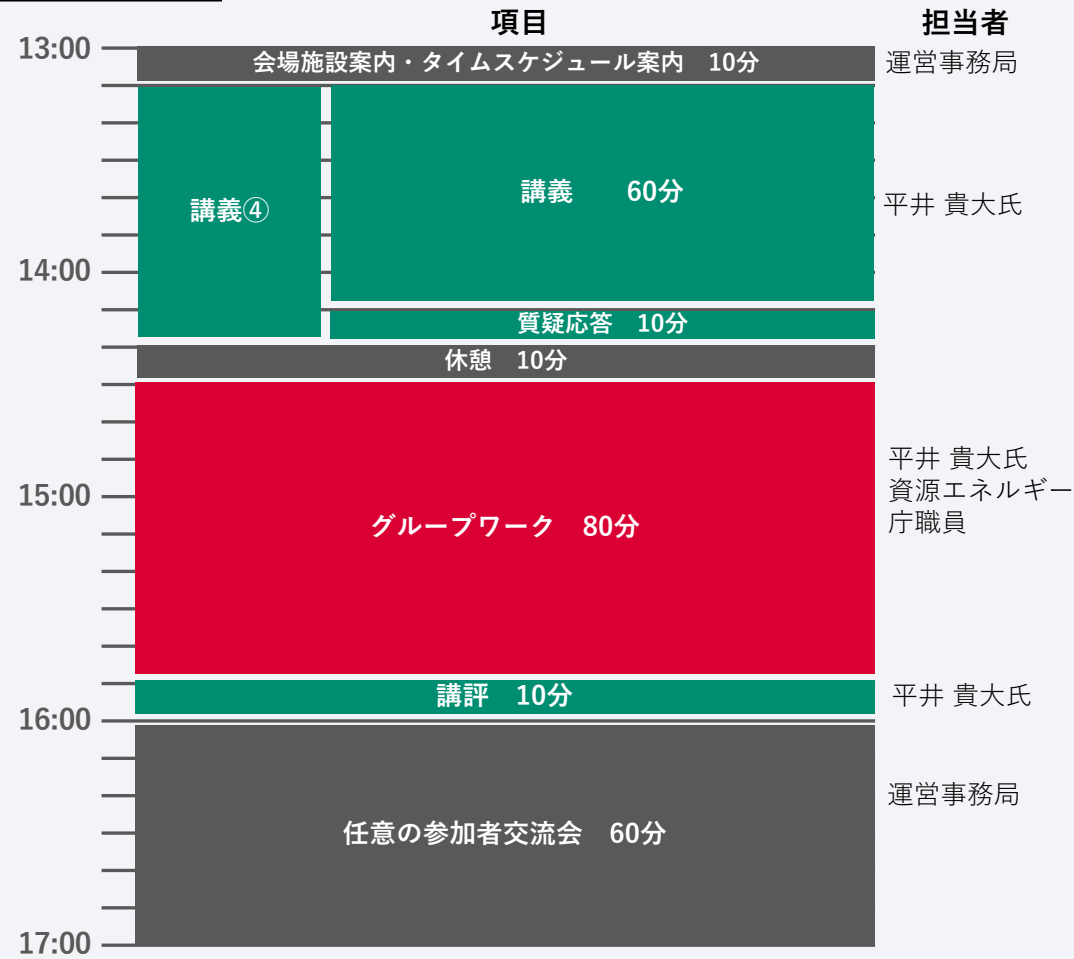


資源エネルギー庁資源開発課
課長補佐

平井 貴大

日本の資源外交政策

■タイムライン



■開催日程

2023年11月18日(土)

■開催場所

NINNO3 貸会議室（新潟駅前）

講義目的

現在の日本の資源外交の現場を知り、エネルギー安定供給実現の難しさを体感するとともに、資源外交を行う上で幅広いプレイヤーを巻き込む必要性があることを実感する。

到達目標

- これまでの講義も踏まえた上で、資源外交の中でもとりわけLNGにおいて、日本のリーダーシップの重要性を理解している状態
- 資源外交政策の具体的な交渉の現場や各国の利害関係について把握している状態

登壇講師

平井 貴大 氏 資源エネルギー庁 資源開発課 課長補佐

<求める役割>

- エネルギー政策の背景とポイントをわかりやすく伝えられる方
- 現在の日本の政策について網羅的に説明することができる方
- 政策立案に実際に取り組んでいる政府の方

LNGを中心に資源をめぐる制度設計や交渉の難しさを体感するワーク

グループワークの目的

カーボンニュートラルの実現に向けた世界的な動きの中、LNGを継続利用するためのLNG将来ビジョンを打ち出すことは不可欠であり、この将来ビジョンを打ち出す場として、LNG産消会議でのテーマや内容等の設計の疑似体験を通して、講義目的の達成に貢献すること。

グループワークのテーマ

【2024年度のLNG産消会議を設計しよう】2024年のLNG産消会議の①政府主体のセッション②企業主体のセッションのどちらを設計するか選択し、（1）解決すべき課題の特定（2）会議を通じてどの課題にどのように対処するのか（3）会議のコンテンツについて考えましょう。

使用したワークシート

【お題】

LNGを中心に資源をめぐる制度設計や交渉の難しさを体感するワーク

2023年7月18日、経済産業省が主催する液化天然ガス（LNG）の生産国と消費国が集まる「LNG産消会議2023」が都内で開催されました。2012年に始まったこの会議は、今回で12度目となる歴史の長い会議です。今回は初めて国際エネルギー機関（IEA）と共催しました。まさに日本が世界のLNG業界をリードする一つの大きな舞台です。

一方、会議が始まった2012年と今の資源外交情勢は、これまでの講義で学んできた通り、変わってきています。毎年行われるこの会議で、どんな議題について議論し、どのように資源外交を展開すべきかは常に向き合わなければならない問いです。

加えて国際会議の舞台では政府だけではなく、企業の動きも重要です。LNGを生産する上流開発企業は、カーボンニュートラルトレンドによるLNGの上流開発への投資額の減少や買手が長期の契約をしにくい環境になるなど、企業単体で太刀打ちしきれない課題を抱えています。政府・諸外国・競合企業といかに巻き込み、安定供給の確保と将来のカーボンニュートラルを両立させていくかは、非常に重要な検討事項です。

上記動向を踏まえ、皆さんには2024年の産消会議を設計していただきます。
2024年の産消会議のスケジュールは右の通りです。まず初めに、以下2つのスタンスのうちどちらかを決めてください。
①政府の立場から考える
②民間企業の立場から考える

その上で、
(1) 解決すべき課題の特定を行い、
(2) LNG産消会議をどの課題に対処するためにどのような形で利用し、
（例：IEAと共催し、IEAの機能強化を訴える。中心になっている欧州が必ず対面で参加できるよう）
(3) どのようなイベントとするのか
（例：誰とどのような対話を行い、何を発表するのか等）
チームごとの立場から考えましょう。

▼ 2023年産消会議のキービジュアル



▼ 2024年産消会議のスケジュール

開会

①政府主体のセッション
（※時間配分は自由）

②民間主体のセッション
（※時間配分は自由）

閉会

【2024年度のLNG産消会議を設計しよう】

2024年のLNG産消会議の①政府主体のセッション②企業主体のセッションのどちらを設計するか選択し、
① 解決すべき課題の特定 ② 会議を通じてどの課題にどのように対処するのか ③ 会議のコンテンツ、について考えましょう。

産消会議のコンセプト：

チーム名：
選んだ立場：①政府の立場 or ②民間の立場

1 解決すべき課題

2 会議を通じてどの課題にどのように対処するか

3 どのようなイベントとするか

エネキャリア

ENERGY CAREER ACADEMY

講義④
「日本の資源外交政策」 資源エネルギー庁資源開発課 課長補佐 平井貴大氏
ワークシート① お題シート

【2024年度のLNG産消会議を設計しよう】

2024年のLNG産消会議の①政府主体のセッション②企業主体のセッションのどちらを設計するか選択し、
① 解決すべき課題の特定 ② 会議を通じてどの課題にどのように対処するのか ③ 会議のコンテンツ、について考えましょう。

産消会議のコンセプト：

チーム名：
選んだ立場：①政府の立場 or ②民間の立場

1 解決すべき課題

2 会議を通じてどの課題にどのように対処するか

3 どのようなイベントとするか

エネキャリア

ENERGY CAREER ACADEMY

講義④
「日本の資源外交政策」 資源エネルギー庁資源開発課 課長補佐 平井貴大氏
ワークシート① お題シート

ワークサポーター

平井 貴大 氏
（資源エネルギー庁 資源開発課）

井上 加代子 氏
（資源エネルギー庁 資源開発課）

細井 彩世 氏
（資源エネルギー庁 資源開発課）

川島 俊哉 氏
（新潟県産業労働部
創業・イノベーション推進課）

第4回 「日本の資源外交政策」 資源エネルギー庁 資源開発課 課長補佐 平井 貴大 氏

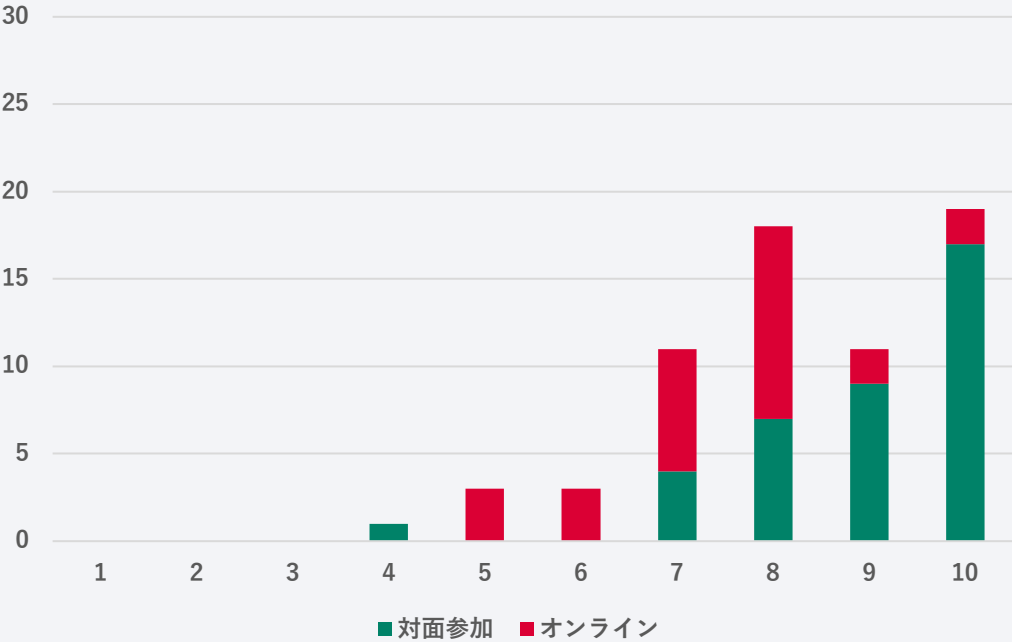
日時：2023年11月18日（土）13:00～16:30 場所：NINNO3 貸会議室（新潟駅前）

対面 40 人

オンライン 47 人

講義理解度

対面参加者平均8.9（回答数38件） オンライン参加者平均7.4（回答数28件）

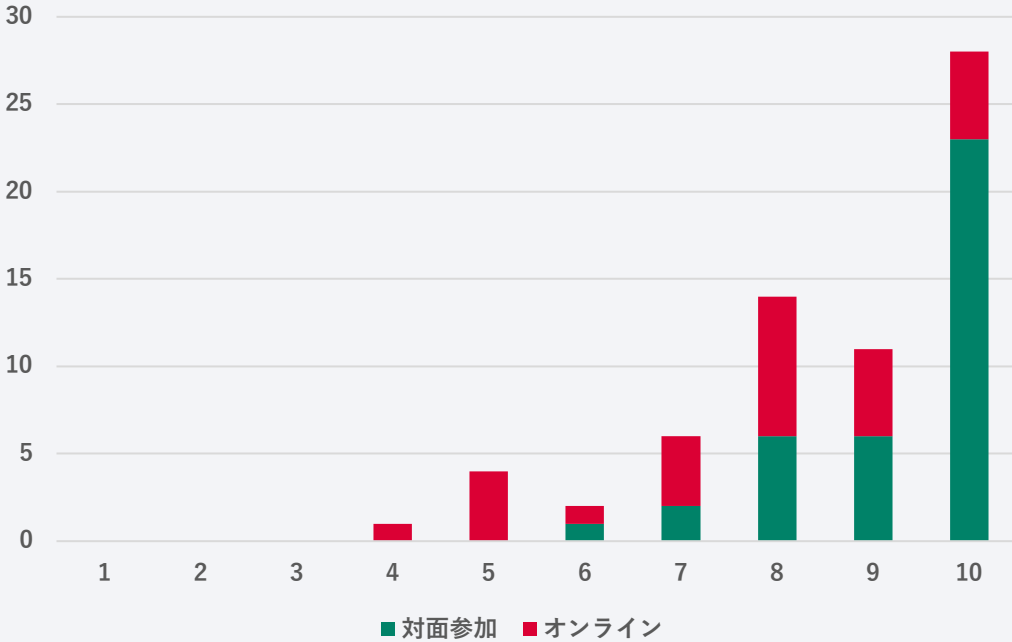


解説

対面参加者の理解度は高い水準となった一方、オンライン参加者の理解度が高まらなかった背景として、政策や国際協力の具体についての理解が難しかったという旨の、知識的な欠如による理由を挙げているものが多かった。

講義満足度

対面参加者平均9.3（回答数38件） オンライン参加者平均7.8（回答数28件）



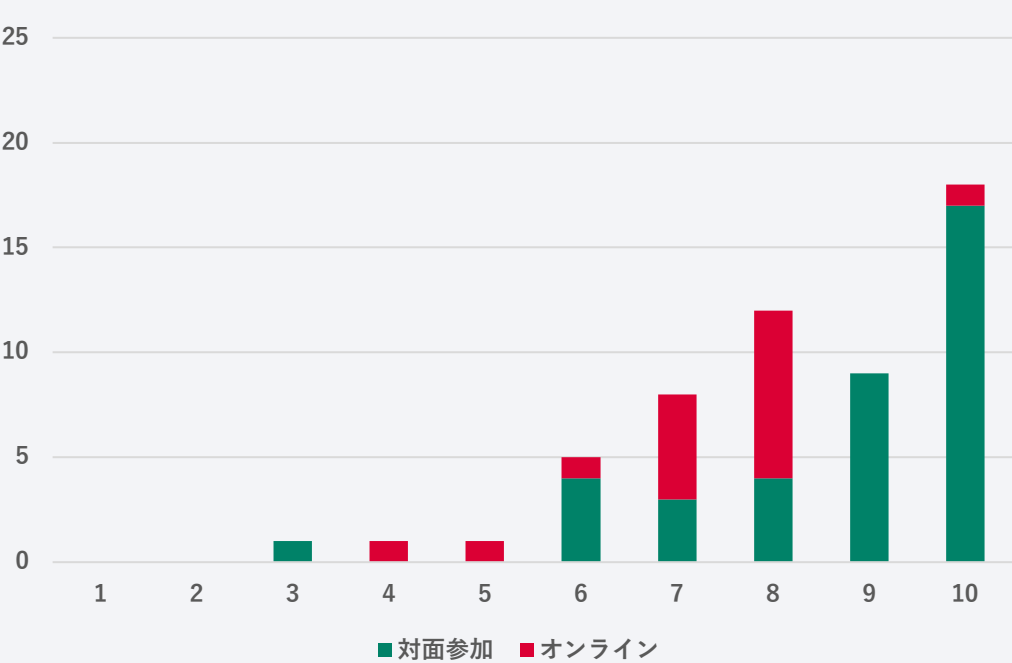
解説

対面参加者の満足度が非常に高い背景として、対面参加者が新潟フィールドワークの参加者と同じであったため、講師との関係値や参加者同士の熱量が高まっていたことが挙げられる。

【2024年度のLNG産消会議を設計しよう】
2024年のLNG産消会議の①政府主体のセッション②企業主体のセッションのどちらを設計するか選択し、（1）解決すべき課題の特定（2）会議を通じてどの課題にどのように対処するのか（3）会議のコンテンツについて考えましょう。

グループワーク理解度

対面参加者平均8.7（回答数38件） オンライン参加者平均7.3（回答数17件）

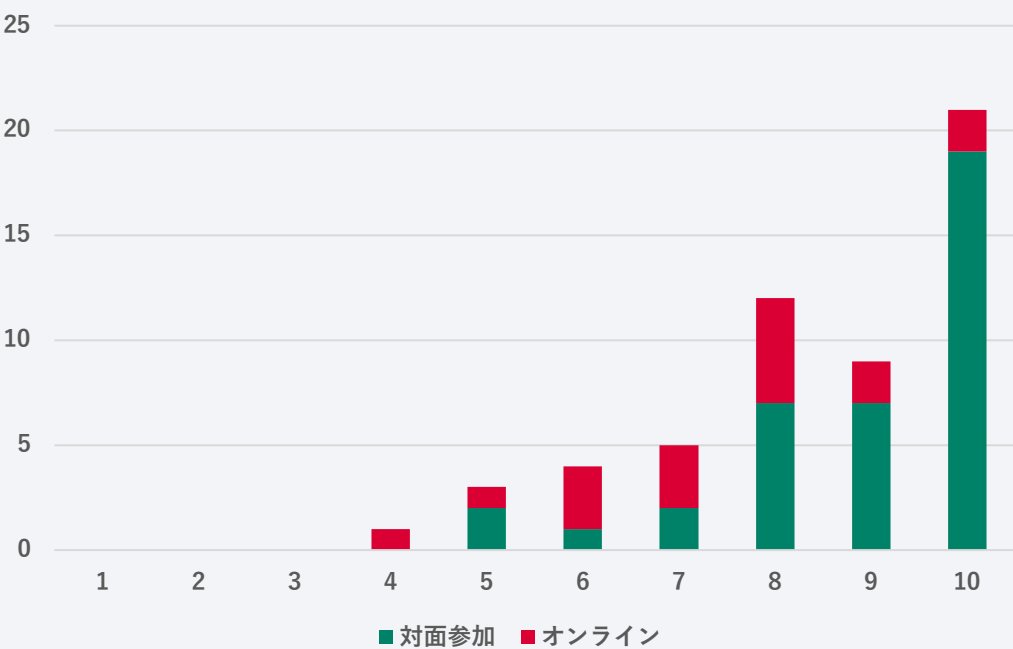


解説

対面参加者は先述の仮説により高い水準。一方、オンライン参加者の理解度の平均値が上がらなかった背景としては、ワークの立場を選定する設定が難易度を上げていた可能性がある。

グループワーク満足度

対面参加者平均8.9（回答数38件） オンライン参加者平均7.4（回答数17件）



解説

対面参加者の大半が高い満足度を示した。中間値のものについては、オンライン、対面参加者ともに高い熱量の参加者間のコミュニケーションに上手く入れなかったことが挙げられる。

参加者の感想（抜粋）

優良項目

要望

- 本講義で最も印象に残った点は、日本や世界のエネルギー事情にはいろいろな要素、主体が関わっており、政府の影響力は相対化される一方で、それでも重要な役割を抱えていることには間違いのないということです。＜中略＞エネルギーの移行期とも言えるこれからの世界において、それを現実的、段階的、そしてサステナブルな形で達成するには、日本が主体となって各国に提言し、協力関係を深めていく必要があると感じました。
- ＜前略＞欧州中心のエネルギー政策が取られていく中での日本の立場は重要であると考えさせられた。
- エネルギー安全保障と脱炭素を両立する難しさを感じました。また、その両方が先進国と途上国など国々の状況によっても進むべき道のりも異なり、先進国の視点だけで脱炭素を進めることの危うさを認識できました。そういった課題に対し、LNG産消会議を通して、各国へ実情に合わせたLNG貯蔵の提案を行ったり、共同宣言への同意を取ったりと、世界全体の脱炭素化・エネルギー安全保障強化のための活動が行われていることを学ぶことができました。＜中略＞世界に貢献できるような成果を生む会議のアジェンダを作る経産省の業務を非常に魅力的に感じました。
- ＜前略＞政府にあまりにも依存してしまうと、時の政権のマニフェストによって大きく事業が左右されてしまう危険性をはらんでいるので、民間企業が主体となってエネルギー事業を展開していく必要性もあるという意見を受けて、改めてエネルギー政策の難しさを実感しました。
- ＜前略＞分野を問わず組まれたグループで今回のテーマについて考えることで様々な視点からの意見が出たため、これまでの講義以上にそれぞれの専門を活かした議論を体感することができたと感じており、非常に楽しい時間でした。
- 今回のように、グループワークや質疑応答の時間が長めに確保されている形式は、非常に満足度が高くなると感じました。対面で参加したということもあり、参加者や講演者との相互交流が充実したものとなったため、講義による学習に加え、相互の学びの時間もより多くあると嬉しく思います。
- 今回の講義内容がフィールドワークに参加している人目線で進んでいると感じられる部分が少々ありました。＜中略＞当日こういった場所・見学をしたのかを共有いただけるとよいのではと感じました。
- 今回の講義では自分の知識不足や理解不足を強く感じた。＜中略＞改めて世界各国の資源に対する姿勢の変化や世界情勢、国際会議などの情報を追えるようにしたいと思った。

3.5 第4回（当日の様子）

第1回

第2回

第3回

新潟
FW

第4回

第5回

第6回

北海道
FW

プレゼン

イベント

@Gears Co.,Ltd

50



2023年12月2日

講義⑤
エネルギーの
安定供給への挑戦

安定供給の力を握る

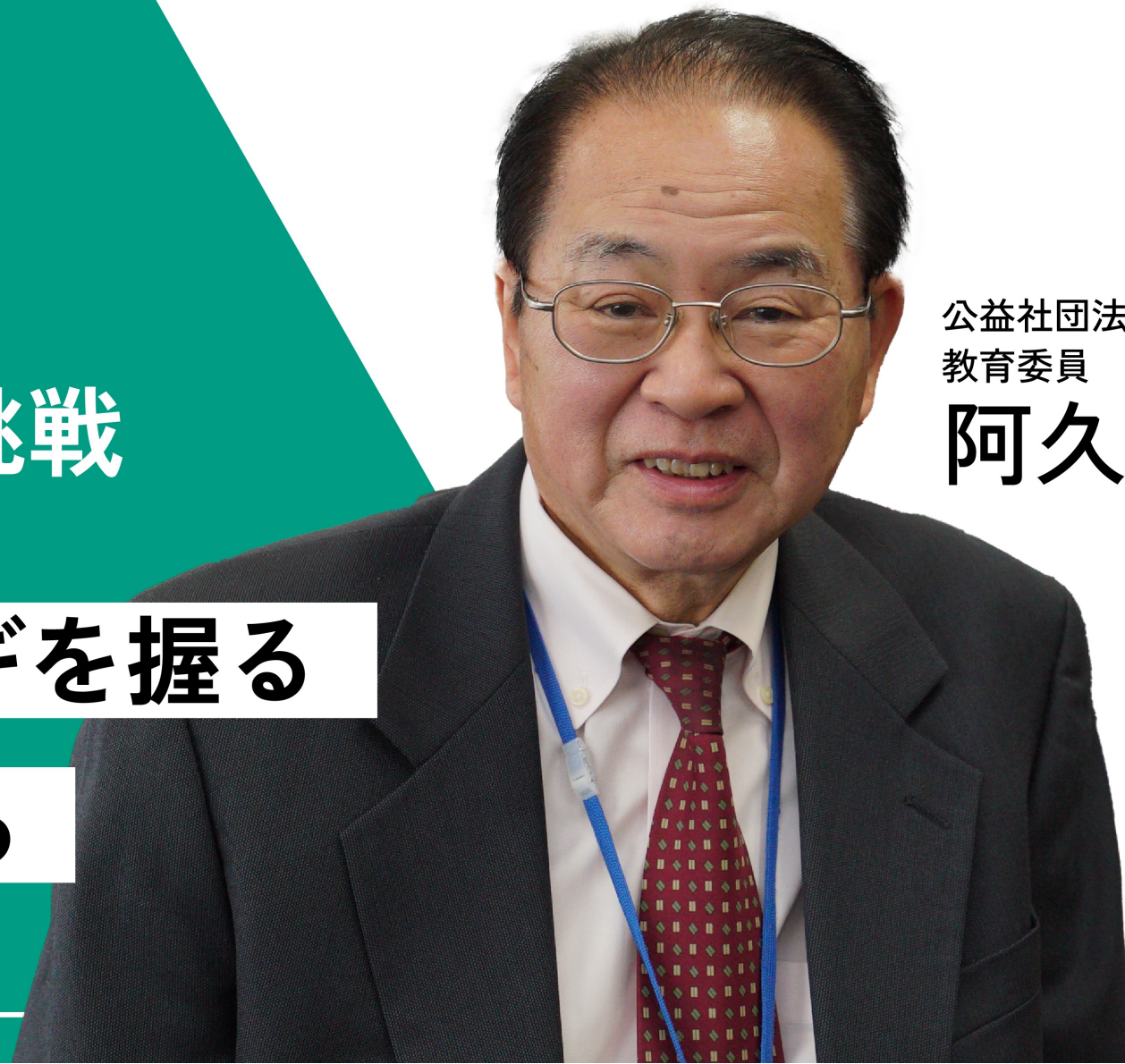
上流開発を知る



経済産業省
資源エネルギー庁
Agency for Natural Resources and Energy



エネキャリア
ENERGY CAREER ACADEMY

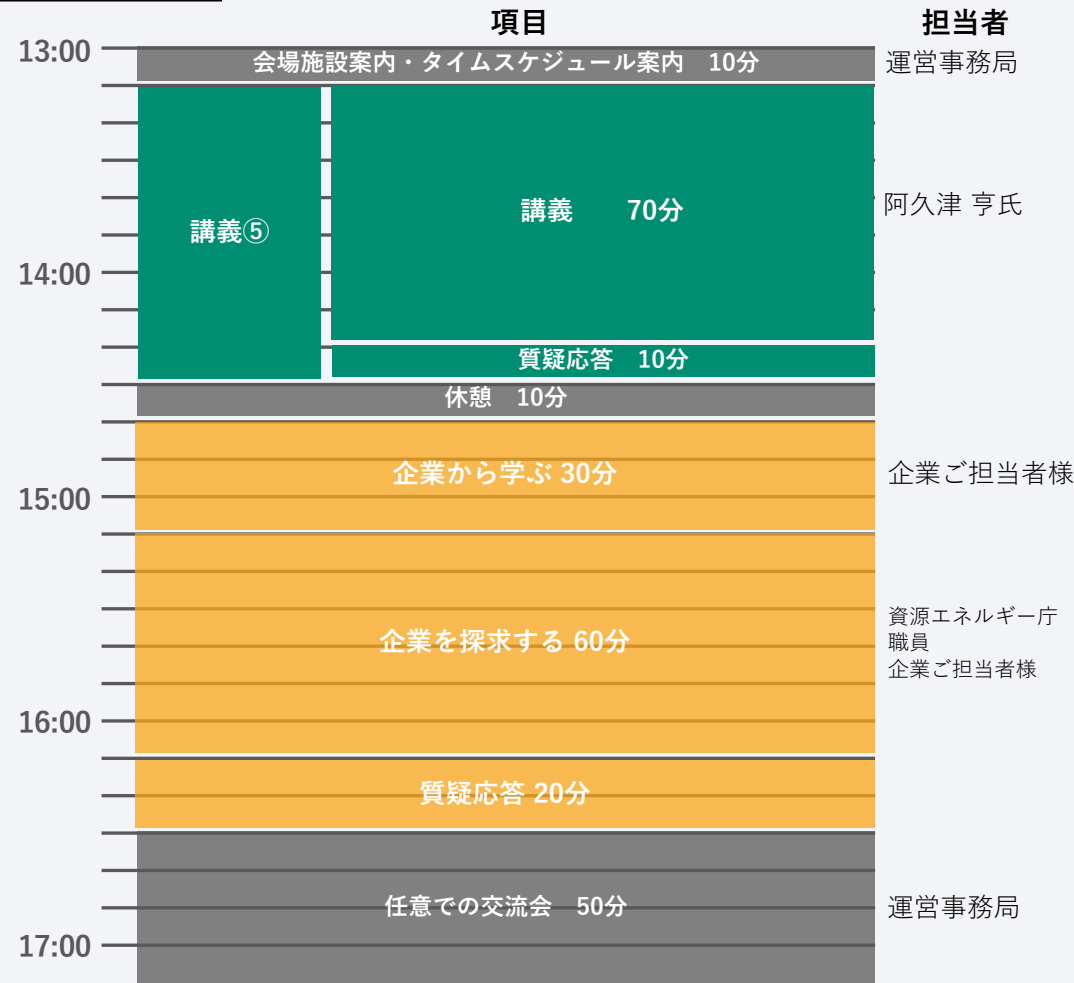


公益社団法人石油学会
教育委員

阿久津 亨

エネルギーの安定供給への挑戦

■タイムライン



■開催日程

2023年12月2日(土)

■開催場所

慶應義塾大学 日吉キャンパス

講義目的

石油・天然ガスの探鉱・開発、生産、その過程で必須となる掘削、生産施設、貯蔵、輸送・供給等各プロセスについて詳しくご説明いただき、石油・天然ガス資源の安定供給に欠かせない上流開発・輸送供給の現場の困難や挑戦について理解を深めた。

到達目標

- 石油・天然ガスの上流・中流・下流の各段階や、安定供給に向けて輸送・供給・パイプライン等取組について理解している状態

登壇講師

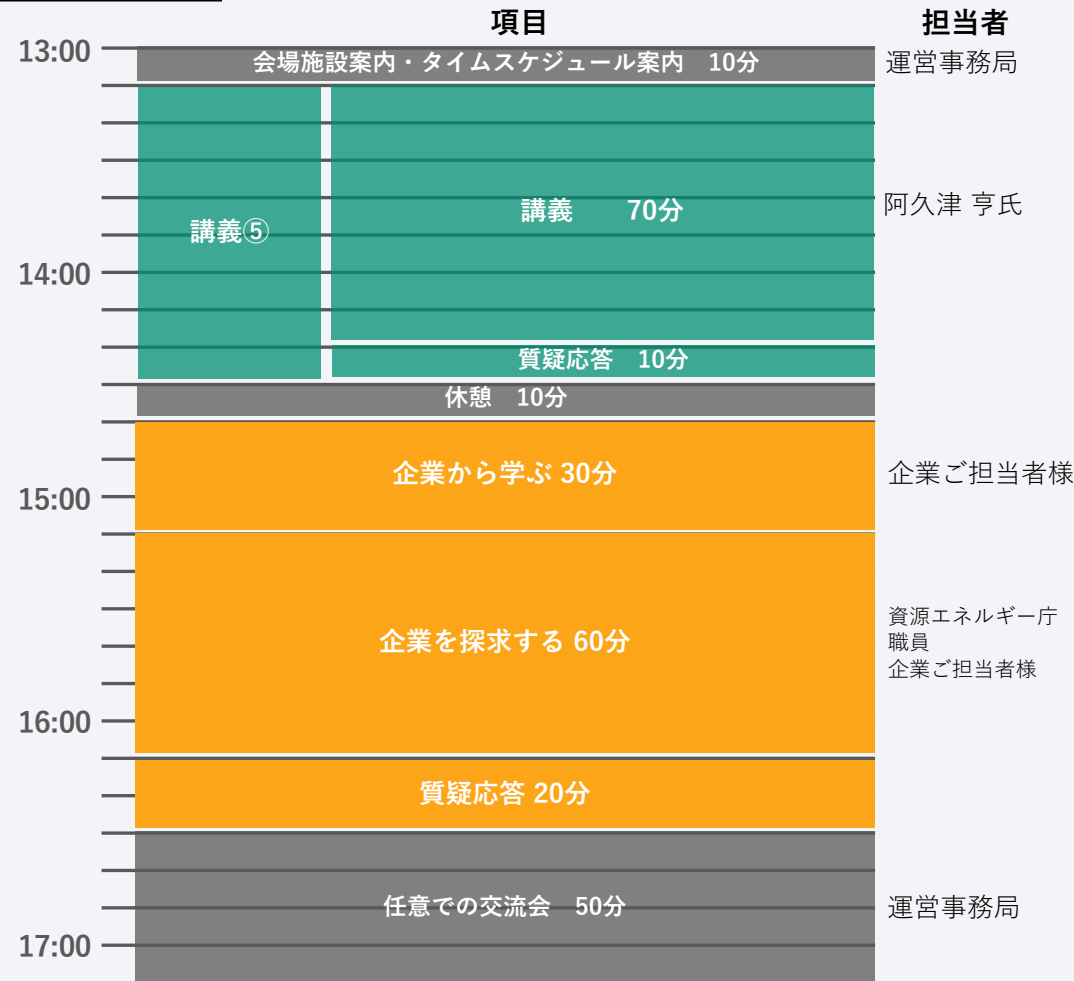
阿久津 亨 氏 公益社団法人石油学会 教育委員
(株式会社 INPEX ソリューションズ調査事業部研究主幹)

<求める役割>

- 業界・会社全体として気候変動対応に向けてどのように取り組もうとしているのか、全体観を伝えることができる方。実際に現場に行ったことのある、もしくは現場からの声を集約したうえで、写真・映像等も含めて説明できる方
- 仕事のプロセスで求められる力やスキル、ナレッジ（特に理系の研究範囲・文系の専攻分野に関わること）を説明できる方

（企業から学ぶ/企業を探求する）エネルギー安定供給確保のための上流開発企業の挑戦

■タイムライン



■開催日程

2023年12月2日(土)

■開催場所

慶應義塾大学 日吉キャンパス

企業交流目的

石油開発に欠かせない、上流開発の現場の困難を学び、その上で実際の上流開発企業の開発部門事業担当者のような方から各企業が担っている役割の解像度を高める。

到達目標

- エネルギー業界で民間人として働くリアルを理解し、魅力づけとともに就職先の選択肢の一つとして検討している状態。
- 講義中で消化しきれなかった学生の考えや想いを昇華し、学びに変えるため、各企業に対して個別で質疑や討論を行っている状態。

協力企業

	INPEX	JAPEX	JX石油開発
	株式会社INPEX	石油資源開発株式会社	JX石油開発株式会社
人事部系 ご担当者様	1名	2名	3名(4名)
事業部系 ご担当者様	1名	1名	-

第5回 「エネルギーの安定供給への挑戦」（公社）石油学会 教育委員 阿久津 亨 氏

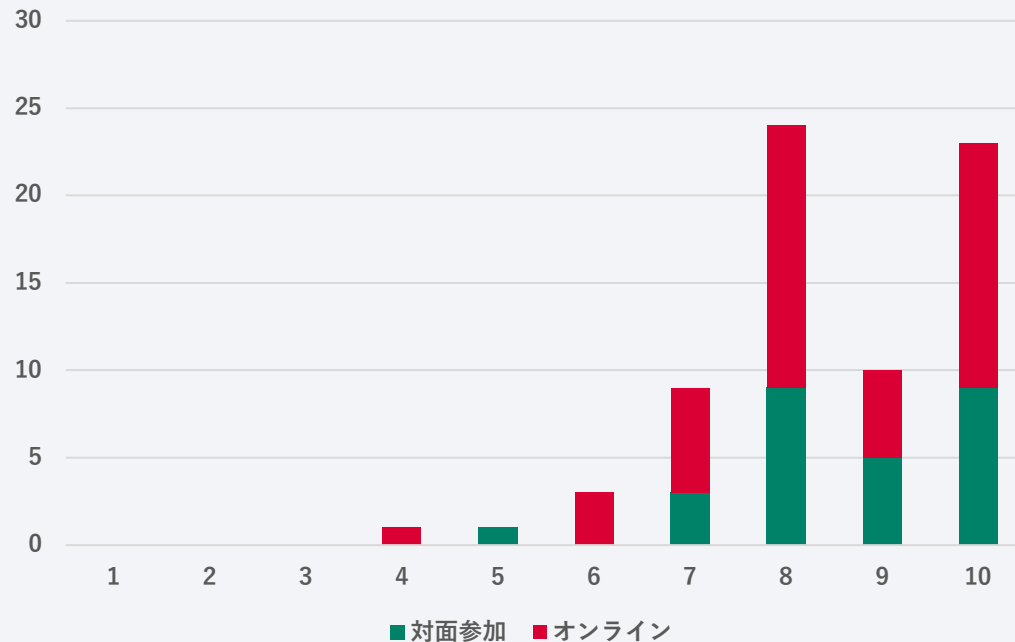
対面 41 人

日時：2023年12月2日（土）13:00～17:00 場所：慶應義塾大学 日吉キャンパス

オンライン 74 人

講義理解度

対面参加者平均8.6（回答数27件） オンライン参加者平均8.4（回答数44件）

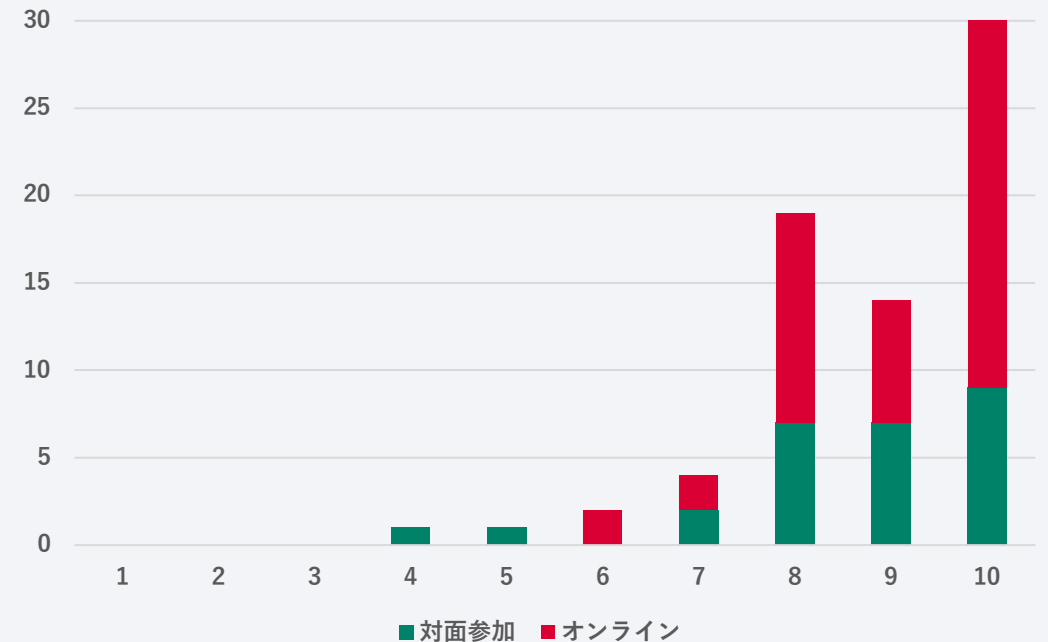


解説

企業招聘回ということもあり、約2割が今講義が初参加の参加者を記録した。そのため、一部理解度が低い回答もあったが、全体としては高い理解度を記録した。

講義満足度

対面参加者平均8.6（回答数27件） オンライン参加者平均9.0（回答数44件）



解説

全体的には高い満足度で、特にオンライン参加者からの評価は非常に高かった。一部、配信画面でのマイクが聞き取りづらい、資料が見つらいといった不満の声も散見された。

（企業から学ぶ/企業を探求する）エネルギー安定供給確保のための上流開発企業の挑戦

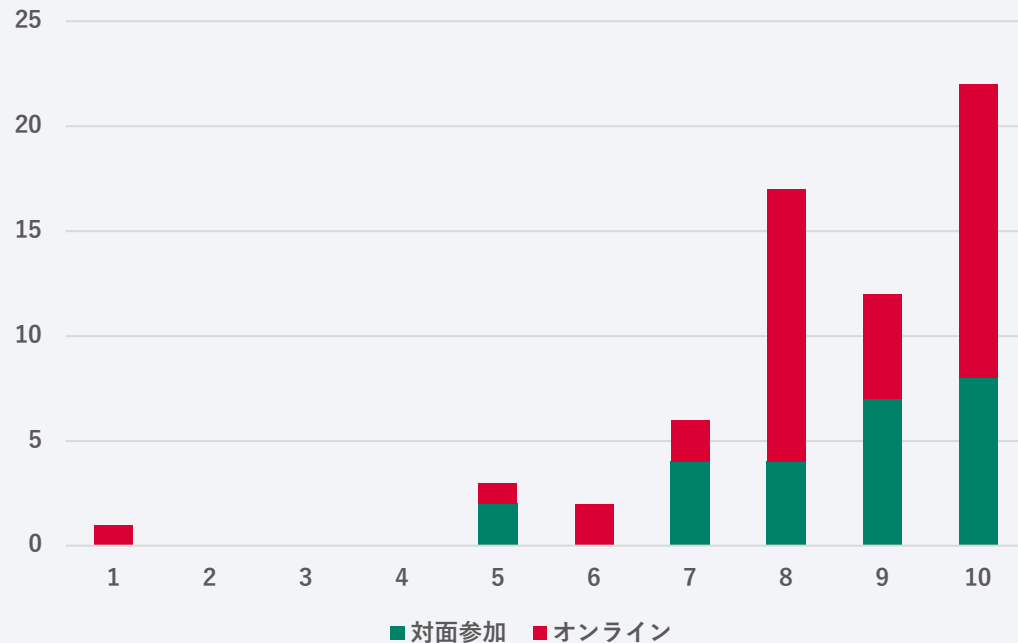
INPEX

JAPEX
石油資源開発株式会社

JX JX石油開発

企業の取組紹介理解度

対面参加者平均8.5（回答数25件） オンライン参加者平均8.4（回答数38件）

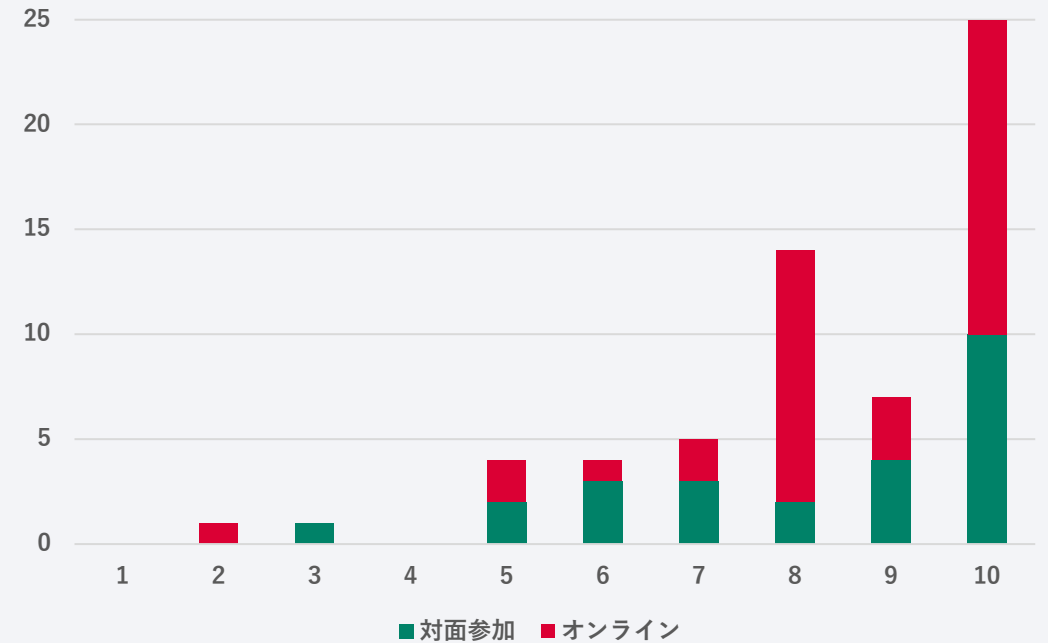


解説

全体として理解度は高かったものの、理解度の中間値が高まった背景として、企業招聘という新たな試みに対して、継続参加者は違和感を抱いた可能性が挙げられる。「1」と回答した方は満足度については未回答であり、回答ミスの可能性も考えられる。

企業の取組紹介満足度

対面参加者平均8.2（回答数25件） オンライン参加者平均8.5（回答数36件）



解説

満足度は8以上の高い水準を記録。オンライン参加者についても対面参加者と遜色ない水準であった。一方で、これまで実施してきたグループワークと比較して、受動的な時間の過ごし方に対して不満を抱く参加者もいた。

参加者の感想（抜粋）

優良項目

- 今回の講義では、今まで概要を扱ってきた上流開発について、そのプロジェクト設計から技術的な方法論までが語られた。**実際に携わってきた経験と写真、エピソードが興味深く、上流開発のリアルを知ることができた。**
- <前略>特に開発部分に関しては、**地質的な背景から最新の技術に関しても詳しく知ることができた。**石油・天然ガスに関する基礎的な知識から、かなり突っ込んだ内容まで学ぶことができ、**今後の学習でも橋渡しにもなる内容を聞けてとても満足している。**
- <前略>上流開発は大規模・長期的でリスクも大きい事業というイメージはあったが、鉱区取得の交渉や探査の様子、掘削の段階について想像を超える情報も多かった。<中略>再生可能エネルギーを生産するための鉱物資源には寡占と環境破壊の問題がある。**化石エネルギーを単純な悪とするのではなくエネルギー全体を考えるべきだと改めて思わされた。**
- 上流事業はリスクビジネスでリードタイムも長い、生産開始後のリターンも大きいという点について、そうなってくると、新規に新たな企業が参入しにくい産業分野でもあるのではないかと感じた。そのため、<中略>**INPEXや、JAPEXや、JX石油開発株式会社のような既存の会社が新たな事業を積極的に行うことが重要だと感じた。**
- 閉会后、企業の人事の方から、国の研究機関との関係や、**修士卒の就職**など、貴重なお話を伺うことができた。

要望

- 前回まであったグループワークがなくなったことで、講義と企業紹介、パネルディスカッションという構成になり、ひたすら聴くばかりになっていました。そのため、**集中力を長時間持続させることが難しかったです。**
- 民間企業の方との交流の機会が提供されたことは、とてもよかったと思いますが、その内容については、**イベント全体の構成を考慮して見直すべきだ**と思いました。
- オンラインにおいて、講義資料（特に表やグラフ）が小さくなっており、**やや見づらかった**印象です。

3.6 第5回（当日の様子）

第1回

第2回

第3回

新潟
FW

第4回

第5回

第6回

北海道
FW

プレゼン

イベント

@Gears Co.,Ltd

57



2023年12月9日

講義⑥
エネルギー業界の
新しい取組

CCS・CCUS が導く

カーボンニュートラル



経済産業省
資源エネルギー庁
Agency for Natural Resources and Energy



エネキャリア
ENERGY CAREER ACADEMY

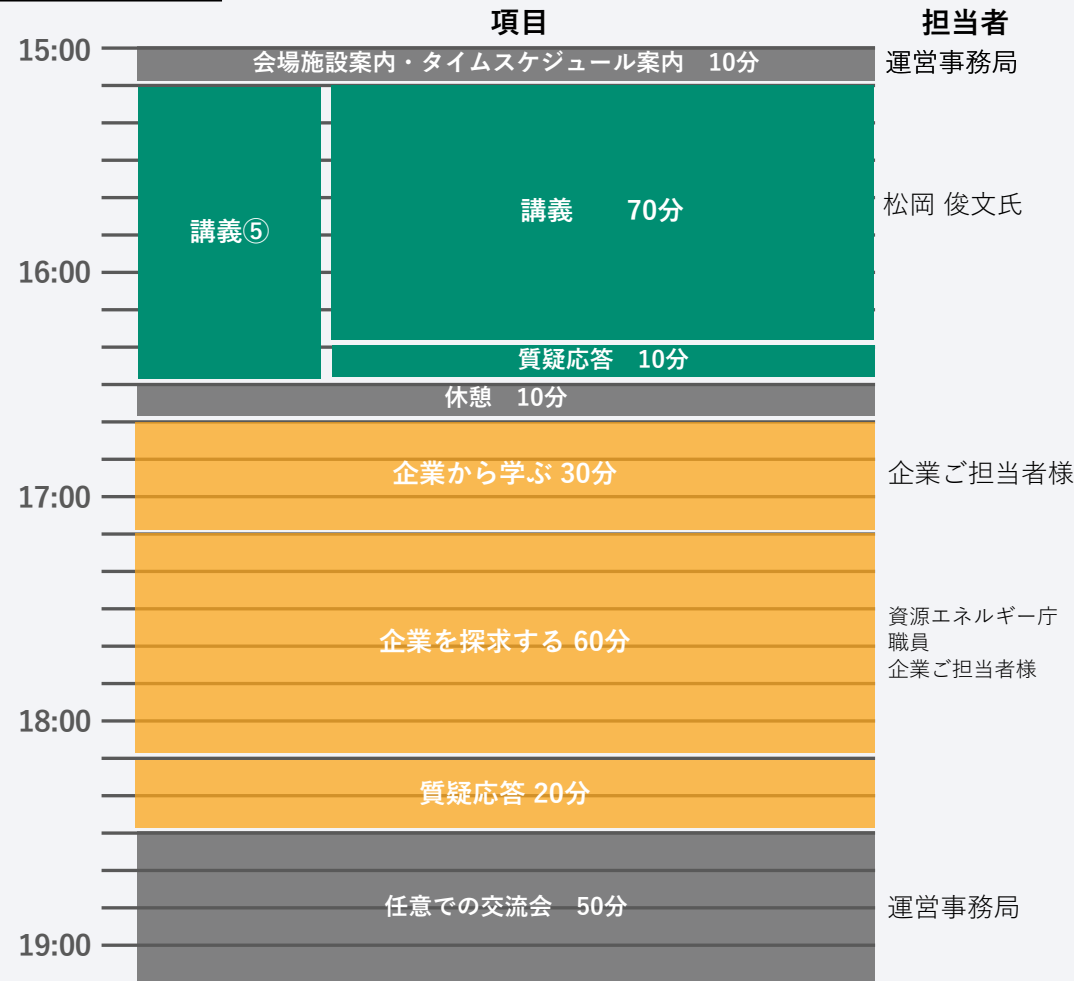


京都大学名誉教授
公益財団法人深田地質研究所顧問

松岡 俊文

エネルギー業界の新しい取組

■タイムライン



■開催日程

2023年12月9日(土)

■開催場所

関西学院大学 大阪梅田キャンパス

講義目的

カーボンニュートラル実現に向けたCCSの必要性和社会実装への課題点、分離回収や貯蔵の具体イメージ、水素やメタネーションなど最先端の技術領域やエネルギー業界との関わり等、最新の技術動向について理解し、エネルギー業界の気候変動問題への考え方、そして解決策の未来について考えるきっかけを得る。

到達目標

- CCS等最新の技術領域を知り、エネルギー業界に対しての見方が変わり、業界の未来に対しての期待感が生まれている状態。
- 日本のカーボンニュートラルに向けたCCSのポテンシャルを感じ、自らの研究やビジネスのフィールドとして検討を行う状態。

登壇講師

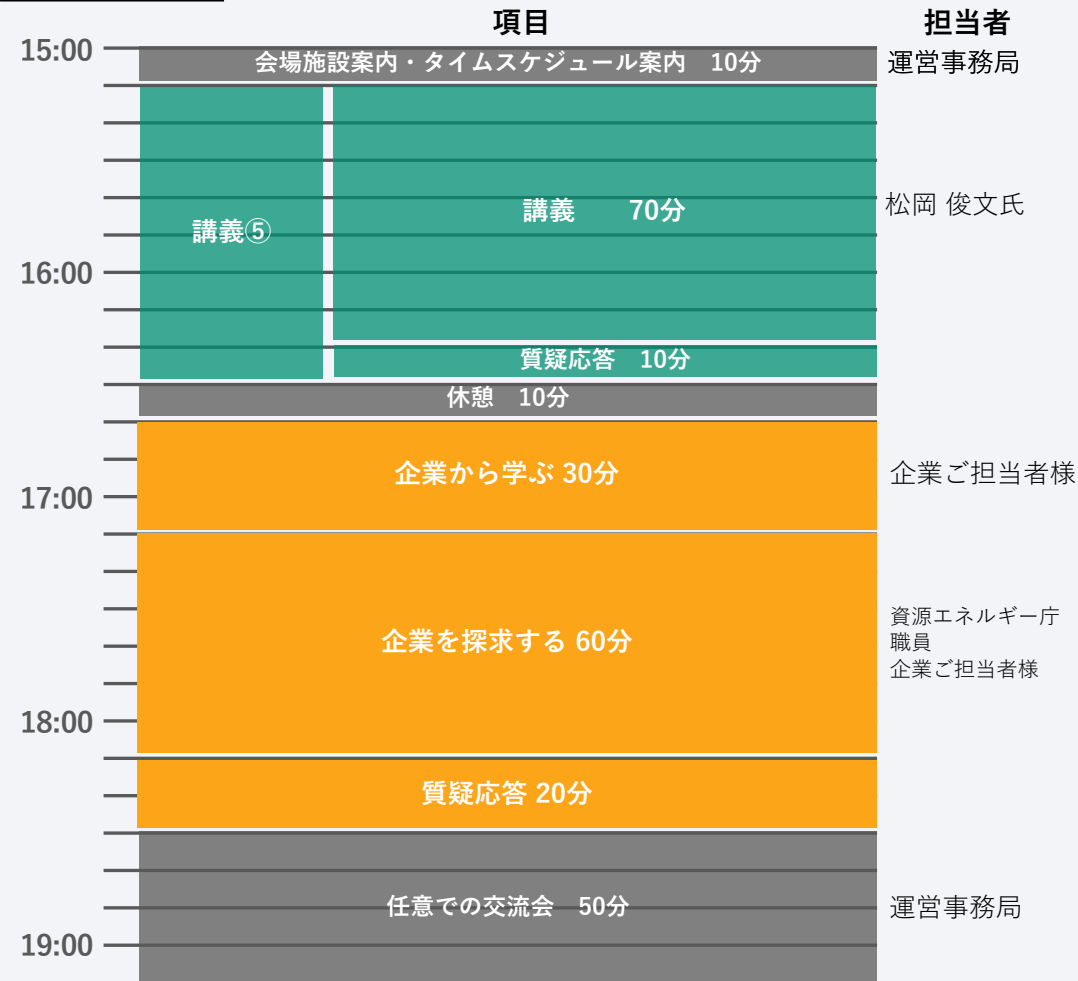
松岡 俊文 氏 京都大学名誉教授・深田地質研究所理事

<求める役割>

- CCS技術、CCUS技術について深い知見をお持ちの方
- 各国のエネルギー政策の違いと特色を理解している方

（企業から学ぶ/企業を探求する）石油精製・流通企業によるカーボンニュートラル実現に向けた挑戦

■タイムライン



■開催日程

2023年12月9日(土)

■開催場所

関西学院大学 大阪梅田キャンパス

企業交流目的

石油開発に欠かせない、流通/精製の現場の困難を学び、その上で実際の上流開発企業の開発部門事業担当者のような方から各企業が担っている役割の解像度を高める。

到達目標

- エネルギー業界で民間人として働くリアルを理解し、魅力づけとともに就職先の選択肢の一つとして検討している状態。
- 講義中で消化しきれなかった学生の考えや想いを昇華し、学びに変えるため、各企業に対して個別で質疑や討論を行っている状態。

協力企業

		
出光興産株式会社	コスモエネルギーHD株式会社	ENEOS株式会社
人事部系 ご担当者様	2名	1名
事業部系 ご担当者様	1名	1名

第6回 「エネルギー業界の新しい取組」

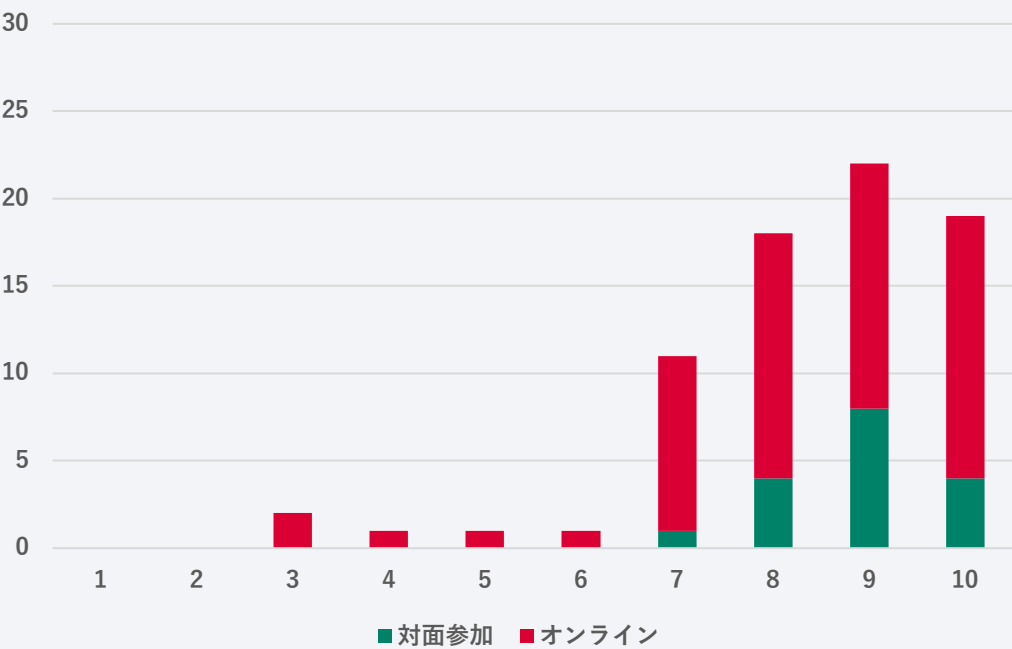
京都大学名誉教授（公財）深田地質研究所顧問 松岡 俊文 氏

日時：2023年12月9日（土） 15:00～19:00 場所：関西学院大学 大阪梅田キャンパス

対面 22 人
オンライン 110 人

講義理解度

対面参加者平均8.9（回答数17件） オンライン参加者平均8.4（回答数57件）

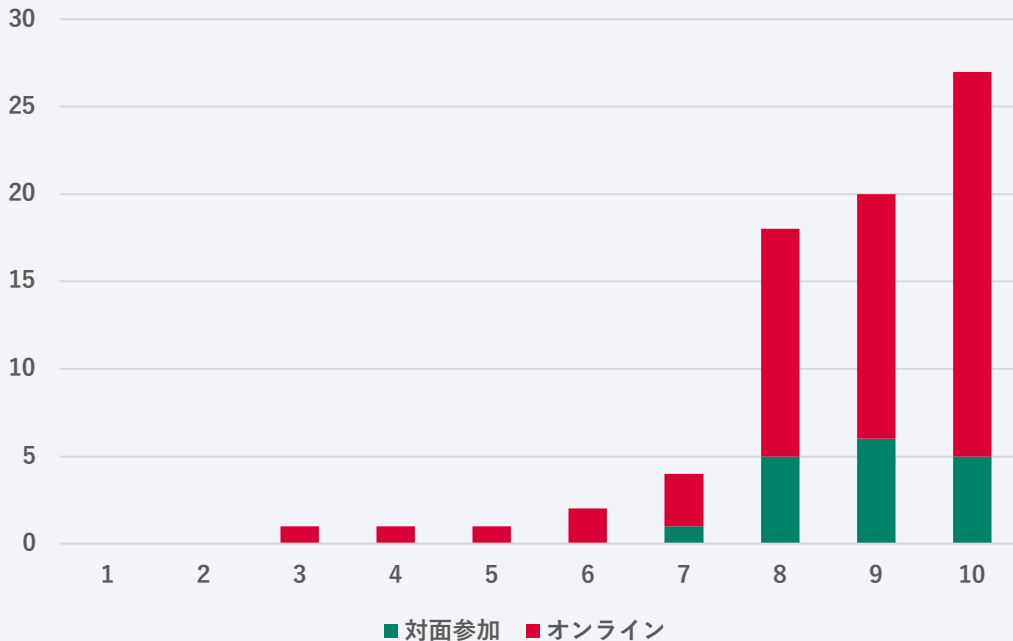


解説

大阪での開催であったため、オンライン参加者が多かったが、継続参加者が多く、全体の理解度は高かった。一方、第5回と同様の理由で新規参加者は4割程いたため、理解が難しかった参加者もいたと考えられる。

講義満足度

対面参加者平均8.9（回答数17件） オンライン参加者平均8.7（回答数57件）



解説

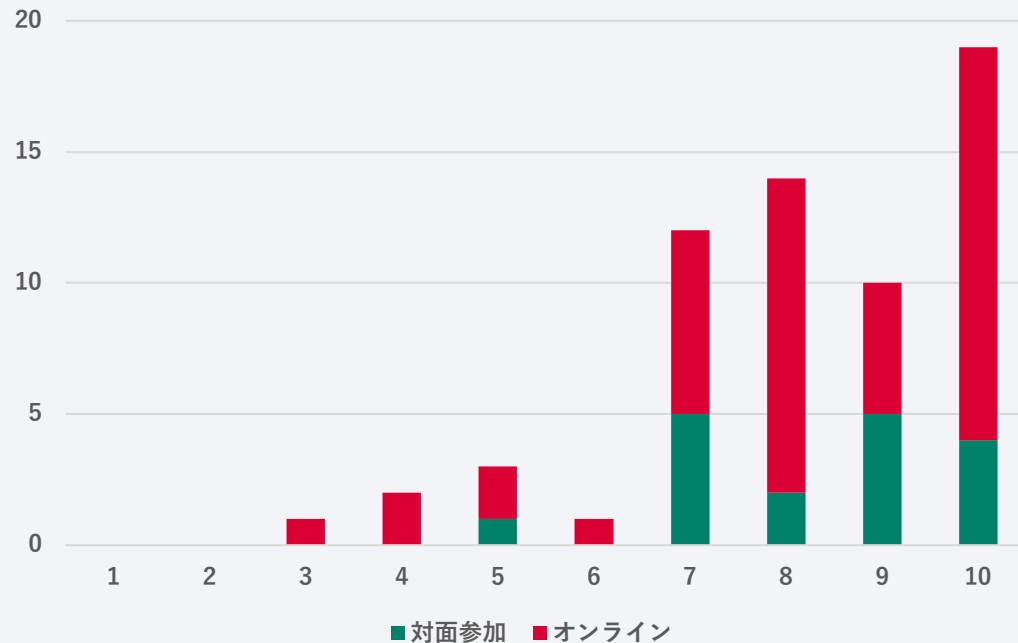
本講義も高い満足度を記録したが、「カーボンニュートラルに向けた新技術」という、新知識の習得による影響が大きいと考えられる。また、理解度が低い参加者の満足度は相関する形で低い値となった。

（企業から学ぶ/企業を探求する）石油精製・流通企業によるカーボンニュートラル実現に向けた挑戦



企業の取組紹介理解度

対面参加者平均8.3（回答数17件） オンライン参加者平均8.2（回答数45件）

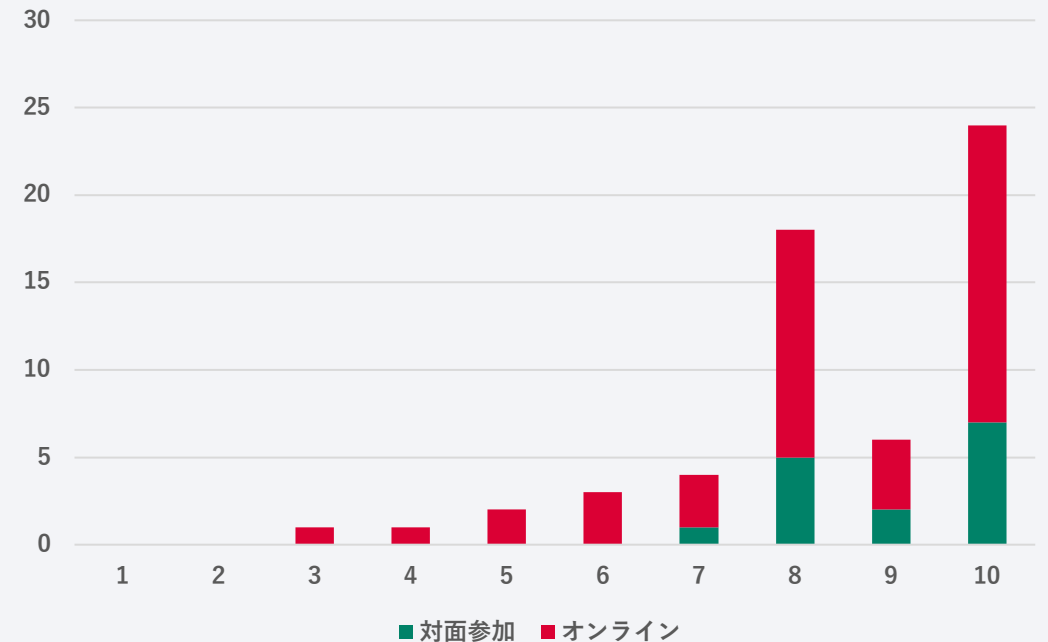


解説

全体としては平均以上の理解度水準であった。第5回と同様の理由で、理解度が低い参加者については、企業交流への期待値が低かったと推測される。

企業の取組紹介満足度

対面参加者平均9.0（回答数15件） オンライン参加者平均8.3（回答数44件）



解説

企業の取組紹介の満足度についても理解度と同様に期待値に沿っていない参加者は低い値であるが、反対に**企業交流目的の学生の満足度は非常に高い値**を示している。

参加者の感想（抜粋）

優良項目

- ・ 二酸化炭素の貯留をするCCS技術や現在世界各国で行われている現況を知ることができた。＜中略＞また、**日本が技術力でCCSをリードできるポテンシャル**があることが分かり、**今後どのように日本が世界をリードするかを自分なりに考えていきたい**。
- ・ ＜前略＞エネルギー業界で何か物事を動かすときには社会の幅広いコンセンサスを得られないといけないのだと痛烈に感じました。＜中略＞最終的にそのコストが消費者に転嫁されるのであれば、そのことに対する理解を得る必要はありますので、**CNの達成とエネルギーの安定供給という両輪を成り立たせる“最後の砦”であるCCSをどのように育てていくのか、これからの長い時間をかけて考えていきたい**と思いました。
- ・ 以前から、友人にエネルギー業界に進もうと考えていると話すと、これからの時代安定しないんじゃない？と言われることが多々あった。しかしながら私は、この業界の過渡期だからこそ、人々は困難を抱え、その困難こそがビジネスのヒントになると考えていた。今回のエネキャリを通して、自身が進むべき方向性が見えたと同時に＜中略＞**自身がこの業界に来て正解だった、と感じられるような選んだ道を成功に変える努力が必要だ**と感じた。
- ・ ＜前略＞また、講義後の企業交流会も、**民間就活を経験していない自分にとっては前回同様非常に学びのある機会**となりました。特に、今回参加された出光興産・ENEOS・COSMOの3社は、ガソリンの小売で目にしたことのある非常に身近な企業であり、それら企業がカーボンニュートラル実現のため様々な取組を進めていることを知り、**社会貢献のアクター・やり方は国に限らず多様**であることを改めて感じました。
- ・ 講義終盤の「エネルギー業界は理系のみならず、文系の学生の活躍の場にもなるだろう。」という言葉に励まされた。＜中略＞**自分の将来が少し見えたような気がした**。また、企業の方から学ぶの部門では、エネルギー3社ライバルではなく仲間として見ていると認識した。競合会社でありながら、油を融通しあったり、**日本のエネルギー安定供給を行うための各社のプロ意識**を学んだ。

要望

- ・ ＜前略＞**新卒向けにターゲットを絞った内容よりも幅広い内容の方がよかった**。
- ・ ＜前略＞ただ、**企業交流については対面に勝る経験もない**と改めて感じたので、実際に足を運びたかったなと思います。
- ・ パネルディスカッションでは、**映像収録の画面内に聴衆が映り込んでしまっていた**。

3.7 第6回（当日の様子）

第1回

第2回

第3回

新潟
FW

第4回

第5回

第6回

北海道
FW

プレゼン

イベント

@Gears Co.,Ltd

64



The background image shows a large industrial facility, likely a carbon capture plant. It features a complex network of large, dark-colored pipes running horizontally across the middle ground. Above and below these pipes are multiple levels of walkways with yellow safety railings. In the background, there are several large, cylindrical storage tanks and various industrial structures. The sky is clear and blue. The overall scene is a detailed view of a large-scale engineering project.

1/11 thu. - 12 fri.

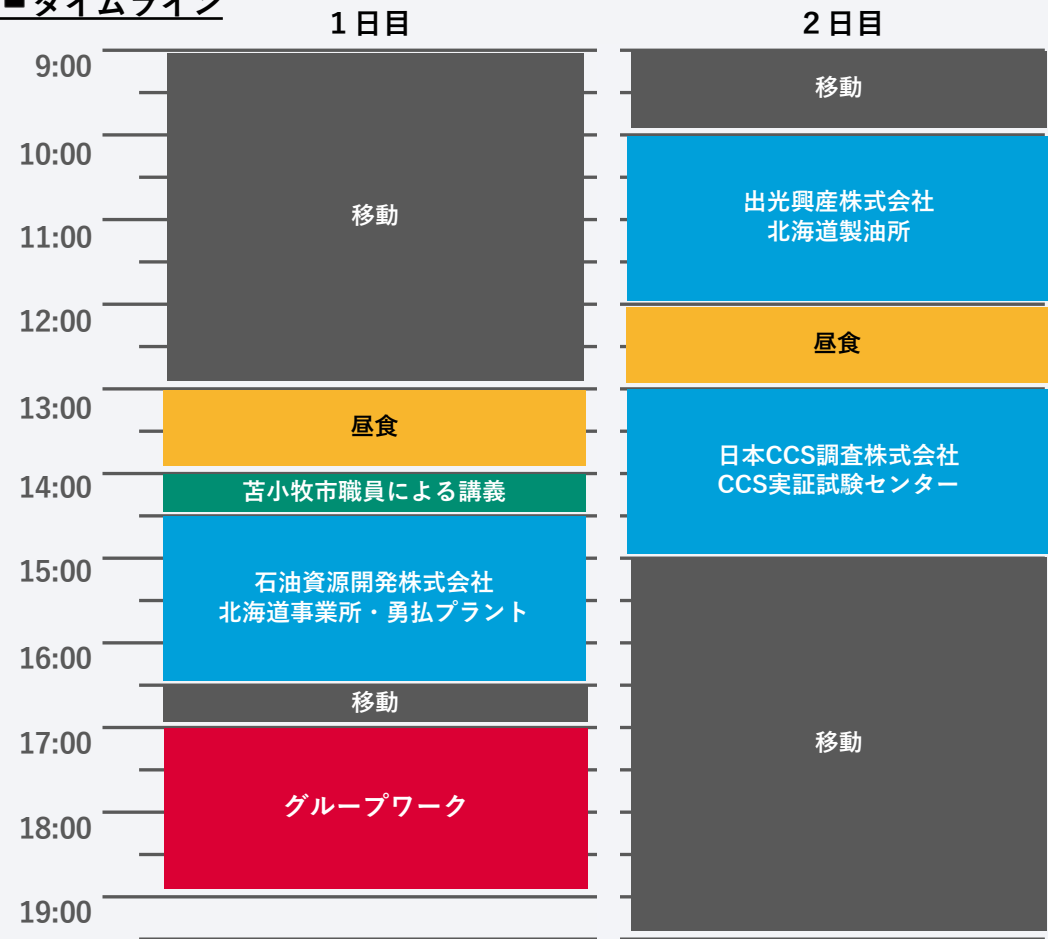
リアル開催

苫小牧 CCS 実証試験センター 勇払プラント

CCS 実証試験を行う施設や、道内で生産したガスを
パイプラインへ送るプラントを訪問。施設見学や
現場社員との交流を行います。

北海道フィールドワーク（石油資源開発・出光興産・CCS実証試験センター）

■タイムライン



実施目的

石油・天然ガスの生産現場であり、CCSの実証現場でもある苫小牧に赴き、エネルギー安定供給の重要性を理解するとともに、カーボンニュートラル達成に向けた上流開発企業の最先端の取組を学ぶ。また、現場職員との交流会を実施して、現場で働く醍醐味を体感する。

プログラム・訪問先

- 苫小牧市職員による講義
講義・質疑応答
- 石油資源開発株式会社 北海道事業所・勇払プラント
施設紹介・施設見学、職員交流
- グループワーク 模擬「G7気候・エネルギー・環境大臣会合」
ロールプレイングディスカッション
- 出光興産株式会社 北海道製油所
施設紹介・施設見学、職員交流
- 日本CCS調査株式会社 苫小牧CCS実証試験センター
施設紹介・施設見学

開催日時

2024年1月11日(木)/1月12日(金)

開催場所

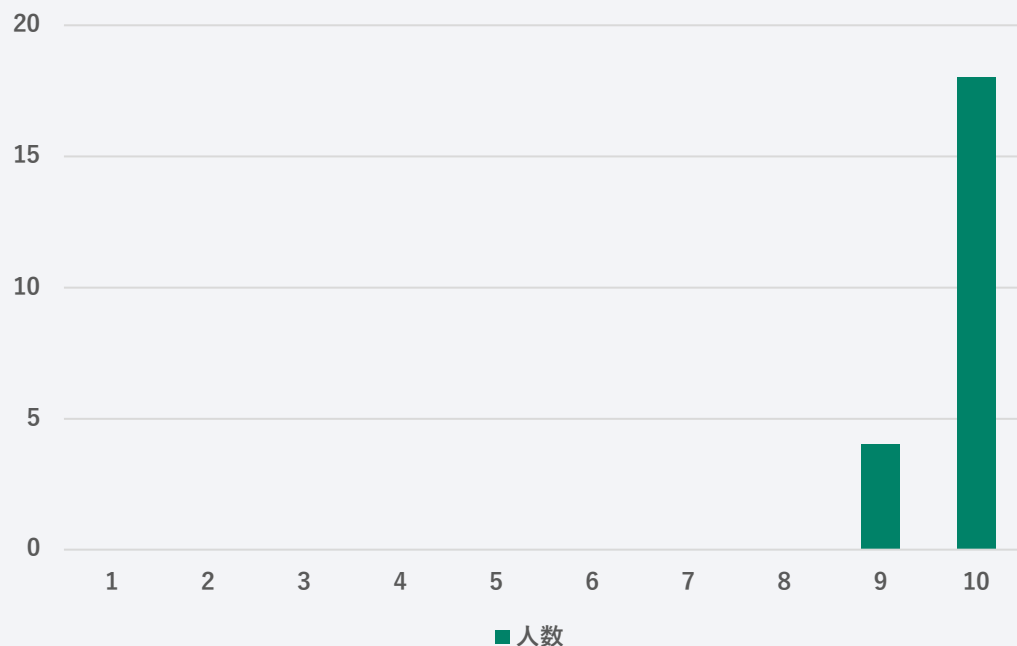
苫小牧市

北海道フィールドワーク（石油資源開発・出光興産・CCS実証試験センター）

参加 **24** 人

日時：2024年1月11日（木）～ 1月12日（金） 場所：苫小牧市

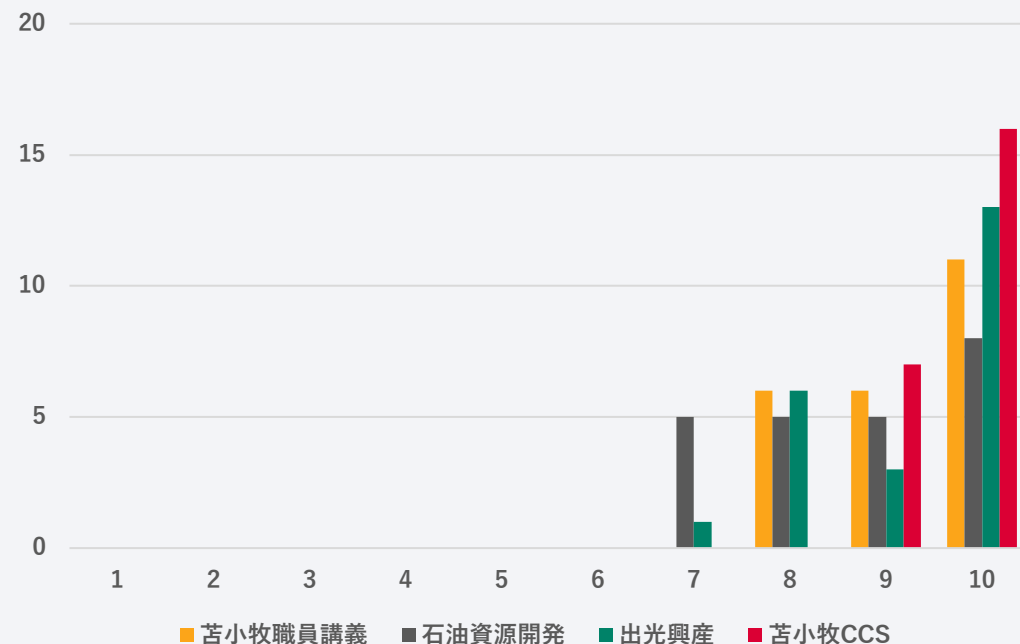
総合評価

参加者平均 **9.8** (回答数22件)

解説

エネルギーの全てのプログラムの中で**最も高い平均満足度**を獲得した。継続参加者中心の少人数のプログラムであり、参加者同士、また運営側とも一定の関係性が構築されていたことも大きく貢献しているだろう。

プログラム別満足度

苫小牧市職員講義9.2 石油資源開発北海道事業所8.7
出光興産北海道製油所9.2 苫小牧CCS実証試験センター9.7 (回答数23件)

解説

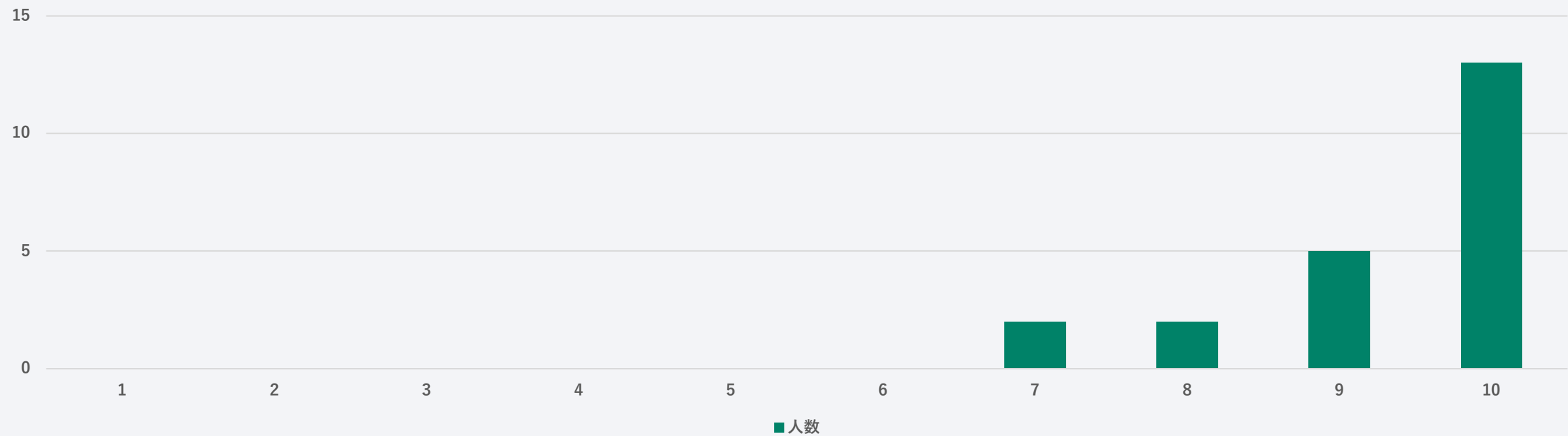
総じて高い満足度であったが、施設を間近で見ることができなかった石油資源開発のみ若干低い傾向を示した。一方、苫小牧CCS実証試験センターは、見学プログラムが体系的で充実していたため、非常に高い数値となった。

模擬「G7気候・エネルギー・環境大臣会合」

昨年4月に札幌で開催した「G7気候・エネルギー・環境大臣会合」の模擬を実施。カーボンマネジメントに関する合意文書の作成を行った。

模擬G7グループワーク満足度

参加者平均9.3 (回答数22件)



解説

全体的に**非常に高い満足度**であった。貢献要因として移動の間に参加者向けにグループワークの説明を行っていただいたこと、参加者同士グループワークに向けた議論を重ねた事などが考えられる。また、ディスカッション型のグループワークであったが、これまでの継続参加者の議論や性格の傾向を把握した上で、チーム分けの段階で議論を推進する中心メンバーを分散させたことにより、全体として、**議論が活性化**したことも満足度に影響している。

参加者の感想（抜粋）

優良項目

- ・ 僕は大学で核融合工学か原子力工学を専攻しようと思っていましたが、今回のフィールドワークを通してCCSや石油といった新たな分野の知見を得ることが出来、それらを**学問としてもっと学びたい**という考えを持つことが出来ました。**今回のフィールドワークは自分にとって転換点**となりました。
- ・ <前略>出光さんやJAPEXさんといった大手上流企業の現在の話や未来の話、今後取り組むべき事業などを細かに知ることができたことは、これから**自分がエネルギー業界への就職を考えるには十分すぎる**マテリアルでした。また、かねてから考えていた官僚の道も、模擬G7を通して魅力が増しました。もともとこのエネキャリにはエネルギー業界への就職を選択肢に入れることと、大学で学んでいる外交問題と資源外交に関連があると思い参加しました。<中略>それが、今までの講義と二度のフィールドワークを通したことで、**ただの興味から貢献したいという意欲に代わりました**。<中略>**今回のフィールドワークを通してエネルギー業界への参加意欲がさらに高まった**ので、今後の自分の道をじっくり考えていきたいと思います。
- ・ <前略>この体験の全体を振り返り、特に学びを得られたことは「**法令の重要性**」についてです。エネルギー関連産業は、目下気候変動対策のためのカーボンニュートラル実現と、従来のエネルギー安定供給という2つを両輪で達成しなければならないという、大変難しい岐路に立たされていると実感しました。その上で、エネルギー供給の安定・安全を確保するためには、各種法令による安全基準の策定や緊急時の対応計画が重要であり、かつ脱炭素を推進すべく、CCSといった新技術の開発・導入を促進するためには、法令を駆使した裏付け・支援を行うことが必要であると学ぶことができました。
- ・ 特にエネルギー業界で働く企業の方から直接お話を伺うことができ、**自分の将来の選択肢の一つとして、具体的に捉えることができ良かった**。
- ・ この経験をもとに**将来の進路や関わっていく分野について考えていきたい**と強く思いました！
- ・ これ**以上ないほど濃密で貴重な体験をさせていただき、感動が未だ冷めやらず**残っております。

要望

- ・ 民間企業の方と交流する機会が何度かありましたが、<中略>**学生全員が必ずしも、その民間企業やその業界を就職先として志望しているわけではなく、その業界の行っている事業に関心があるという点をしっかりと情報共有しておいてほしかった**です。
- ・ **解散の連絡が不十分**だったように感じました。その他、**特に移動について、しっかりと丁寧に連絡してもらえると**よかったです。

3.8 北海道フィールドワーク (当日の様子)

第1回

第2回

第3回

新潟
FW

第4回

第5回

第6回

北海道
FW

プレゼン

イベント

@Gears Co.,Ltd

70



最終プレゼンテーション
2024.2.9 FRI

挑め、すべての経験を
エネルギーにして。

ADVANCE INTO THE FUTURE!!

エネカリ
ENERGY CAREER ACADEMY

プレゼンテーション「ADVANCE INTO THE FUTURE」

■タイムライン



■開催日程

2024年2月9日(金)

■講義開催場所

経済産業省 会議室

開催目的

これまでのプログラムを通じて得られた学びを総動員して、エネルギー業界が向き合うテーマをグループワークを通して実際に考えてみることを通して、自らの学びとして定着させるとともに、エネルギー業界に向き合う面白さを体感し、働く面白さを追体験することで、志望度を向上させる。

グループワークのテーマ

世界や日本社会に貢献するために、2050年に「エネルギーの安定供給」「カーボンニュートラルの達成」を両立させながら「収益の最大化」を実現する、2050年の日本の上流開発企業の事業計画を立案し、プレゼンテーションしよう。

審査員

大場 紀章 氏

(ポスト石油戦略研究所代表)

長谷川 裕也 氏

(資源エネルギー庁
資源開発課長)

ワークサポーター

井上 加代子 氏

(資源エネルギー庁
資源開発課)

野口 勇樹氏

(資源エネルギー庁
資源開発課)

細井 彩世 氏

(資源エネルギー庁
資源開発課)



株式会社INPEX

審査員

1名

ワークサポーター

-

オブザーバー

2名



石油資源開発
株式会社

1名

-

3名



JX石油開発
株式会社

1名

1名

3名

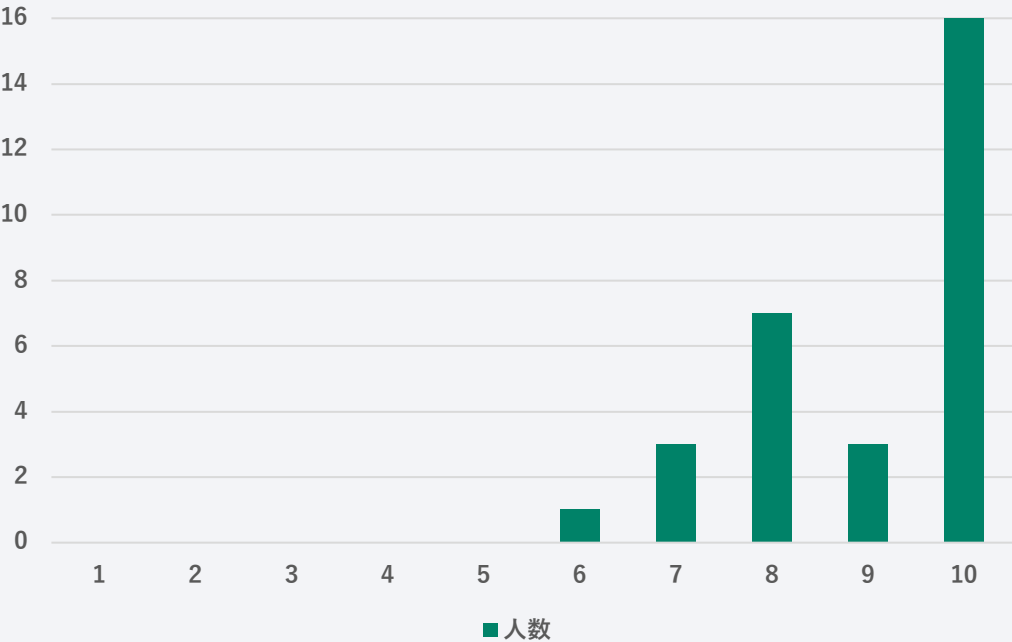
最終プレゼンテーション「ADVANCE INTO THE FUTURE」

日時：2024年2月9日（木） 13:00～17:00 場所：経済産業省 会議室

参加 39 人

グループワーク満足度

参加者平均9.0（回答数30件）

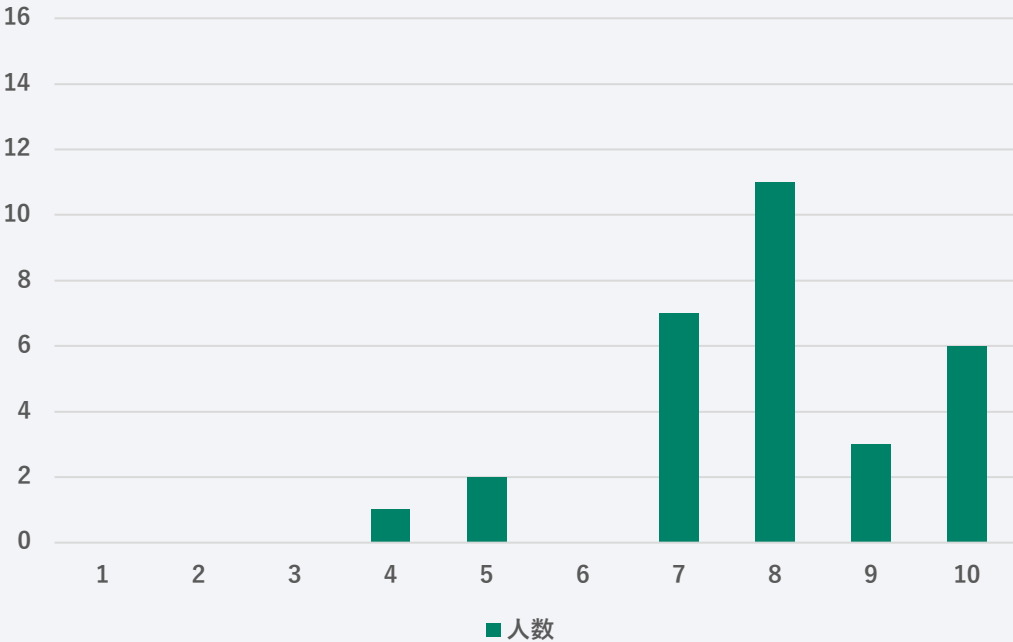


解説

全体的に非常に高い満足度を記録した一方、「6」と回答した参加者は検討時間の短さを主な理由に挙げていた。それ以外の参加者からも時間が足りないといった声を多くいただいた。

プレゼンテーション満足度

参加者平均7.9（回答数30件）

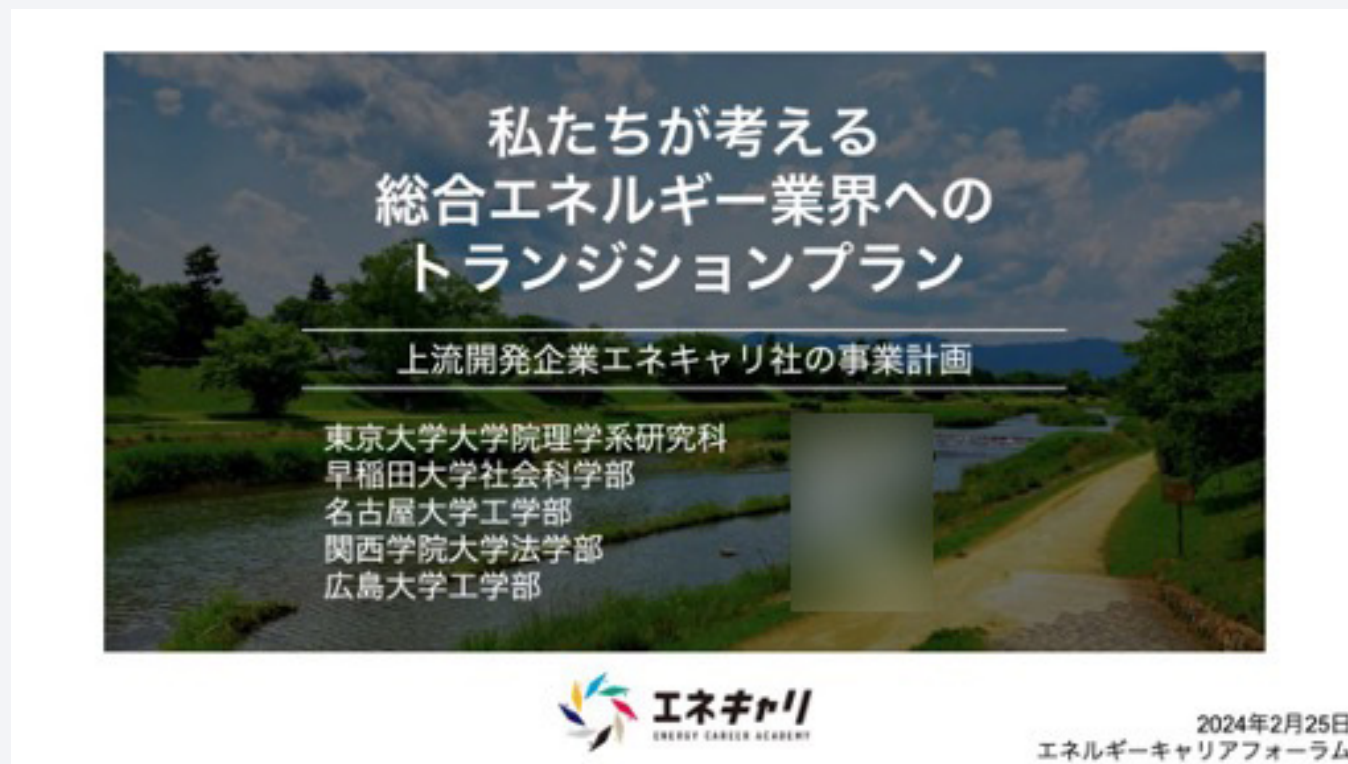


解説

グループワークに対して、プレゼンテーションの満足度平均は低い傾向であった。その背景として考えられる要因は、発表時間やスライド作成に係る時間の不足など、運営進行上の都合に起因するものが大半であった。

世界や日本社会に貢献するために、2050年に「エネルギーの安定供給」「カーボンニュートラルの達成」を両立させながら「収益の最大化」を実現する、2050年の日本の上流開発企業の事業計画を立案し、プレゼンテーションしよう。

プレゼンテーション内容



最優秀チームは、エネルギー安定供給とカーボンニュートラルを両立した上で、収益を倍増させるプランを提案。日本の地理的特徴を活かした中水力発電事業や、早生樹植林によって二酸化炭素吸収と木質バイオマス発電を両立する案など、これからの未来に希望が膨らむプランとなった。

参加者の感想（抜粋）

優良項目

- ・ <前略>考えるだけでなく、アウトプットができるグループワークはどれも壮大なテーマで、**現場の一線で働く方が、何を大切にして、どのような大変さがあるかが想像できました。**
- ・ ここで得た仲間は一生の宝物になると思います。エネルギー安全保障は本当に多くのプレーヤーが支えており、いつか、**ここで出会った人と、一緒にエネルギーを支えている未来が想像できます。**このような機会をぜひ、今後も続けていただきたいです。
- ・ これまでのグループワークでは、定性的な議論が多く、ふわっとした内容になる傾向がありましたが、今回のグループワークは、**具体的な数値を用いて定量的に議論することができ、新鮮な印象**がありました。
- ・ チーム編成が絶妙だったので、お互い得意な分野や考え方が異なるので、少しずつ課題を解決しながら、**建設的な議論を展開**することができました。
- ・ グループワークの内容が今まで**私の人生の中で行ったグループワークの中で1番難しく**、エネキャリの集大成に相応しいなと思いましたし、グループワークの内容を見ているうちに、楽しかったエネキャリももう最後なのかと感慨深い気持ちになっていました。
- ・ いかに、短期間で、**考えが違う可能性のある人と意見を擦り合わせていけるのか**、他人の意見も尊重しつつ、自分の意見も理解してもらえるか、などグループワークで重要なことを再度学ぶことができたので、いずれまたグループワークをすることがあれば、今回の学びを活かしたいと思います。

要望

- ・ <前略>「エネキャリ」の名称やこれからのエネルギー業界を担う人を対象としていることを考慮すると、過去を振り返るばかりでなく、**不確実ながらも未来のある別のエネルギー資源**についても、もう少し扱われてもよかったように感じました。
- ・ 地方から参加させていただいた中で、**オンライン参加時の資料配布やグループワークなど対面参加との違いが大きい**と感じました。
- ・ <前略>また、最終プレゼンテーションに関して、**事前準備がいることや説明会がある告知をエントリー段階に**していただきたいかったです。<中略>エントリー段階に告知等があれば、参加者全体で都合がつけやすいと感じました。
- ・ 今回のお題について、事業計画を考え、かつその改善策を提案するという流れに**少々分かりにくさ**を感じました。

3.9 プレゼンテーション（当日の様子）

第1回

第2回

第3回

新潟
FW

第4回

第5回

第6回

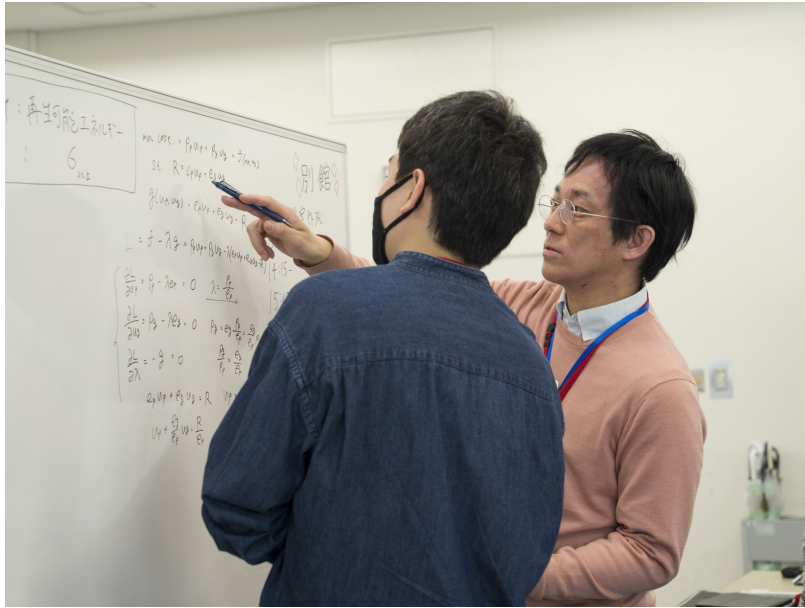
北海道
FW

プレゼン

イベント

@Gears Co.,Ltd

76





資源エネルギー庁
Agency for Natural Resources and Energy

エネキャリア
ENERGY CAREER ACADEMY

INVITATION
to THE ENERGY FIELD



エネルギー業界と聞いて、どんなイメージを思い浮かべますか。

電気、ガス、石油に再生可能エネルギー、そして環境との共生——
とはいえ、具体的なことは良くわからないという方も多いのではないのでしょうか。

でも、一步踏み込んで眺めると、新しい姿が見えてくる。

エネルギー業界は、ビジネスも働き方も、急速に変化しており、
イメージだけで見過ごすのがもったいないほど面白い。

企業に出会い、最先端の取組を知り、
エネルギーについてみんなで考える機会として、
未来へ向かう特別な日曜日を、ともに過ごしたいと思っています。

エネルギー
キャリア
フォーラム

2024.2.25 SUN

拝啓、
学生のみなさま。



エネルギーキャリアフォーラム

■タイムライン

項目	担当者
13:00 オープニングメッセージ 3分	上月経済産業副大臣
プレゼン エネルギーの安定供給実現に向けて 25分	(株) INPEX
プレゼン カーボンニュートラル実現への企業の取組 30分	(株) INPEX 石油資源開発 (株) JX石油開発 (株)
14:00 休憩 10分	
パネルディスカッション カーボンニュートラル実現への取組 50分	経済産業省 三井住友FG (株) INPEX 石油資源開発 (株) JX石油開発 (株)
15:00 休憩 15分	
プレゼン 私たちが考える 総合エネルギー業界へのトランジションプラン 20分	エネキャリア 参加学生
クロージング 総合エネルギー業界への変革に向けて 5分	定光 資源・燃料部長
任意の交流会 20分	
16:30	

■開催日程

2024年2月25日(日)	日本科学未来館 未来館ホール
---------------	----------------

■記念品

オリジナルトートバッグ

開催目的

- ・エネルギー業界の働き方と未来について理解を深める。
- ・過去プログラムに参加していない学生に対してもエネルギー業界の魅力を伝える。

プログラム内容

- ・上流開発企業等によるパネルディスカッション
エネルギーの安定供給とカーボンニュートラルを実現させる、総合エネルギー業界への変革ビジョンについて話し合うセッションを実施する。
- ・未来を担う次世代によるプレゼンテーション
エネキャリアの講義やフィールドワークを受講したによる、「総合エネルギー業界へのトランジションプラン」の検討・提案において、特に優れた提案を行ったチームをエネルギーキャリアフォーラムに特別ゲストとして招き、トランジションプランを発表する。
- ・相互理解を深める、企業×学生の交流ブース
場内に、業界を牽引する企業と業界への関心度が高い学生との出逢いが醸成されるような、交流ブースを設ける。学生と企業両者にとって、自発的な出逢いの場を創出する。

協力企業

	INPEX 株式会社INPEX	JAPEX 石油資源開発株式会社 石油資源開発株式会社	JX JX石油開発 JX石油開発株式会社
人事部系 ご担当者様	2名	2名	1名
事業部系 ご担当者様	1名	1名	1名

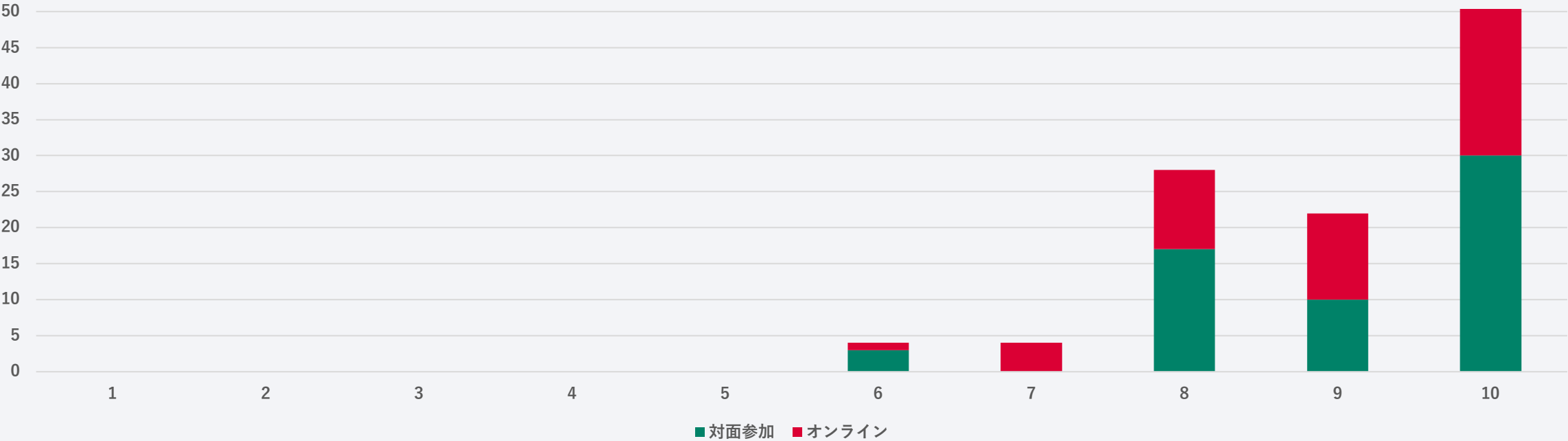
エネルギーキャリアフォーラム

日時：2024年2月25日（日） 13:00～15:45 場所：日本科学未来館 未来館ホール

対面 81 人
オンライン 91 人

全体満足度

対面参加者平均9.1（回答数60件） オンライン参加者平均9.0（回答数50件）



解説

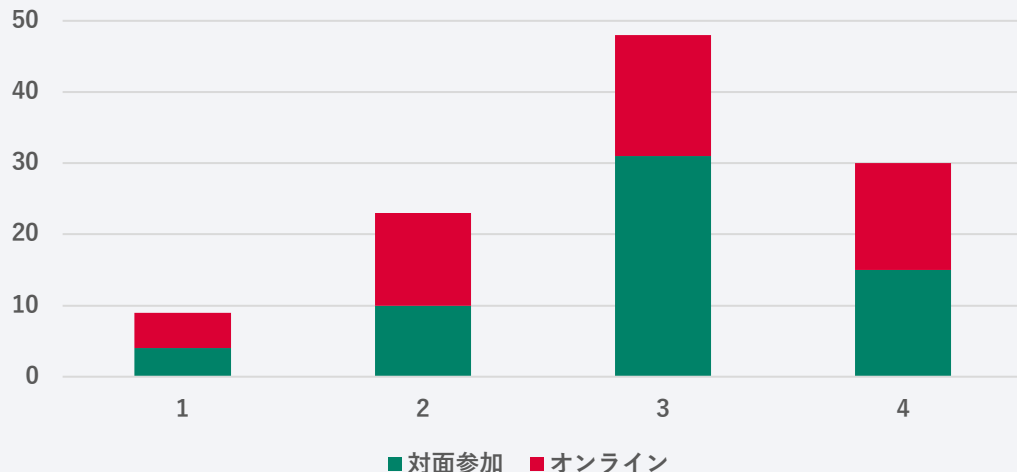
対面参加、オンライン参加ともに**非常に高い満足度**を記録。プレゼンテーションやパネルディスカッション等、参加者が聴衆として受動的になってしまうプログラムが中心であったが、時間の区切りを細かく設けていたことや、登壇者の切り替わりが多かったことなどから冗長な印象は避けられた。エネキャリアの講義には参加しておらず、本イベントに参加する方も多かったため、新鮮な情報として受け取ってもらえたことも満足度への貢献要素として影響していると考えられる。

エネルギーキャリアフォーラム

日時：2024年2月25日（日）13:00～15:45 場所：日本科学未来館 未来館ホール

参加前の業界への理解・志望度

対面参加者平均は3.0（回答数60件） オンライン参加者平均2.9（回答数50件）



[回答内容]

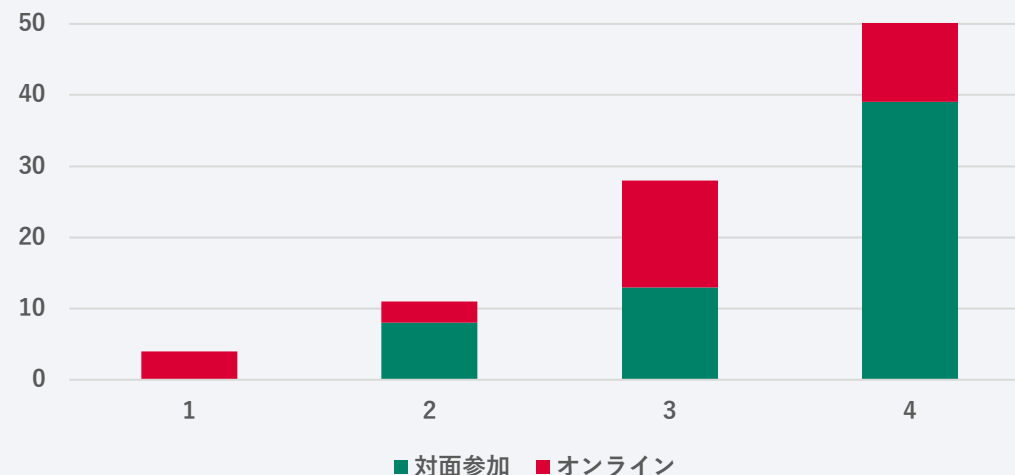
- 1:エネルギー上流開発業界について知らなかった
- 2:エネルギー上流開発業界の企業・取組の存在自体は認知していた
- 3:エネルギー上流開発業界の取組やその目的について理解していた
- 4:エネルギー上流開発業界の取組やその目的について共感していた

解説

エネルギー上流開発業界への理解がある参加者が大半である一方、「上流開発企業について知らなかった」と応える参加者も一定数いた。

参加後の業界への理解・志望度

対面参加者平均3.5（回答数60件） オンライン参加者平均3.4（回答数50件）



[回答内容]

- 1:エネルギー上流開発業界について知らなかった
- 2:エネルギー上流開発業界の企業・取組の存在自体は認知していた
- 3:エネルギー上流開発業界の取組やその目的について理解していた
- 4:エネルギー上流開発業界の取組やその目的について共感していた

解説

多くの参加者が、エネルギー上流開発業界への共感を示す結果となった。また、その傾向にはオンライン参加者も対面参加者も大きな差分は生じなかった。

参加者の感想（抜粋）

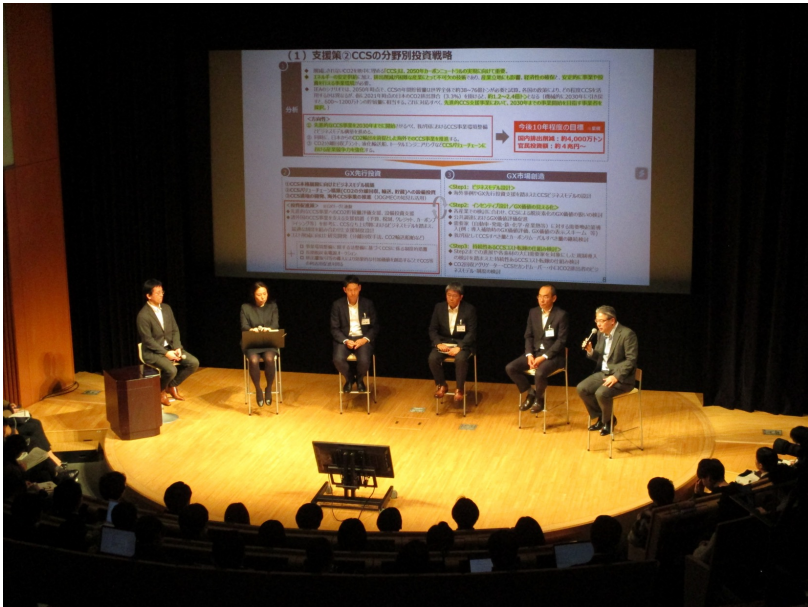
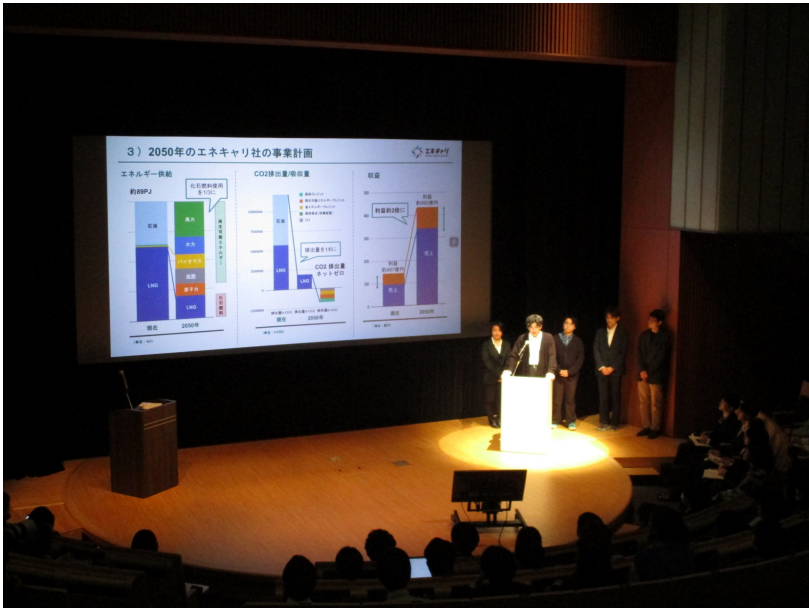
優良項目

- CCUに対する企業の取組を知ることができ、カーボンニュートラルのためのアプローチのひとつとして**非常に将来性のある事業だと感じた**。
- ビジネス側や学生など通常と異なる視点もあり、大変勉強になりました。**エネルギー上流開発業界で職を得たい**と考えるようになりました。
- 今回は中々お目にかかれないエネルギー開発の上流企業の各社のお話を踏まえて、**エネルギー業界で働きたい**という思いがより一層強くなりました。
- 我が国の資源の上流部分を担う3つの企業から直接、特に**CCSやエネルギーの未来について伺うことのできる機会**はこれ以外ないので、自分にとってとても意味のあるイベントに参加することができたと感じる。また、同年代の人がエネルギーについて考えプレゼンしている姿をみてエネルギーの未来について**未来に生きる我々が考えていくことに意味があると感じることができた**。
- 強い使命感をもって働かれているエネルギー会社、省庁、金融機関のお話を聞けただけでなく、**日本の未来を担う同世代のプレゼンテーションを聞いてモチベーションが向上した**。
- エネルギー業界についての理解が深まりました。＜中略＞現在は次世代エネルギーにスポットが当たっていますが、**安定供給を支える従来のエネルギーについても周知していきたい**と思いました。
- 企業の話だけでなく、**政府や銀行の立場からの包括的な話**で理解が進み貴重な時間となった。
- 当フォーラムが「エネルギーの安定供給とカーボンニュートラルの両立」という困難な課題について改めて考える契機となりました。＜中略＞この貴重な機会**で得た学びを卒業論文および就職後の業務への取り組み方にぜひとも活かします**。

要望

- ＜前略＞**エネキャリ実施前から企業やSNSを通した広報を強化していただきたいです**。
- 対面の開催なので、**エネルギーに興味を持つ学生同士の交流があればよかった**と考える。
- ＜前略＞待ち時間で大半の時間が消費されてしまい、**各社から十分なお話をお伺いすることができなかったのが残念**です。
- ＜前略＞交流会では＜中略＞**パネルディスカッションをしてくださった方々からもお話を伺えるとより理解を深めることができたと感じた**。

3.10 イベント（当時の様子）



4

情報発信について

ターゲット像を以下の3ユーザーに定義し、広告配信の設計。

①大学1年生～大学2年生（理系文系問わず）



※写真はイメージです

ターゲット像

社会課題に関心を持ち、自ら様々な機会に参加するエネルギッシュな学生

年齢：18歳～20歳

居住：全国

大学：私大/国公/公立 大学

②大学3年生～大学4年生（理系文系問わず）



※写真はイメージです

ターゲット像

エネルギー問題に強い関心を持ちつつもエネルギー業界に前向きではない就職活動年代の学生

年齢：20歳～22歳

居住：全国

大学：私大/国公/公立 大学

③大学院生・博士（理系）



※写真はイメージです

ターゲット像

自分の専門領域が最も活かせる活躍の場を模索している、専門性の高い理系学生

年齢：22歳～25歳

居住：全国

大学：私大/国公/公立 大学

本事業（エネキャリ）では、講座参加学生とエネルギーキャリアフォーラム参加学生を対象に、2回のタイミングで集客施策として、広告配信を実施。

10/5(木)、10/22(日)、11/4(土)
11/18(土)、12/2(土)、12/9(土)

第1回～第6回講義

- 目的
- ・エネルギーを取り巻く状況について理解を深める
 - ・石油/天然ガス業界の既存の取組、そして新たな取組を理解する

第1回 「エネルギーと安全保障」
内閣官房 内閣参事官 早田 豪 氏

第2回 「世界のエネルギー動向」
ポスト石油戦略研究所代表 大場 紀章 氏

第3回 「エネルギーをめぐる旅」
『エネルギーをめぐる旅—文明の歴史と私たちの未来』 著者 古舘 恒介 氏

第4回 「日本の資源外交政策」
資エ庁資源開発課 課長補佐 平井 貴大 氏

第5回 「エネルギーの安定供給への挑戦」
(公社) 石油学会 教育委員 阿久津 亨 氏

第6回 「エネルギー業界の新しい取組」
京都大学名誉教授
(公財)深田地質研究所顧問 松岡 俊文 氏

11/17(金) 新潟
1/11(木)-1/12(金) 北海道

フィールドワーク

- 目的
- ・国内の開発現場が安定供給を支える重要な役割を果たしていることを理解する
 - ・エネルギー業界の最前線である開発現場で働く魅力を体感する

新潟 南長岡ガス田・直江津LNG基地



北海道 苫小牧CCS実証試験関連施設等



2/9(金) 経済産業省

プレゼンテーション

- 目的
- 就業希望意思を高めるために、上流開発企業の新たな挑戦に対するの当事者意識を醸成する

「上流開発企業が2050年に向けて【エネルギーの安定供給確保】と【カーボンニュートラル達成】を両立しつつ「収益の最大化」を実現するための事業計画を立案する。



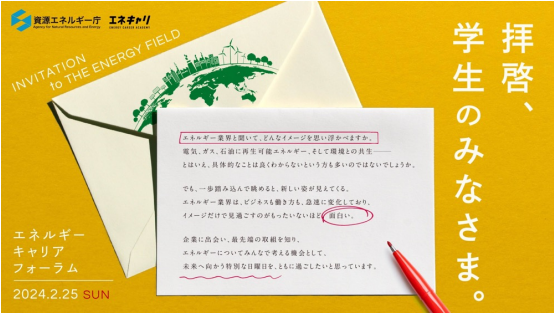
2/25(日)日本科学未来館 未来館ホール

エネルギーキャリアフォーラム

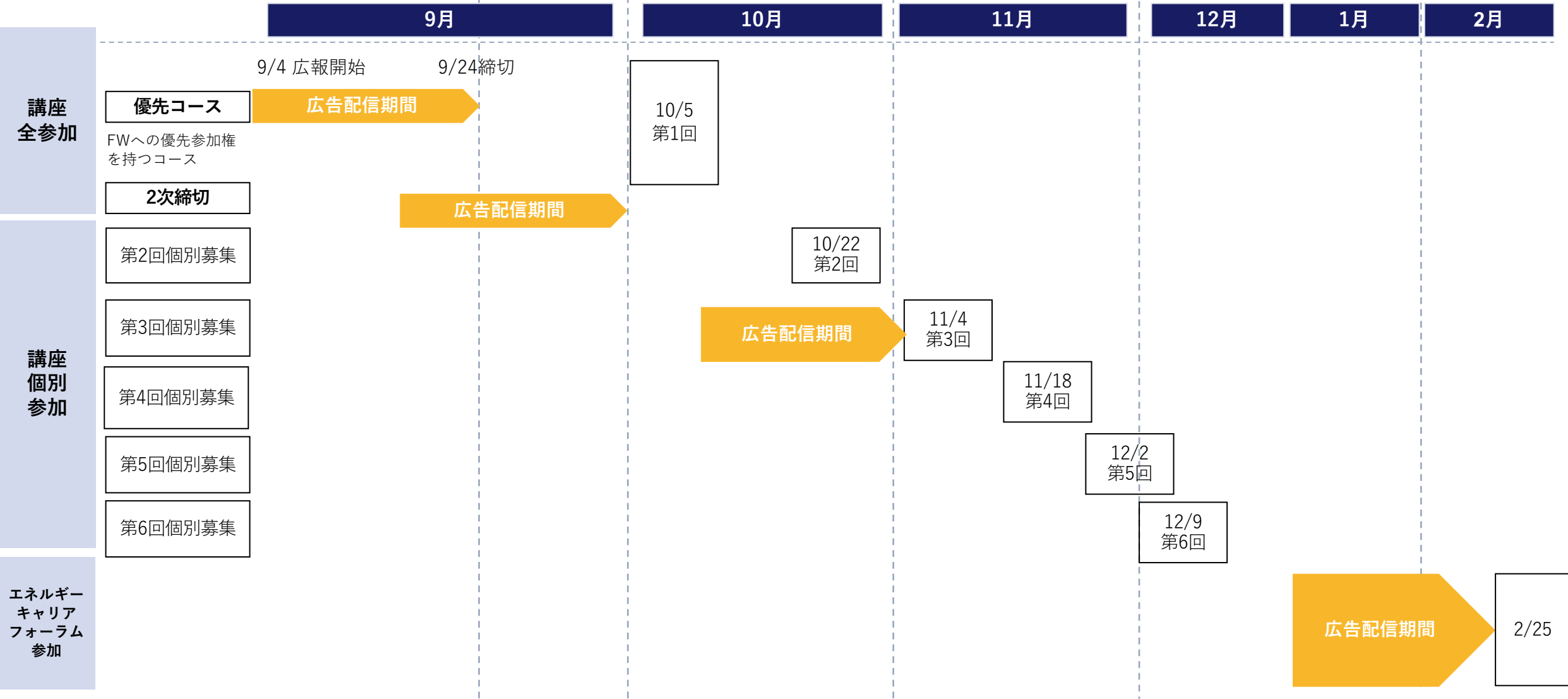
- 目的
- ・エネルギー業界の働き方と未来について理解を深める
 - ・これまでのイベントに参加していない学生に対してもエネルギー業界の魅力を伝える

※エネキャリ初参加の学生も対象

- ・業界での様々な取組についてパネルディスカッション等を実施
- ・2/9のプレゼンテーション審査の最優秀チームによるプレゼンテーション



全講座に参加する人を多く募るために、第1回の講義開催までの間は、全参加コースのみ募集を行った。第3回のみ対面参加者の集まりが少ないため個別広告配信を実施。また、エネルギーキャリアフォーラムは、1月末より開催間際の2月23日まで、広告配信を実施した。



本事業のターゲット像に適した媒体を選定し、広告配信を実施。

媒体	媒体概要	実施したターゲティング	講座募集での実施	エネルギーキャリア アフォーラム参加 学生募集での実施	選定理由コメント
	Google の関連サイト全体に掲載。Google検索やパートナーサイト、Google Play（検索結果／関連アプリセクション・トップページ）などにも掲載。	①18歳~26歳 男女・学生			ターゲット像に幅広く認知、訴求出来る媒体であると判断したため。
	Facebook のニュースフィード、Audience Network に属するパートナーのモバイルアプリ、Messenger に表示される媒体。	①18歳~26歳 男女・現役大学 ②興味関心エシカル/エネルギー 18歳~26歳 男女			ターゲット像が頻度高く利用している媒体であると予想されると判断したため。
	アプリをダウンロードする可能性の高いモバイルオーディエンスをターゲット。モバイル市場向けに最適化されたポストを表示することで、直接アプリをインストール。	①18歳~26歳 男女・学生			ターゲット像が頻度高く利用している媒体であると予想されると判断したため。
	TikTok For Businessは、TikTok、BuzzVideo及びPangleを介した多数のアプリへの広告配信を全てオンライン上で実施できるセルフサービスの広告。	①18歳~26歳 男女・学生			ターゲット像が頻度高く利用している媒体だと予想されると判断したため。

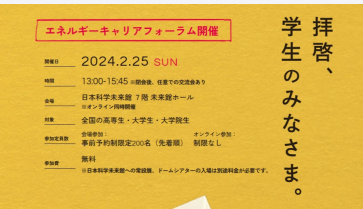
Webページは、事業概要ページ/イベント特設ページを制作し、記事は各講義及びイベント毎に作成。

エネキャリアLP



https://www.enecho.meti.go.jp/category/resources_and_fuel/enecaree/index.html

エネルギーキャリアフォーラムLP



サイトクローズ

世界・日本の最新のエネルギー動向を学ぶ特別講座①
「エネルギー概論 1 エネルギーと安全保障」 レポート



https://www.enecho.meti.go.jp/category/resources_and_fuel/enecaree/seminar_1/report/

世界・日本の最新のエネルギー動向を学ぶ特別講座②
「世界のエネルギー動向」 レポート



https://www.enecho.meti.go.jp/category/resources_and_fuel/enecaree/seminar_2/report/

世界・日本の最新のエネルギー動向を学ぶ特別講義③
「エネルギーをめぐる旅」 レポート



https://www.enecho.meti.go.jp/category/resources_and_fuel/enecaree/seminar_3/report/

南長岡ガス田・直江津LNG基地フィールドワークレ
ポート



https://www.enecho.meti.go.jp/category/resources_and_fuel/enecaree/niigata_fieldwork_report/

世界・日本の最新のエネルギー動向を学ぶ特別講義④
「日本の資源外交政策」 レポート



https://www.enecho.meti.go.jp/category/resources_and_fuel/enecaree/seminar_4/report/

世界・日本の最新のエネルギー動向を学ぶ特別講義⑤
「エネルギーの安定供給への挑戦」 レポート



https://enecho.dev.lib-stg.com/category/resources_and_fuel/enecaree/seminar_5/report/

世界・日本の最新のエネルギー動向を学ぶ特別講義⑥
「エネルギー業界の新しい取組」 レポート



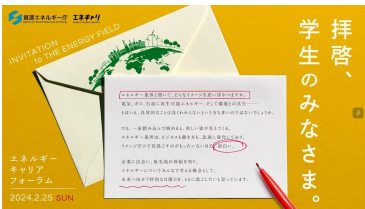
https://www.enecho.meti.go.jp/category/resources_and_fuel/enecaree/seminar_6/report/

苫小牧実証試験センター、勇払プラント、北海道製油
所フィールドワークレポート



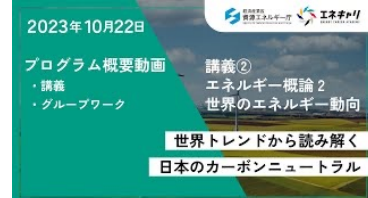
https://www.enecho.meti.go.jp/category/resources_and_fuel/enecaree/tomakomai_fieldwork_report/

エネルギーキャリアフォーラム
レポート



https://www.enecho.meti.go.jp/category/resources_and_fuel/enecaree/forum_report/

動画について、告知用動画1点/ダイジェスト動画8点/プログラム概要動画6点を制作、公開。

【2023年10月開校】 エネキャリ 未来を守る、攻めの学びを  https://www.youtube.com/watch?v=jyUEeONG8Wo 15,149回視聴	エネキャリ講義①「エネルギー概論 1 エネルギーと安全保障」  https://www.youtube.com/watch?v=4UeqXvYPqPY 653回視聴	エネキャリ 第1回（2023年10月5日（木））プログラム概要  https://www.youtube.com/watch?v=y-WoZFJVzPk 236回視聴	エネキャリ講義②「エネルギー概論 2 世界のエネルギー動向」  https://www.youtube.com/watch?v=zpq4TU5vLsE 706回視聴	エネキャリ 第2回（2023年10月22日（日））プログラム概要  https://www.youtube.com/watch?v=gvo4TcBYs_8 218回視聴
エネキャリ講義③「エネルギー概論3 エネルギーをめぐる旅」  https://www.youtube.com/watch?v=Uq29GBTMF-k 482回視聴	エネキャリ 第3回（2023年11月4日（土））プログラム概要  https://www.youtube.com/watch?v=IPi7Ldg9Foc 192回視聴	新潟フィールドワーク ダイジェスト動画  -	エネキャリ講義④「日本の資源外交政策」  https://www.youtube.com/watch?v=AUwE1XvoUeE 211回視聴	エネキャリ 第4回（2023年11月18日（土））プログラム概要  https://www.youtube.com/watch?v=Dijdo3tJkE 68回視聴
エネキャリ講義⑤「エネルギーの安定供給への挑戦」  https://www.youtube.com/watch?v=TNyOJsFVf3I 170回視聴	エネキャリ 第5回（2023年12月2日（土））プログラム概要  https://www.youtube.com/watch?v=8sne2mJtP_A 69回視聴	エネキャリ講義⑥「エネルギー業界の新しい取組」  https://www.youtube.com/watch?v=3iXLFrjExPU 140回視聴	エネキャリ 第6回（2023年12月9日（土））プログラム概要  https://www.youtube.com/watch?v=IFPjLLHikK 67回視聴	エネルギーキャリアフォーラム ダイジェスト動画  https://www.youtube.com/watch?v=_WMmFYVTWxg -

講座参加学生募集では、以下の静止画バナー5点/動画バナー2点を制作、配信。

■ 静止画

【 15秒版 】



■ 動画



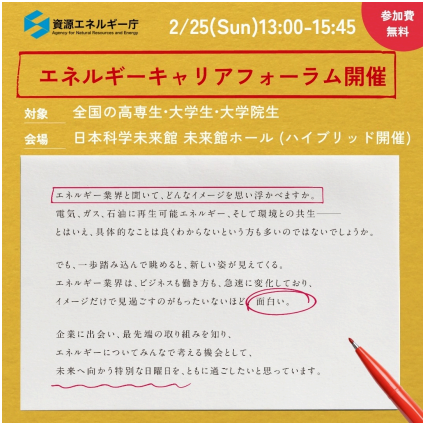
<https://fb.me/1FTBpWpHsiqRhLR>



<https://fb.me/1GQfJIXE2eKTdcb>

エネルギーキャリアフォーラム参加学生募集では、以下の静止画バナー5点/動画バナー2点を制作、配信。

■ 静止画



■ 動画



<https://fb.me/1FTBpWpHsiqRhLR>



<https://fb.me/2xdfdVhxrhAK5tk>

広告により、合計で約680万回表示と約4.3万回のクリックを獲得

媒体	広告タイプ（配信面）	ターゲティング	表示回数	クリック数	クリック率
	バナー & 動画広告	①18歳～26歳 男女 学生	4,090,376	27,136	0.66%
	バナー & 動画広告	①18歳～26歳 男女 学生 ②興味関心エシカル/エネルギー 18歳～26歳 男女	1,122,788	4,463	0.40%
	バナー広告	18歳～26歳 男女 学生	1,194,467	3,455	0.29%
	動画広告	18歳～26歳 男女 学生	373,692	7,892	2.11%
合計			6,781,323	42,946	0.63%

広告により、合計で約640万回表示と約2.6万回のクリックを獲得

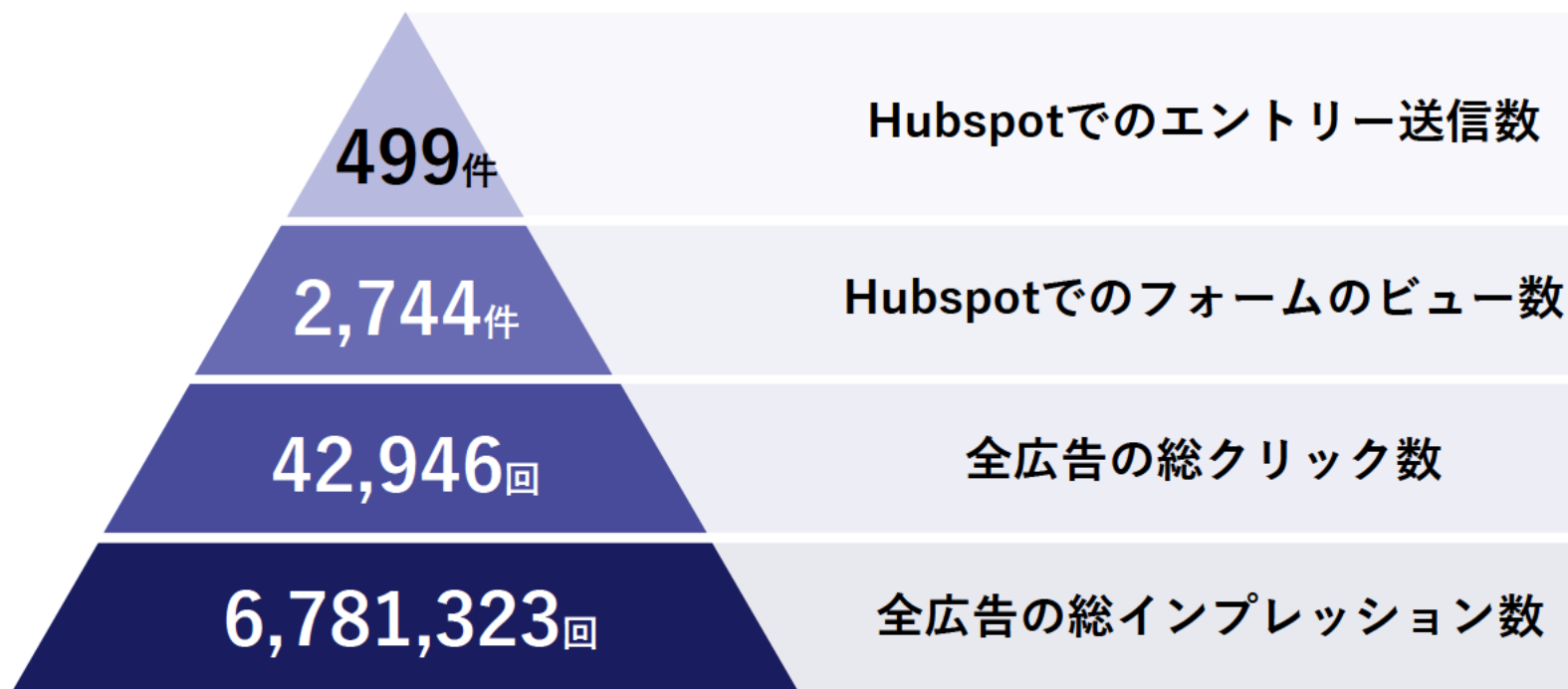
媒体	広告タイプ（配信面）	ターゲティング	表示回数	クリック数	クリック率
	バナー & 動画広告	①18歳～26歳 男女 学生	1,077,761	6,704	0.62%
	バナー & 動画広告	①18歳～26歳 男女 学生 ②興味関心エシカル/エネルギー 18歳～26歳 男女	4,471,224	16,570	0.37%
	バナー広告	18歳～26歳 男女 学生	605,926	496	0.08%
	動画広告	18歳～26歳 男女 学生	234,761	2,707	1.15%
合計			6,389,672	26,477	0.41%

5

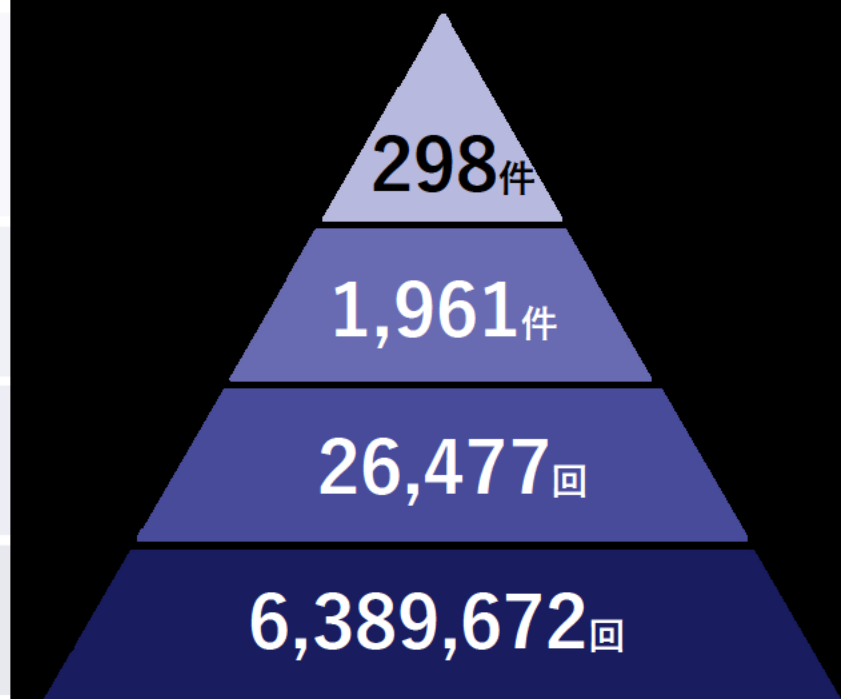
「エネキャリ」の実績と成果

本事業では、講座（第1回から第6回）への参
「エネルギーキャリアフォーラム」イベントで告知、
これらの活動を通じて、約1300万回の広告閲覧と、約800

エネキャリ全体の集客



エネルギーキャリアフォーラムの集客



エネキャリのプログラムに一度でも参加した方は400人を上回る結果となった。
また、その内の1割強の49人もの参加者が7回以上プログラムを受講する常連参加者となり、
「エネキャリ」を通じたコミュニティが形成されたといっても差し支えないであろう。

情報発信における事業成果

エネキャリ事業に際して制作した動画の
YouTube 総視聴数

18,361回 *視聴回数は2024/03/25 18:00時点

人材育成における事業成果

49人

①常連参加者
7回以上講義・イベントに参加した方*

164人

②継続参加者
複数回講義・イベントに参加した方

422人

③一般参加者 *エネルギーキャリアフォーラムも含む
1度でも講義・イベントに参加した方

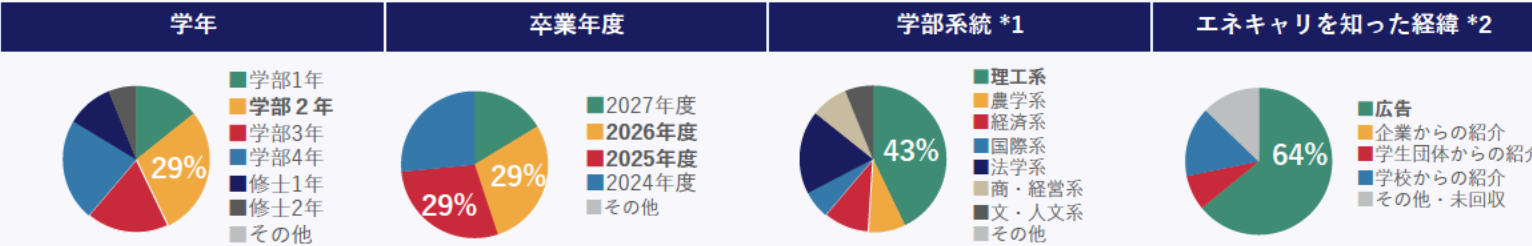
545人

④Slackの登録者
エネキャリSlackに登録した方

*常連参加者の定義について。全10回のプログラムのうち、選考が不要なものが7回であること、また、全6回講義のうち、一部の講義に日程の都合で不参加となったが、フィールドワークやプレゼンなど他の機会への参加を行っている参加者を判断する線引として、7回以上と区切ることが妥当だと判断した。

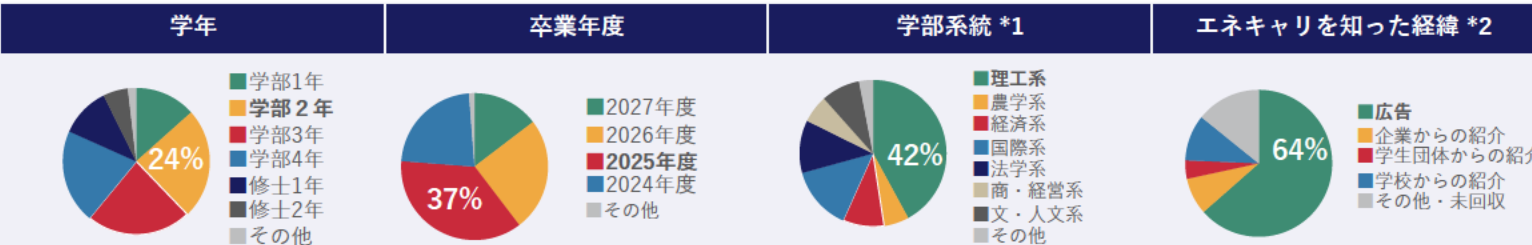
学部2年や2026年度卒が多く、就活機会以上のメリットを感じている人が常連参加者となっている傾向が見られる。
常連参加者、継続参加者の60%以上が広告経由での認知であり、継続率が高い理由に能動的な機会選択が推測される。

常連参加者



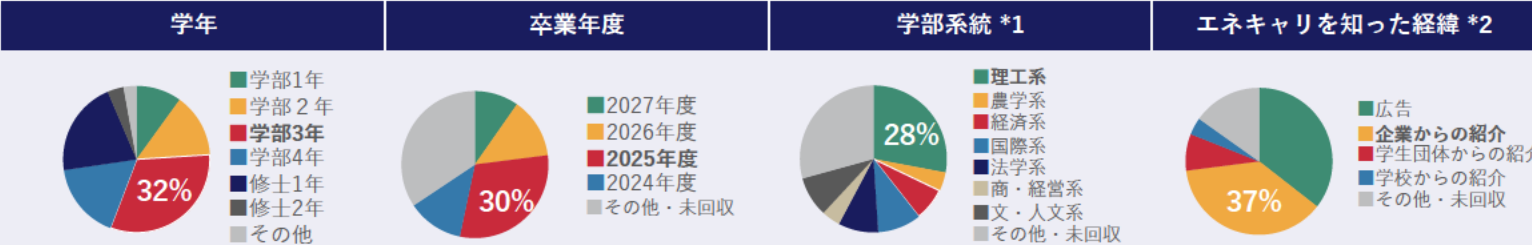
*1 卒業年度と学部系統について(全数 618人)
エネルギーキャリアフォーラムのみへのエントリー者からは未回収

継続参加者



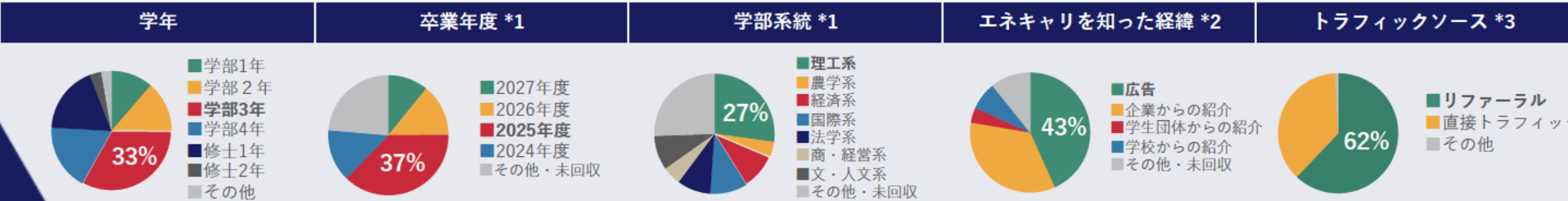
*2エネキャリを知った経緯について(全数 762)
エネキャリエントリーフォームとエネルギーキャリアフォーラムエントリーフォームの2つを合算して計算。重複を含む。

一般参加者



*3トラフィックソースについて(全数802)
・リファerral...Webサイトのエントリーボタンを経由
・直接トラフィック...エントリーフォームのURLから直に流入
エネキャリエントリーフォームとエネルギーキャリアフォーラムエントリーフォームの2つを合算して計算。同一人物の複数回接続も計測されてしまうため、分母が大きい。

Hubspotエントリー学生
618人*重複者は除く



6

全体評価

参加者向けアンケート概要

目的

今後、より有意義な人材育成事業を実施するための参加者の評価の収集

調査期間

2024年2月28日～2024年3月19日

調査対象

エネキャリの講座に一度でも参加いただいた学生277人

調査方法

電磁的方法（HubSpot）

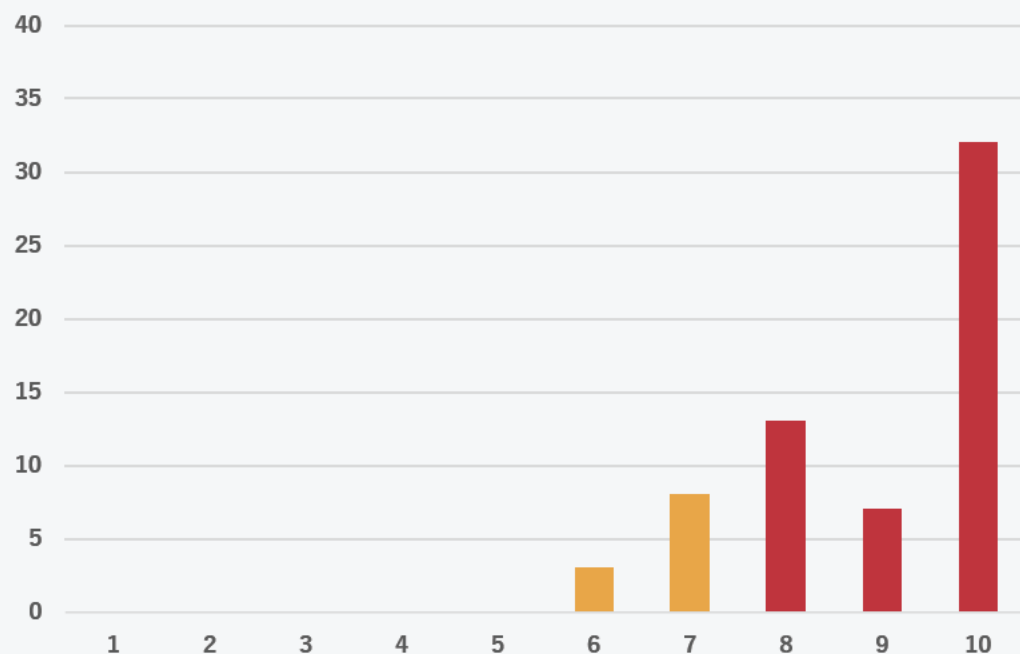
回答状況

64件

就活以上に学習機会として非常に高い満足度を記録

エネキャリ事業全体の満足度(平均8.9)

(設問) エネキャリ全体を通しての満足度を教えてください。

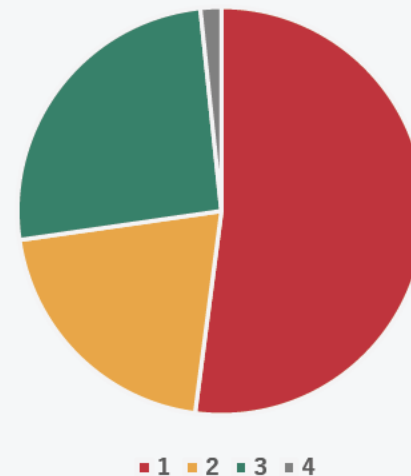


解説

事業全体を通して満足度平均は8.9と高い水準であり、そのうち、**回答の半数の32人が満点**の評価であった。
なお、「6」と回答している参加者については、途中でプログラム参加を辞めており、その理由は**周りの学生と自分の能力値の差分**にあったと回答している。

エネキャリに参加して得られたもの

(設問) エネキャリに参加して得られたものとして当てはまるものをすべて選択してください。*複数選択可



[回答内容]

- 1:エネルギー業界への関心を持つことができ、役立つ情報や知見を得られた
- 2:就職活動に向けた情報収集ができた
- 3:同じような志をもつ仲間と出会えた
- 4:その他

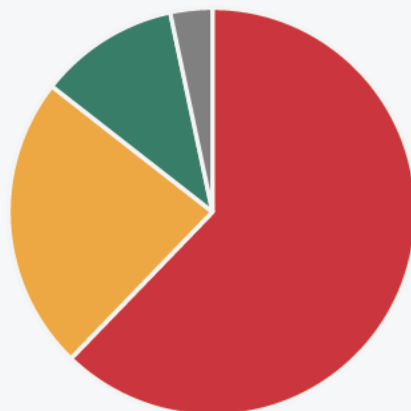
解説

当初の想定通り、**学習メリット**があったという回答が最も高い割合であった。また、想定以上に「仲間と出会えた」という人脈に関する回答が就活メリットの回答を上回る結果となった。この結果からも**一定程度エネキャリのコミュニティとしての訴求力**があったことが伺える。

能動的で学習意欲が高い参加動機が多く、日程の都合さえつければより多くの継続参加が見込めた

参加動機

(設問) エネキャリへの参加動機として
当てはまるものを全て全てしてください。*複数選択可



■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4

[回答内容]

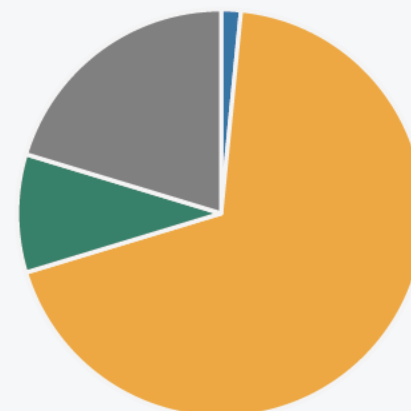
- 1: 自らの研究や学習の一環として
- 2: 就職活動の情報収集の一環として
- 3: 学校の先生や友人、知人に勧められて
- 4: その他

解説

参加動機で最も多かった軸は、研究や学習の側面であった。先述の「エネキャリに参加して得られたもの」の結果から鑑みても参加動機との期待値の乖離は少なかったと考えられる。

継続参加不可能要因

(設問) 参加していないプログラムについて、
不参加の理由として最も近いものを選択してください。



■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4

[回答内容]

- 1: コンテンツに興味がなかった
- 2: 日程の都合が合わなかった
- 3: エネキャリのイベント情報を知らなかった
- 4: その他

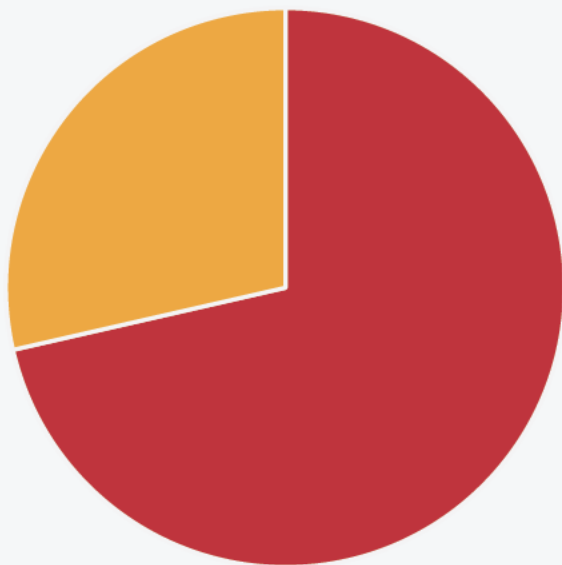
解説

継続参加が続けられなかった最大の理由として、**日程が合わなかった**ことが挙げられた。また、次点にイベント情報の未認知が挙げられており、大半の参加者がコンテンツ内容そのものではない要因によって継続不参加に至っていることが判明した。

7割以上の参加者に対して上流開発業界に対する魅力づけを行うことができた

志望先として上流開発業界がなりえたか

(設問) エネキャリに参加して、エネルギー上流開発業界も志望先の選択肢の一つになりましたか。*複数選択可



■ はい ■ いいえ

解説

回答者の7割を上回る方が上流開発業界への志望を検討する結果となった。

上流開発業界に対するイメージの変化

(設問) エネルギー上流開発業界に対する、イメージの変化や新たに得た学びについて教えてください*複数選択可

- エネルギー業界は斜陽産業というイメージを少し持っていたが、各企業CO2削減のための新規事業を進めており、むしろこれから重要性が増していく産業であるということに気づかされた。
- エネキャリ参加前は、正直その業界についてよく知らなかった。元々の興味は気候変動などに寄っていたので、むしろCO2排出が大きいというネガティブなイメージだった。しかし、講座を通して、その業界が、国家の生命線であるエネルギーの安定供給とカーボンニュートラルを両実現するためにさまざまな取組をしていることを知って、見方が一面的でなくなり、ネガティブな印象はなくなった。
- 権益交渉を主体とするビジネスへの関心が高まった。ダイナミックで世界の先頭に立って、エネルギーの商流を作る事の魅力、講義を聞きながら感じ、自身もその世界で活躍する一員になりたい。

解説

大半の学生がポジティブな印象変化を回答しており、中でも従来は産業の発展性や環境への配慮といった側面においてネガティブなイメージであったが、それが転換し挑戦的で魅力的な業界に感じたといった旨の回答が数多く得られた。

参加者の感想（抜粋）

優良項目

- 参加を通して、大きく人脈形成と視野の拡大が一番の成果だった。＜中略＞何より自身の目標の1つに「エネルギー」という就活軸が加わったのが大変意義深い事である。さらに、参加を通して日本の資源供給がいかに不安定さを帯びているかが体感できた。＜中略＞そこで、将来的には資源開発の上流でビジネスの交渉や開発責任者として現地に根付くキャリアを築きたい。
- アカデミックな場にはなかなかない文理の壁を越えた枠組みで、エネルギーの上流開発や資源外交政策について学びを深めることが出来、とても有意義な機会でした。＜中略＞優秀かつ好奇心旺盛な学生各々が、些細な疑問や気づきから発せられた質問を通して、参加した全員の知識が積み上がっていく光景はエネキャリならではの光景でした。＜中略＞この機会を恵んでもらった者としての務めをこれからしっかりと果たしていきたいと思います。
- 非常に多くの学びを得たとともに、この業界に対する関心度合いが上昇しました。
- 大学に入っても専門で持っているところは少なく知れないと思っていた上流業界を、実際に携われている方と沢山話せて実地にも行け本当にたくさん勉強できました。たくさんの意欲的な同級生と交流できたことでビジネスコンテストに出す勇気を得られました。
- ＜前略＞今後エネルギー業界を自らが引っ張っていけるような人材になりたいと思います。
- エネルギーについての学びを深められたのはもちろんのこと、参加者の方と知り合うことができ、今でもエネキャリストとの交流が続いており、私の人生に大きな影響を与えたプログラムでした。

要望

- 自分の居住地が会場から遠く、オンラインでの参加が主になった。対面とオンラインで多少の差異があるのはやむを得ないと思うが、参加するモチベーションの維持に多少苦戦した。
- ＜前略＞前半の講義ではグループワークがありましたが、その達成度についてはグループごとに様々であったように感じました。＜中略＞より明確な問題設定をした方がよいと思いました。＜中略＞可能ならば、就職活動を前提とした話をする回とエネルギー業界の取組に関する話をする回を分けてもよいと思いました。
- とても興味深かったが、日程が合わなかったのが非常に残念でした。

協力企業向けアンケート概要

目的

今後、より有意義な人材育成事業を実施するための協力企業の評価の収集

調査期間

2024年3月11日～2024年3月18日

調査対象

エネキャリプログラムにご協力いただいた方（7企業20-30人程度）

調査方法

電磁的方法（Google Forms）

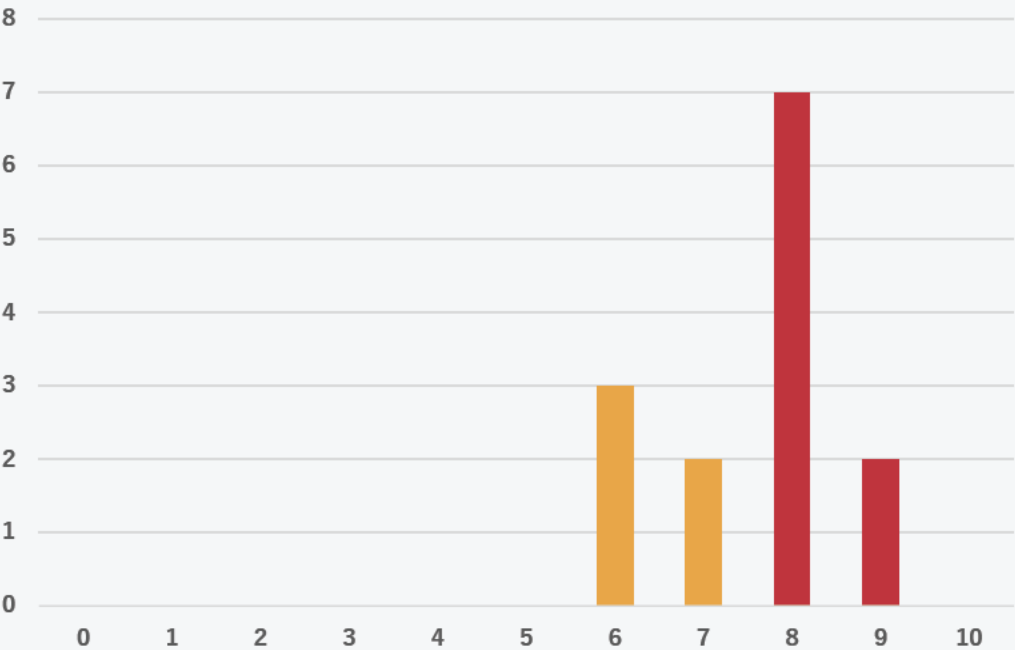
回答状況

14件

事業目的に適うブランディングメリットを最も感じていただき、平均的に高い満足度を獲得した

参加満足度（平均7.6）

（設問）「エネキャリ」の満足度をお答えください。（10段階評価）

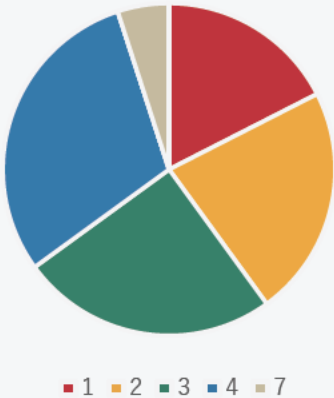


解説

全体的な満足度としては低い水準ではないが、講義⑥にご協力いただいた、流通・精製企業3社様からの回答は全て「6」と期待に答えられない結果となってしまった。中には、企画内容や、事前案内、当日の運営や進行等の改善のご要望もあった。

満足度の背景について

（設問）「エネキャリ」にご参加いただいて感じたこととして、当てはまるものを以下の中からご選択ください。*複数選択可



【回答内容】

- 1:優秀な学生に出会えて、自社の新卒採用へ良い影響がある
- 2:学生とのかかわりを通じて自分自身の学びや経験に繋がる
- 3:経済産業省や、同業他社との関係性の構築、情報交換の場になる
- 4:エネルギー業界の広報（ブランディング）に繋がっている
- 5:出会う学生層が自社の採用基準に合致せず、費用対効果が高くない
- 6:同業他社への機密情報の流出のリスクがある
- 7:準備事項が多く、普段の勤務や業務が圧迫される
- 8:その他

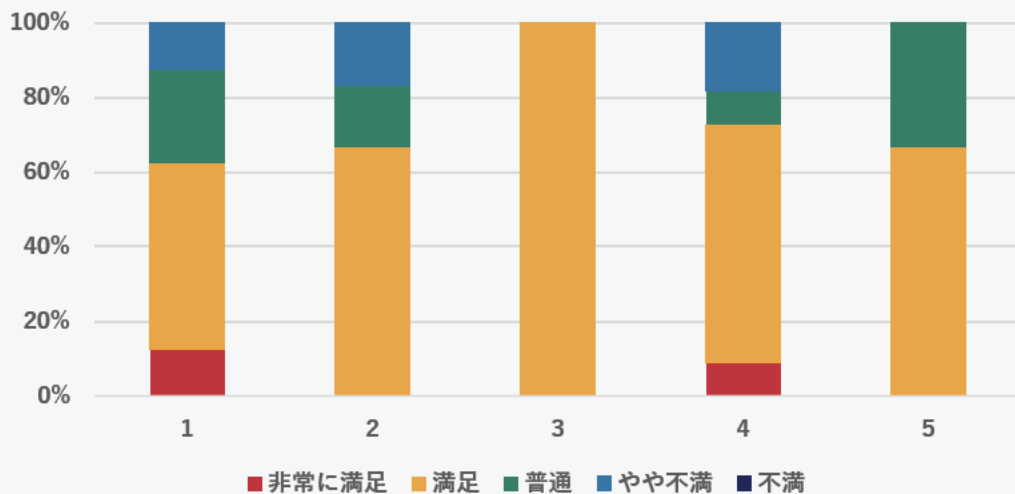
解説

満足度への貢献要因として、企業や業界のブランディングのメリットを感じられたという回答が最も多かった。これは事業の趣旨に沿った結果である。次点に他社との情報交換が位置づけられており、意外にも採用メリットを上回る結果となった。

フィールドワーク受け入れでは高い満足度の一方、複数企業と調整が必要なプログラムで改善の余地がある

参加プログラム別満足度

(設問) 事業を通じてご協力いただいたプログラムそれぞれの満足度をお答えください。



[各プログラム内容]

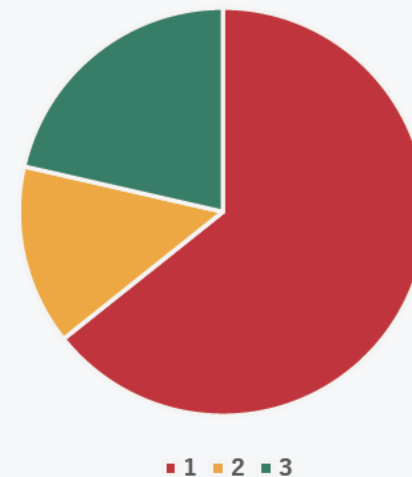
- 1:企業紹介プレゼンテーション
- 2:パネルディスカッション
- 3:事業所見学（フィールドワーク）対応
- 4:学生との交流会（ブース対応）
- 5:経済産業省でのグループワーク(2024/2/9)

解説

プログラム別満足度では、フィールドワークにご対応者からは高い評価をいただいた。一方で企業紹介プレゼンと学生交流会で「やや不満」という回答をいただいた。背景として事前の企業ごとの発表内容のすり合わせ不足や、当日の会場設営の段取り不足が挙げられる。

参加プログラムの時間配分について

(設問) ご参加いただいたプログラムの時間配分について最も当てはまるものをご選択ください。



[回答内容]

- 1:今回のプログラムの時間配分で満足している
- 2:企業紹介の時間をもっと増やしてほしい
- 3:学生との個別交流の時間をもっと増やしてほしい

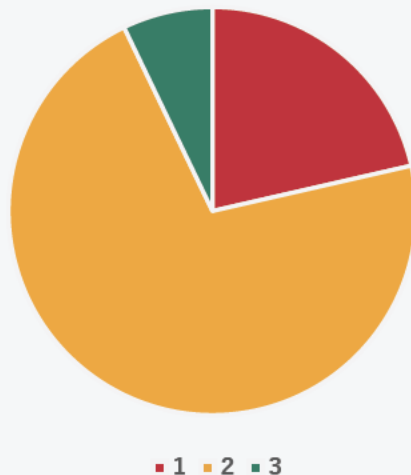
解説

時間配分については概ね満足いただいている。企業紹介の時間の拡充は実際にご登壇なさった人事部の方であったため、**企業紹介時間としては短い印象**を与えてしまったと思われる。また、学生交流の時間の拡充を希望されている方は全員フィールドワークで学生と交流なさった方であり、**優秀な学生とより交流を図りたい**という意図だと推察できる。

招聘企業数は拡大希望がある一方、参加対象については概ね現状維持の要望

招聘する企業数について

(設問) 招聘する企業について最も当てはまるものをご選択ください。



[回答内容]

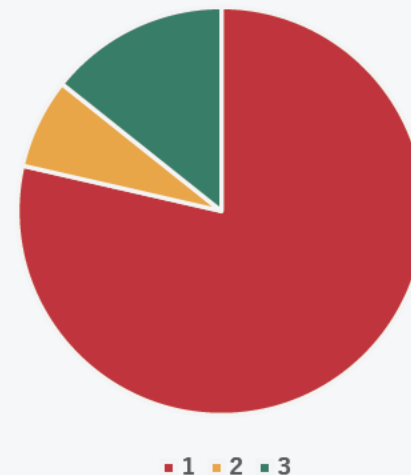
- 1: 業界を広げて招聘する他企業を増やしてほしい
- 2: 同業界でより多くの協力企業を巻き込んでほしい
- 3: 招聘する業界も、協力企業も絞ってほしい

解説

最も多い回答が「同業界でより多くの企業を巻き込んでほしい」といったもので、「業界を広げて招聘する他企業を増やしてほしい」と合わせると**招聘企業数の増加希望が9割を越える結果であった。**

事業の対象者の範囲について

(設問) 対象者について最も当てはまるものをご選択ください。



[回答内容]

- 1: 対象は今年度と同様に大学生、大学院生でよい
- 2: 対象を高校生まで広げてほしい
- 3: 対象を高校生や中学生まで広げてほしい

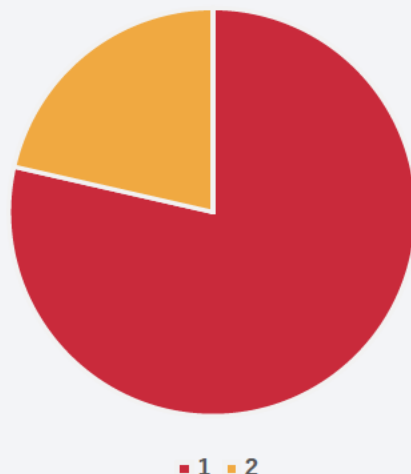
解説

参加対象としては、今回の**大学生、大学院生という枠で概ね満足**いただいている。新卒採用の期待値としても、業界の知識の学習者としても妥当であろう。一方でJX石油資源開発の担当者の2名様からは、同様に対象を広げてほしいという要望が挙がった。

人材育成事業の企業ニーズは非常に高く、特に自社保有施設での見学誘致には積極的である

人材育成事業の必要性について

（設問）人材育成事業の必要性についてどのようにお考えですか。



【回答内容】

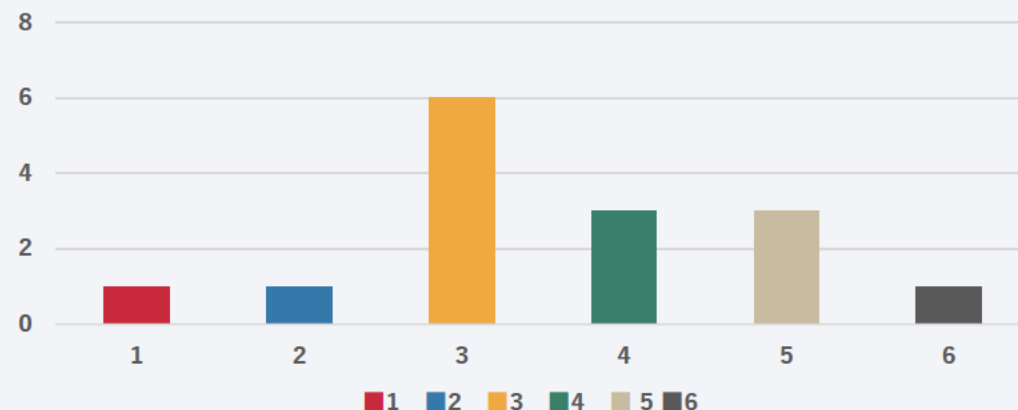
- 1:強く必要だと思う
- 2:どちらかといえば必要だと思う
- 3:どちらかといえば必要だとは思わない
- 4:全く必要ないと思う
- 5:どちらでもない

解説

人材育成事業の必要性については、全社ともに必要であると回答しており、エネルギー業界（特に上流開発に関連する業界）にとって**本事業の意義は非常に大きい**ことが伺える。

今後の協力方針について

（設問）今後、人材育成事業にご協力いただける場合、貴社の方針として当てはまるものをご選択ください。*複数選択可



【回答内容】

- 1:協力する社員の人数を増加させたい
- 2:協力する社員の人数を縮減したい
- 3:自社の保有施設への見学を積極的に受け入れたい
- 4:自社の保有施設への見学を慎重に検討したい
- 5:本年同様に協力したい
- 6:同業他社の参加状況や企画内容により検討したい。

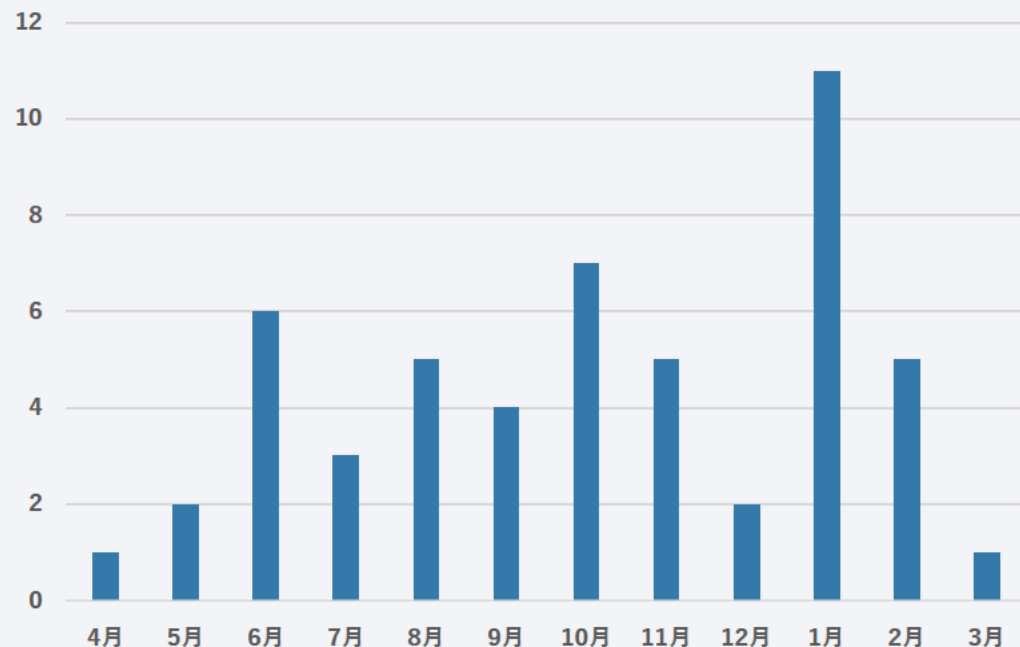
解説

今後の協力方針として、最も多かった回答は、「自社の保有施設への見学を積極的に受け入れたい」であった。一方で、「協力を検討したい」といった声もあり、協力を仰ぐためには、**個社それぞれに参加のメリットを明確に提示する**必要があるだろう。

企業様への協力量針としては3-4月を避けた上で、交流機会へのご協力依頼が適している

イベント開催、参加の希望時期

(設問) ご協力いただける場合、イベントの開催時期、ご参加するタイミングとして希望の月をご選択ください。



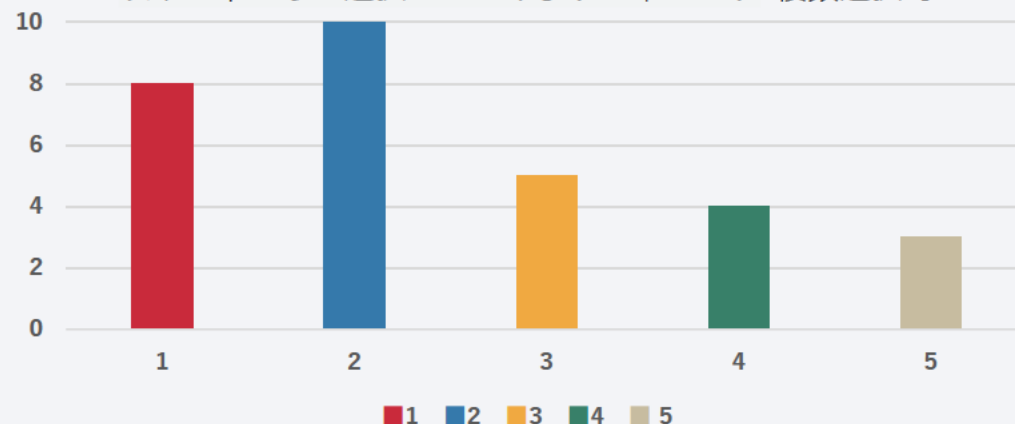
解説

企業を招聘するイベントの開催時期として1月が最高値であった。リクナビ*によれば学部生の就活開始時期は3月が高い傾向にあるが、このアンケートでは最も低い値であり、協力企業の方が**本事業**を就活と強く関連付けておらず、前段階の認知・ブランディングの場として捉えていることがわかる。

*<https://job.rikunabi.com/contents/howto/10144/>

協力可能事項について

(設問) 今後、人材育成事業を行う場合、貴社としてご協力頂けるものがございましたら以下の中からご選択いただけますと幸いです*複数選択可



[回答内容]

- 1: オフィスツアーや現場見学、事務所見学等、体験型プログラムの提供
- 2: ランチ会や座談会等、交流機会の提供
- 3: グループワークやグループディスカッション等、学習機会の提供
- 4: インターンシップや就業体験等、実践機会の提供
- 5: プレスリリース等、事業の広報への協力

解説

各企業とも協力可能事項について、幅広くご回答いただいた。最も多かった回答は交流機会の提供で、背景としては、準備やアサインコストを鑑みても最も取り組みやすい事項であることが考えられる。一方で、**次点に体験型プログラムの提供**が位置しており、様々な施設を保有している業界の特徴として見て取れる。

継続、要望事項を踏まえた今後の事業への提案は以下の通り

継続項目

1. オンライン、対面ハイブリッドでの開催形式。
2. 参加者が能動的に発言できるグループワークの設計、実施。
3. 対面に加え、Slack等のオンラインコミュニケーションツールを用いた、運営も含めた参加者同士の双方向のコミュニケーションの場の提供。
4. フィールドワーク、現地視察。
5. 講師や企業登壇者と学生の質問機会、交流機会を潤沢に確保する。
6. 大学生と大学院生向けの重点告知

改善項目

1. 学生の参加しにくい平日や企業の参加しにくい休日でのイベント開催。
2. 企業招聘の依頼内容がイベント間際になり、準備に負担をかけてしまったこと。
3. 協力企業様側の積極性、自発的な意見を引き出せなかったこと。
4. インターンへの接続等、企業様の提供できる機会の最大化ができていないこと。
5. FW現場として国内拠点は限られているため、発展性が乏しい。
6. 現場見学まで含めて全て無料での実施。機会の平等化という意味ではポジティブな側面もあるが、その一方で「サービスの享受者といった」が高まり、主体的な学びの阻害となってしまう可能性も。
7. グループワークでチームワークを高めるプログラムが少なかったこと。
8. 地方開催で現地参加学生の集客が乏しく、各都市を巡って行う意味を最大化できなかったこと。
9. 単年度予算が故に、卒業生コミュニティ等の連続性を持った事業計画が困難なこと。
10. 協力企業にエネキャリでの接点や発信コンテンツの活用推奨。
11. 学習機会の最大化の観点から、事業期間中に可及的速やかに講義レポートを更新していくこと。

新規挑戦項目

1. 開催時期について、学生の夏休みで短期集中で深めることと、中期的に講義を実施するのはあり。学生の休みで且つ企業の平日が適切。
2. 企業側の積極性、自発的な意見を引き出すため、プログラム開発のプロセスに巻き込むコミュニケーションを図ること
3. インターンシップへの接続等、企業の提供する機会の最大化を図る。
4. 視察現場として国内拠点が限られており、発展性が低いため、業界の海外キャリアを訴求するのであれば、現地講師招聘や、海外拠点視察なども視野にいれるべき。
5. 地方開催ではなく、交通費補助等で地方学生に参加機会の平等性を担保したうえで開催場所と時期を集中させて実施。
6. 年度内に複数回、短期集中型のプログラムを行うことで、シリーズ化、卒業生のコミュニティが可能。
7. エネキャリでの接点をUGCとして、企業側に利活用していただくように推奨。
8. 学習機会の最大化の観点から、事業期間中に講義レポートがアップロードできるようにする。